

授業科目名	アニマルビジネス	開講学科	ペットスペシャリスト科		
開講科目名	独立開業ゼミ	開講年度	2021	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
		開講科目英名	Seminar for Opening Own Business	授業形態	講義・演習
講師名					
実務経験概要	外資ペットフードメーカーに於ける輸入計画・販売計画の立案。企画販売およびセミナー開催・講演。 独立後ペット用品流通業界でのコンサルティング・販売促進を手掛けながら、自ら輸入ペットフードの販売や総合ペットショップを運営。				
授業の概要・目的					

経営の基本、マーケティングの基本、マネジメントの基本、物流と商流の基本、ディスプレイの基本を学習。
メーカー訪問・・・メーカーマーケティング/商品開発のレクチャー
卸企業訪問　・・・問屋マーケティング/物流業としての在庫から出荷までの流れのレクチャー。
模擬店出店　・・・学生自らがテーマ(コンセプト)を決めて、商品選定/POP/ポスター作製、陳列、接客販売を体験する。
独立開業の有無を問わず、業界人としてのスキルを身に着けることによって、社会人としての活躍の基礎となす。

到達目標					
○可能な限りの即戦力性の育成 ○自立性の育成					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ペット業界の現状を知ることにより理解を深める	16	経営の基本③ペットショップ、ペットサロン経営の基本的考え方		
2	物流、商流とは何か。物流の在り方と重要性/問題点	17	会社設立のためのプランニング		
3	日本の商習慣と業態別商流の問題点	18	マネジメントの基本①組織マネジメントとは		
4	メーカーマーケティング(メーカー訪問)	19	マネジメントの基本②自己管理、部下の管理、目標設定と計画立案、アクションとレビュー		
5	卸業マーケティング(卸企業訪問)	20	マーケティングの応用①自己のペット業界における位置付けから考えるマーケティング。美容、物販、訓練、カフェ、生体販売それぞれの角度から考える力を養う。		
6	マーケティングの基本①価格ストラクチャーと粗利計算、商品知識	21	マーケティングの応用①自己のペット業界における位置付けから考えるマーケティング。美容、物販、訓練、カフェ、生体販売それぞれの角度から考える力を養う。		
7	マーケティングの基本②ペットショップマーケティング	22	マーケティングの応用②ペット専門店のマーケティング。今後の国内専門店が目指すべき方向を考え、どのようなマーケティングを行えば良いかを導き出す。		
8	マーケティングの基本③ビジネスプラン/戦術(tactic)と戦略(strategy)	23	業界展示会見学(日本ウエイン株式会社を予定)		
9	ディスプレイの基本①ディスプレイとは何か。そのセオリーと役割	24	ドッグイベントでの模擬店出店準備①　コンセプトと内容のプランニング		
10	ディスプレイの基本②ディスプレイの応用(校外でのショップ見学)	25	ドッグイベントでの模擬店出店準備②商品設定(ペット商事)		
11	ディスプレイの基本③ペットショップディスプレイ(ペットコロニーくずは店)	26	ドッグイベントでの模擬店出店準備③POP・ポスター作製		
12	経営の基本①経営とは何か。会社とは何か。株主・役員・社員の役割	27	ドッグイベントでの模擬店出店④接客販売体験		
13	経営の基本②マーケットに於けるペット業界の位置付けとその特殊性	28	WeareECO模擬店　コンセプトと内容の決定　商品選定(ペットコロニーくずは店)		
14	前期授業のまとめ	29	WeareECO模擬店　POP、ポスター作製		
15	振り返り	30	年間の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	前期/筆記試験　　後期/実技評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットスペシャリスト科		
開講科目名	グルーミング演習Ⅱ	開講年度	2021	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Basic GroomingⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	短時間でグルーミングトリミングを身に付ける事を目標とし作業手順を組み立て、計算しながらトリミングを行う。初めは二人で一頭をトリミングするが、最終的には一人で2コマの間に一頭を仕上げられるようにします。				
到達目標	即戦力になるためのトリミング技術、犬のコントロール、心構え、作業手順を身に付けてもらいます。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	二人で一頭を3時間以内に仕上げる	16	一人一頭をニコマ以内に仕上げられるようにする		
2	二人で一頭を3時間以内に仕上げる	17	一人一頭をニコマ以内に仕上げられるようにする		
3	二人で一頭を3時間以内に仕上げる	18	一人一頭をニコマ以内に仕上げられるようにする		
4	二人で一頭を3時間以内に仕上げる	19	一人一頭をニコマ以内に仕上げられるようにする		
5	二人で一頭を3時間以内に仕上げる	20	一人一頭をニコマ以内に仕上げられるようにする		
6	作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す	21	A級検定		
7	作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す	22	A級検定		
8	作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す	23	一人でする場合の作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す		
9	作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す	24	一人でする場合の作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す		
10	作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す	25	一人でする場合の作業内容の組み立て、効率アップ、時間短縮を目指す		
11	カットの時間配分、荒刈り時間の短縮を決めて作業する	26	効率のいい作業を研究し、短時間に美しい仕上がりを目指す		
12	カットの時間配分、荒刈り時間の短縮を決めて作業する	27	効率のいい作業を研究し、短時間に美しい仕上がりを目指す		
13	総括・授業内評価・スピード、手際、コントロール、意欲	28	総括・授業内評価・スピード・手際・コントロール・意欲		
14	カットの時間配分、荒刈り時間の短縮を決めて作業する	29	効率のいい作業を研究し、短時間に美しい仕上がりを目指す		
15	カットの時間配分、荒刈り時間の短縮を決めて作業する	30	効率のいい作業を研究し、短時間に美しい仕上がりを目指す		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	授業内評価・スピード・手際・コントロール・意欲・出欠・提出物などで評価します				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットスペシャリスト科		
開講科目名	トリミング演習Ⅱ	開講年度	2021	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of GroomingⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	90(6)
講師名					
実務経験概要					
授業の概要・目的	犬の体形、毛質、毛量、要望を考え、スピーディーにバランスよく美しく仕上げる。犬の性質、気質、気持ちを察してあげながらコントロールし、ストレスをためないようにしてあげる。				
到達目標	即戦力となるグルーミング、トリミングを身に付け、同時に犬に対する配慮と、その先にいる飼い主様に満足してもらえるトリマーを目指す。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ベーシックを再確認し、苦手な作業の克服とスピードアップ	16	スピード、バランス、チッピングを考慮し、その犬に合った仕上がりを目指す		
2	マルチーズ、シーズー、ヨーキーのモデルグルーミング 2DMと合同でします	17	スピード、バランス、チッピングを考慮し、その犬に合った仕上がりを目指す		
3	犬のコントロールをマスターし、理想の仕上がりイメージしながら、トリミングする	18	スピード、バランス、チッピングを考慮し、その犬に合った仕上がりを目指す		
4	犬のコントロールをマスターし、理想の仕上がりイメージしながら、トリミングする	19	苦手犬種の克服と、グルーミング、トリミングの確実性をアップする		
5	犬のコントロールをマスターし、理想の仕上がりイメージしながら、トリミングする	20	苦手犬種の克服と、グルーミング、トリミングの確実性をアップする		
6	犬のコントロールをマスターし、理想の仕上がりイメージしながら、トリミングする	21	苦手犬種の克服と、グルーミング、トリミングの確実性をアップする		
7	犬のコントロールをマスターし、理想の仕上がりイメージしながら、トリミングする	22	苦手犬種の克服と、グルーミング、トリミングの確実性をアップする		
8	犬の体形、毛質、毛量などを考え、バランスよく仕上げる	23	苦手犬種の克服と、グルーミング、トリミングの確実性をアップする		
9	犬の体形、毛質、毛量などを考え、バランスよく仕上げる	24	仕上げるの形とバランス、仕上がりの美しさのレベルアップと時間短縮を目指す		
10	犬の体形、毛質、毛量などを考え、バランスよく仕上げる	25	仕上げるの形とバランス、仕上がりの美しさのレベルアップと時間短縮を目指す		
11	犬の体形、毛質、毛量などを考え、バランスよく仕上げる	26	仕上げるの形とバランス、仕上がりの美しさのレベルアップと時間短縮を目指す		
12	犬の体形、毛質、毛量などを考え、バランスよく仕上げる	27	総括・授業内評価・出欠・提出物・授業態度		
13	総括・授業内評価・出欠・提出物・授業態度	28	仕上げるの形とバランス、仕上がりの美しさのレベルアップと時間短縮を目指す		
14	スピード、バランス、チッピングを考慮し、その犬に合った仕上がりを目指す	29	ベーシック犬 グループで複数頭のグルーミングをする		
15	スピード、バランス、チッピングを考慮し、その犬に合った仕上がりを目指す	30	学生の飼い犬にカラーリングをします		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	授業内評価・スピード・手際・コントロール・意欲・出欠・提出物などで評価します				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生・関係法規	開講学科	ペットスペシャリスト科		
開講科目名	獣医関連法規	開講年度	2021	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Veterinary Laws and Regulations	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	行政書士、認定動物看護師				
授業の概要・目的					
家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について解説する。□ □ □ □ □					
到達目標					
・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。□					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16			
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要、狂犬病清浄国について	17			
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など	18			
4	狂犬病予防法(3) 狂犬病予防法の概要その2 対象動物、輸入禁止動物など	19			
5	狂犬病予防法(4) 狂犬病予防法の概要その4 飼い主と行政の義務、罰則など	20			
6	動物が亡くなった場合のルール(1)人と動物の埋葬ルールの違い□	21			
7	動物が亡くなった場合のルール(2)化製場法について□	22			
8	動物愛護法(1)動物愛護法制定・改正までの経緯	23			
9	動物愛護法(2)目的・基本原則など	24			
10	動物愛護法(3)動物虐待に対する罰則	25			
11	動物愛護法4)動物取扱業の概要 その1 □	26			
12	動物愛護法(5)動物取扱業の概要 その2□	27			
13	獣医師法 など□	28			
14	前期学習内容の総括	29			
15	前期学習内容の振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからのートを作成する				
教科書・テキスト	特になし				
参考書	特に無し				
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護	開講学科	ペットスペシャリスト科		
開講科目名	動物看護演習Ⅲ	開講年度	2021	配当年次	3
		開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営				
授業の概要・目的	・犬や猫の日常的な健康管理や内科医療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 ・手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。 ・動物臨床検査および生態検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。				
到達目標	・動物の基本的な取り扱い、具体検査、診療補助、輸液・輸血に関わる技術について知る。 ・術前準備、術中補助、術後管理、救急救命について知る。 ・検体検査、生体検査について知る。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスと身体検査	16	麻酔モニターに関して		
2	ズーノーシス・環境衛生	17	細胞診と組織心・凝固系検査		
3	解剖学・生理学(座学)	18	超音波検査と内視鏡		
4	解剖学	19	滅菌・手術準備		
5	画像診断	20	手術器具に関して		
6	血球検査	21	避妊手術・去勢手術に関して		
7	血液生化学検査	22	歯科処置		
8	泌尿科	23	麻酔模擬実習		
9	消化器	24	猫への応用とまとめ		
10	眼科・耳鼻科	25	後期授業のまとめ		
11	皮膚科	26	振り返り		
12	神経科	27	診察実習		
13	循環器疾患	28	診察実習		
14	前期授業のまとめ	29	後期総括		
15	振り返り	30	総まとめ		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業の予習と復習				
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率20%で最高評価得点を100%とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルトレーニング	開講学科	ペットスペシャリスト科		
開講科目名	補助犬トレーニングⅠ	開講年度	2021	配当年次	3
開講科目英名	Assistance Dog TrainingⅠ	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的					
身体障害者補助犬をとりまく環境、介助犬がどのような役割をになっているのか基本的な知識を習得する。トレーニングにおいては「犬」という生き物を理解していくうえで基本となる人間の理解とは異なること、犬の物事も理解の仕方、関係の持ち方を経験する。					
到達目標					
犬にモノというモチベーターというもの、罰を用いずに犬との関係を持つことを目指すことで犬のトレーニングの積み上げ方の難しさを経験し、「ほめ」のタイミングを習得する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業について	16	後期担当犬決め		
2	介助犬デモンストレーション	17	課題きめ 介助動作 フードも使用可能		
3	道具の使い方について	18	訓練計画をたてる		
4	犬をさわってみよう 前週学習した内容の実技	19	訓練計画にもとづき訓練 フードの選び方		
5	担当犬決め 自分が第一印象で決める	20	訓練計画にもとづき訓練 フードの使い方		
6	自分たちで犬をだしてみよう ハウスの出し入れ、カラーサイズ合わせ	21	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について①		
7	課題きめ 前期残り6コマで何が教えられるか考える、計画	22	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について②		
8	犬をふりむかせてみよう 犬の興味の取り方 フードは使わず	23	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 意識して		
9	ほめてみよう フードを使わずに犬に喜びを伝える	24	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 無意識に		
10	コマンドを与えてみよう 犬の興味を引きコマンドをさせてみる。ほめる	25	訓練計画にもとづき訓練 介助犬として到達点の理解		
11	計画を振り返り、再考	26	訓練計画にもとづき訓練 計画再考し訓練の取捨選択		
12	課題トレーニング①	27	訓練計画にもとづき訓練 訓練		
13	課題トレーニング②	28	訓練計画にもとづき訓練 後期復習		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	振り返り	30	年間振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	事前に訓練課題を明らかにしてくる 事後は訓練の見直し 用意する訓練シートに必ず記入する				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率45%通常点10%実技テスト45%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	救急・飼い主対応	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物医療コミュニケーション	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Animal Medical Communication	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師として動物病院のスタッフ研修・養成に従事				
授業の概要・目的					
動物看護師として、飼い主及び従事する職場のスタッフからの信頼を得て、更に社会に貢献できる人材となるために必要なスキルを修得する。挨拶・身だしなみの重要性を理解し、言葉遣い、立ち居振る舞いなど、主に飼い主の対応に必要な基本を身につける。また、受付業務や飼い主への対応など、高頻度業務を実技で修得する。					
到達目標					
動物看護師は動物病院の顔となり、また、飼い主と獣医師を繋ぐとても重要なポジションとして従事することも多い。そのため動物医療を提供するチームの一員であることを自覚したうえで必要なスキルを修得し、適切なサービスマインドやビジネスマインドが発揮できる人材となる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己分析・他己分析を行い、自分の経験の棚卸と将来像について明確にする。	16	自己表現スキル(人間関係の持ち方・仕事に必要な表現技術)について理解する。		
2	自己分析・他己分析を行い、自分の経験の棚卸と将来像について明確にする。	17	様々な感情(感情の性質を学び『怒り』の感情を掘り下げる)について理解する。		
3	第一印象・社会人のスキル(身だしなみ・健康管理)について理解する。	18	社会的スキル(来客対応・訪問時のマナー)について理解する。		
4	傾聴力(聴き方)・伝達力(伝え方)について理解する。	19	社会的スキル(文書作成・メールのマナー)について理解する。		
5	心に寄り添う、共感力の高め方について理解する。	20	社会人としての自覚(時間管理・健康管理・公私の区別・失敗した時など)について理解する。		
6	コミュニケーションスキル(ノンバーバルコミュニケーション)について理解する。	21	サービスマインド(動物病院におけるサービスマインド)について理解する。		
7	ビジネスマナー(敬語の種類)について理解する。	22	コミュニケーションのスキルアップを図り、社会人になるための準備をする。		
8	ビジネスマナー(敬語の使い方)について理解する。	23	受付・会計業務(高頻度業務についての知識・技術を深める)について理解する。		
9	ビジネス敬語に慣れて、使うことができるようになる。	24	高頻度業務の実技(グループワーク)を行い、理解を深める。		
10	臨床の現場での高頻度敬語について理解する。	25	高頻度業務の実技(グループワーク)を行い、理解を深める。		
11	履歴書の特性について理解する。	26	電話の掛け方・電話の受け方・電話の特性について理解する。		
12	履歴書の作成に必要な下準備について理解する。	27	電話の掛け方・受け方(グループワーク)を実践し、修得する。		
13	履歴書を作成する。	28	電話の掛け方・受け方(グループワーク)を実践し、修得する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めた内容をもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	Hand－book of LIFE STYLE・コミュニケーションスキルアップ検定テキスト				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験65%、出席率及び課題35%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	救急・飼い主対応	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物行動学	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Behavior	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	2008年『おりこうさん。』を設立。犬にも人間にも優しいドッグトレーニングをスローガンに訪問レッスンやスタジオレッスンを行う。 クリッカートレーニングをはじめとする常に先進的なトレーニングを取り入れ、各地でワークショップやセミナーを開催。 またインターネットを利用したオンラインレッスンを行う。 テリントンTタッチのプラクティショナー認定を取得し、犬の身体・心・頭のバランスを整えるトレーニングを行う。				
授業の概要・目的					
動物病院で来院が多い犬や猫についてそれぞれの特徴、動物行動学を学ぶ。 犬の習性や犬種について知る。 問題行動について知り、その解決方法について広く学ぶ。 FCI10グループJKCに登録されている犬種を知り、その身体的特徴や行動習性の特徴を学ぶ。 これらの情報を学ぶことにより、より信頼される動物看護師として活躍できることを目指す。					
到達目標					
動物病院に来院する犬や猫について行動学的見地から判断したり、対応したりすることができるような知識を適用することができる。 動物病院に来院が多い犬についてその名前や様々な犬種特徴を認識でき、その情報を活用することができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	挨拶、自己紹介、授業の目的・目標の確認、授業全般について理解する。	16			
2	犬種グループ(FCI/JKC)について理解する。	17			
3	1G 牧羊犬・牧畜犬の種類とその特徴について理解する。	18			
4	2G 使役犬の種類とその特徴について理解する。	19			
5	3G テリアの種類とその特徴について理解する。	20			
6	犬の維持行動。摂食行動、捕食行動ついて理解する。	21			
7	繁殖について。犬の交配について理解する。	22			
8	犬の早期神経刺激・バイオセンサープログラム(Early Neurological Stimulation)を理解する。	23			
9	しつけ・トレーニングの基本。古典的条件づけ、オペラント条件づけを理解する。	24			
10	問題行動と総論1 問題行動の改善方法を理解する。	25			
11	問題行動と総論2 問題行動の改善のためのツールや環境設定を理解する。	26			
12	犬の問題行動について1 家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	27			
13	犬の問題行動について2 家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	28			
14	前期総合復習でさらに踏み込んだ理解を確認する。	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物行動学・ジャパンケンネルクラブホームページ「世界の犬」 https://www.jkc.or.jp/worlddogs/				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験50%、出席率40%、授業への取り組み等10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	健康の管理	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物行動学B	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal BehaviorB	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	元警察犬訓練士。犬の幼稚園を開業しドッグトレーナーとして長年活躍				
授業の概要・目的	動物病院で来院が多い犬や猫についてそれぞれの特徴、動物行動学を学ぶ。 犬の習性や犬種について知る。 問題行動について知り、その解決方法について広く学ぶ。 FCI10グループJKCに登録されている犬種を知り、その身体的特徴や行動習性の特徴を学ぶ。 これらの情報を学ぶことにより、より信頼される動物看護師として活躍できることを目指す。				
到達目標					
動物病院に来院する犬や猫について行動学的見地から判断したり、対応したりすることができるような知識を適用することができる。 動物病院に来院が多い犬についてその名前や様々な犬種特徴を認識でき、その情報を活用することができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	挨拶、自己紹介、授業の目的・目標の確認、授業全般について理解する。	16	犬種グループ(FCI/JKC)について理解する。		
2	行動学概論。行動学の歴史、ティンバーゲンの4つの問い、イヌの起源について理解する。	17	1G 牧羊犬・牧畜犬の種類とその特徴について理解する。		
3	犬学。犬種の歴史、犬種と行動変化について理解する。	18	2G 使役犬の種類とその特徴について理解する。		
4	行動の発達。犬の発育段階について理解する。	19	3G テリアの種類とその特徴について理解する。		
5	犬の維持行動。摂食行動、捕食行動ついて理解する。	20	4G ダックスフンドの種類とその特徴について理解する。		
6	繁殖について。犬の交配について理解する。	21	5G 原始的な犬・スピッツの種類とその特徴について理解する。		
7	犬の早期神経刺激・バイオセンサープログラム(Early Neurological Stimulation)を理解する。	22	6G 嗅覚ハウンドの種類とその特徴について理解する。		
8	しつけ・トレーニングの基本。古典的条件づけ、オペラント条件づけを理解する。	23	7G ポインター・セターの種類とその特徴について理解する。		
9	問題行動と総論1 問題行動の改善方法を理解する。	24	8G 7G以外の鳥猟犬の種類とその特徴について理解する。		
10	問題行動と総論2 問題行動の改善のためのツールや環境設定を理解する。	25	9G 愛玩犬の種類とその特徴について理解する。		
11	犬の問題行動について1 家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	26	10G 聴覚ハウンドの種類とその特徴について理解する。		
12	犬の問題行動について2 家庭で多い犬の問題行動や改善のためのトレーニング方法を理解する。	27	後期学習内容の総括を行う。		
13	前期総合復習でさらに踏み込んだ理解を確認する。	28	後期学習内容の振り返りを行う。各自の理解度を知り、より理解を深める。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	テリントンタッチをについて学び病院で役立てるテクニックを理解する1 動物をつぶさに観察し行動分析する方法を理解する。 病気の動物の助けとなるケアの方法を学びテクニックを理解する。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。各自の理解度を知り、より理解を深める。	30	テリントンタッチをについて学び病院で役立てるテクニックを理解する2 犬の身体と心と頭のバランスについて学びそのバランスを助ける犬具やテクニックを理解する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物行動学・ジャパンケンネルクラブホームページ「世界の犬」 https://www.jkc.or.jp/worlddogs/				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験50%、出席率40%、授業への取り組み等10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	公衆衛生学	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Public Health	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック 開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事				
授業の概要・目的	個々の動物の命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生について学び、さまざまな疾病予防、健康維持および増進に役立てる総合的な科目である。人畜共通感染症・食品衛生・環境衛生について学ぶ。				
到達目標	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全に活かせる知識を身につけた上で、正しい衛生指導ができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	公衆衛生とは何かを理解し、将来の仕事への意義について考える。	16	寄生虫性疾患の概要について理解する。		
2	微生物とは何かを理解し、細菌を身近に感じられるようになる。	17	寄生虫性ズーノーシス(回虫症)について理解する。		
3	感染症(病原体・感染経路・宿主)について理解する。	18	寄生虫性ズーノーシス(鉤虫症・アニサキス症・フィラリア症など)について理解する。		
4	感染症(感染と防疫)について理解する。	19	寄生虫性ズーノーシス(エキノコックス症)について理解する。		
5	細菌とウイルスについて理解する。	20	寄生虫性ズーノーシス(マンソン裂頭条虫など)について理解する。		
6	細菌とウイルスについて理解する。	21	寄生虫性ズーノーシス(トキソプラズマ症)について理解する。		
7	細菌とウイルス(殺菌と消毒)について理解する。	22	寄生虫性ズーノーシス(ジアルジア症・クリプトスポリジウム症など)について理解する。		
8	細菌・ウイルス以外の微生物について理解する。	23	寄生虫性ズーノーシス(外部寄生虫症)について理解する。		
9	ウイルス性ズーノーシス(狂犬病)について理解する。	24	寄生虫性ズーノーシス(SFTSなど)について理解する。		
10	ウイルス性ズーノーシス(狂犬病予防法と狂犬病ワクチンの接種時期)について理解する。	25	食品衛生(自然毒など)について理解する。		
11	ウイルス性ズーノーシス(腎症候性出血熱・日本脳炎・E型肝炎)について理解する。	26	食品衛生(細菌性食中毒)について理解する。		
12	ウイルス性ズーノーシス(SARS・ウエストナイル熱など)について理解する。	27	食品衛生(細菌性食中毒)について理解する。		
13	その他疾患(BSE等)について理解する。	28	まとめおよび統一試験対策を行う。		
14	レプトスピラ症とワクチンについて理解する。	29	まとめおよび統一試験対策を行う。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ (ファームプレス)				
参考書	動物看護コアテキスト (インターズー)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物形態機能学実習A	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Seminar Of Animal Morphological Function	授業形態	講義	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	大阪どうぶつ夜間急病センター 非常勤				
授業の概要・目的	基本的な事項として、動物の体を構成する最小単位である細胞とその集合体である組織の構造、役割を学び、全ての疾患はそのレベルの異常に端を発していることを理解する。続いて、解剖学の基礎である筋肉と骨格と構造及び基本的用語を修得する。感覚器の構造と機能については、人間との違いを理解し、それぞれの動物ごとに特徴を説明できる力を身につける。免疫反応や炎症反応の分野では、疾病学を理解するための基礎力を身につけるため、個々の生理学的な知識はもとより、システムとしての理解を身につける。これらの習熟度を上げるため、定期的に五択形式の問題演習を実施する。				
到達目標	各疾患について説明を行う際に、顕微鏡レベルの知識および免疫学の理解を交えて行えることを目指す。また将来的に外科手術や理学療法などに携わる中で、筋肉・骨格の説明が行えるようになる。感覚器については、各器官の疾患についてだけでなく、日常的なケアや行動学においても解剖・生理学的知識を踏まえた説明ができるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション 動物の体の構造を系として総論的に理解する。	16	眼球の構造と機能について理解する。		
2	生体を構成する最小単位である細胞の構造、機能について理解する。	17	視覚が成立するメカニズムを理解する。		
3	上皮組織および結合組織の分類、機能を理解する。	18	耳の構造について理解する。		
4	骨組織、筋組織、神経組織の構造と機能について理解する。	19	聴覚が成立するメカニズムと平衡感覚について理解する。		
5	ホメオスタシスの概念を基に体液の分類、役割について理解する。	20	味覚と嗅覚が成立するメカニズムを理解する。		
6	血液とリンパ系の機能について基礎的な内容を理解する。	21	皮膚の感覚器の分類、構造について理解する。		
7	細胞、組織、体液に関する問題演習に取り組み、理解を深める。	22	感覚器に関する問題演習に取り組み、理解を深める。		
8	筋肉の分類、構造、機能について理解する。	23	病理学の基礎であるDAMNIT-V分類について理解する。		
9	骨の構造と成長について理解する。	24	免疫にかかわる細胞、組織、器官に関する知識を整理する。		
10	骨格筋の分類に関して整理し理解する。	25	免疫の獲得について理解する。		
11	骨の名称、筋肉の名称についての問題演習を行い、知識の定着を図る。	26	アレルギー反応および自己免疫性疾患が発生するメカニズムについて理解する。		
12	骨と筋肉の生理学的内容について問題演習に取り組み、理解を深める。	27	炎症反応と体温調整について理解する。		
13	疾病学の基礎となる細胞や組織の知識を身につける。	28	免疫機能、炎症反応に関する問題演習に取り組み、理解を深める。		
14	細胞、組織、体液に関する問題演習に再度取り組み、理解を深める。	29	形態機能学全般を網羅する問題演習に取り組み、全体の理解を深める。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	配布する資料を用いて毎回の授業内容を自宅で復習する。				
教科書・テキスト	小動物臨床のための機能形態学入門改訂版 浅野隆司・浅野妃美著 (Inter Zoo) / 動物看護コアテキスト② (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	筆記試験を100点満点で実施する。出席点は含まない。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	疾病・感染と薬	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物感染症学	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Animal Infection	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	動物病院にて動物看護師として約27年勤務 飼い主に犬や猫の日常の健康管理の指導等なども行う 関西動物看護教育研究会(理事)に所属				
授業の概要・目的					

現在、国内において犬や猫などの愛玩動物の多くが室内で飼育される傾向にある。これはヒトと動物の距離が近くなり、相互に影響を及ぼす機会が増える一因になると思われる。特に感染症には、動物のみならず人にも影響を及ぼすものがあるため、飼い主に身体的・精神的にも損害を起こしかねない。将来、動物病院などへの就職を希望する学生は、正しい知識を身につけそれを伝えることができるようになる必要がある。本開講科目では感染・発症の定義、感染症の成り立ちについて学び、衛生管理、予防法など感染症対策の基礎を習得する。また感染防御に重要な免疫学の基礎についても学ぶ。本講座では主にイヌやネコの感染する微生物と寄生虫について、分類・構造・感染経路・予防法を学び、動物と飼い主の健康をサポートできる人材を目指す。

到達目標					
------	--	--	--	--	--

病原微生物や寄生虫の伝播様式や発症のメカニズムを理解し、感染症の予防と看護、飼い主へのアドバイスに活かせるようになる。

授業計画(テーマ・内容)					
1	外部寄生虫の分類、基本的な構造・特徴について理解する。	16	病原微生物の分類・特徴、感染経路について理解する。		
2	外部寄生虫(ノミ)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	17	自然免疫と獲得免疫、免疫にかかわる細胞について理解する。		
3	外部寄生虫(シラミ・ハジラミ)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	18	獲得免疫(細胞性免疫)について理解する。		
4	外部寄生虫(マダニ)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	19	獲得免疫(液性免疫)について理解する。		
5	外部寄生虫(ヒゼンダニ類)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	20	抗体の構造と働き、分類について理解する。		
6	外部寄生虫(ツツガムシ類)の虫体の構造、生活環、症状、予防方法について理解する。	21	個体免疫と集団免疫、受動免疫と能動免疫について理解する。		
7	内部寄生虫の分類、基本的な構造・特徴について理解する。	22	狂犬病について理解する。		
8	線虫類(回虫・鉤虫・鞭虫)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	23	狂犬病ワクチンと犬の登録について理解する。		
9	吸虫類(壺形吸虫)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	24	混合ワクチンで予防できる犬と猫の疾患について理解する。		
10	条虫類(瓜実条虫・マンソン裂頭条虫)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	25	混合ワクチン接種の意義・種類(コア・ノンコアワクチン等)について理解する。		
11	線虫類(猫条虫・その他)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	26	混合ワクチンの種類(生ワクチン・ノンコアワクチン)について理解する。		
12	原虫類(コクシジウム類)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	27	ワクチン接種のプログラム・接種後の注意点について理解する。		
13	原虫類(ジアルジア・トリコモナス)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	28	ワクチン接種に伴う副反応(即時型・遅延型アレルギー)について理解する。		
14	原虫類(バベシア・その他)の虫体の構造、感染経路、生活環、症状などについて理解する。	29	ワクチン接種に伴う副反応(ワクチン接種部位肉腫)について理解する。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		

授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に使用したワークシートや教科書を参考にしてノートを作成する。
教科書・テキスト	動物看護の教科書(緑書房)
参考書	犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイド (インターズー) / 動物看護コアテキスト (ファームプレス) / 動物臨床看護学 (インターズー)
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験(授業内小テスト含む)80%、提出物10%、出席率10%で最高評価点を100とする。
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。

授業科目名	動物の体の構造・機能	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物形態機能学B	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Anatomy and Phisiology of Animals	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	150 (10)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。				
授業の概要・目的					
臨床において動物と対峙するにあたって、身体の構造と機能を理解しておくことは必要不可欠である。また、後に様々な疾患について学ぶ際に、正常な状態では本来どのような構造、機能を持つものなのかという基礎知識に基づいて理解する必要がある。					
到達目標					
身体の各系統、器官の構造を説明できるようになる。各々の器官の働きを説明できるようになる。その働きをするために起っている事象を説明できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	犬猫の身体の構造・名称・用語について学ぶ。	16	生科学的代謝経路について理解する。		
2	循環器系(構造・解剖)について理解する。	17	血リンパ系(血球の種類と役割)について理解する。		
3	循環器系(組織・心筋)について理解する。	18	血リンパ系(リンパ系器官)について理解する。		
4	循環器系の機能について理解する。	19	血液型と輸血、免疫について理解する。		
5	循環器系の機能の調節について理解する。	20	内分泌系(内分泌とは何か、主な内分泌器官)について理解する。		
6	呼吸器系の構造・解剖について理解する。	21	内分泌系(ホルモンの種類と働き)について理解する。		
7	呼吸器系の組織について理解する。	22	内分泌系(内分泌腺以外のホルモン分泌)について理解する。		
8	呼吸器系の機能と調節について理解する。	23	神経系(種類と構造、ニューロン)について理解する。		
9	消化器系の構造・解剖について理解する。	24	神経系(神経伝達と機能)について理解する。		
10	消化器系の組織について理解する。	25	泌尿器系(解剖と微細構造)について理解する。		
11	消化器系の機能と調節について理解する。	26	泌尿器系(機能・尿産生)について理解する。		
12	消化器系と肝臓について理解する。	27	生殖器系(解剖と構造・組織)について理解する。		
13	栄養(栄養素の代謝とは何か)について理解する。	28	生殖器系の機能と調節について理解する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	教科書、ノートをもとに、自作のまとめノートを作成する。				
教科書・テキスト	小動物臨床のための機能形態学入門 (インターズー)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は自作のまとめノートの持ち込みを許可した筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。出席点は考慮しない。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	関連法規	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物医療関連法規	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Veterinary Laws and Regulations	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	行政書士、認定動物看護師				
授業の概要・目的					
認定動物看護師試験の範囲について学ぶと共に、動物看護師及び飼い主としても人や動物と向き合う上で必要な法律について学ぶ。					
到達目標					
狂犬病予防法や動物愛護法、獣医師法などの各種法律の概要について理解できるようになる。 外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介と、授業概要、法律の仕組みについて理解する。	16			
2	狂犬病予防法(1)(狂犬病の概要、狂犬病清浄国について)を理解する。	17			
3	狂犬病予防法(2)(狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的などⅠを理解する。	18			
4	狂犬病予防法(3)(対象動物、輸入禁止動物などⅠを理解する。	19			
5	狂犬病予防法(4)(飼い主と行政の義務、罰則などⅠを理解する。	20			
6	獣医師法(1)(獣医師法の概要、飼育動物の範囲)を理解する。	21			
7	獣医師法(2)(獣医師の義務と権利、無診察診療の禁止など)を理解する。	22			
8	獣医師法(3)(獣医師の届出義務、罰則など)を理解する。	23			
9	獣医療法(1)(獣医療法の概要、開院時の届出など)を理解する。	24			
10	獣医療法(2)(獣医療分野における広告規制など)を理解する。	25			
11	動物愛護法(1)(動物愛護法の制定背景、法律の概要)を理解する。	26			
12	動物愛護法(2)(目的、基本原則、動物愛護週間など)を理解する。	27			
13	動物愛護法(3)(飼い主の責務、犬猫の引取りなど)を理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	動物看護コアテキスト① (ファームプレス)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	産業動物学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Commercial Animal Studies	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。				
授業の概要・目的					
産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。					
到達目標					
家畜の種類と特徴について知る。主要家畜(馬、牛、綿羊、山羊、豚、鶏)の飼養管理法について知る。日本の畜産業の実際について知る。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	産業動物の獣医学上の位置付けについて知る。	16			
2	動物の身体について復習を行う。	17			
3	牛の解剖と生理について理解する。	18			
4	牛の主な疾患について理解する。	19			
5	豚の解剖と生理について理解する。	20			
6	豚の主な疾患について理解する。	21			
7	馬の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	22			
8	綿羊の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	23			
9	山羊の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	24			
10	鶏の解剖と生理、および主な疾患について理解する。	25			
11	魚類、ジビエなどについて理解する。	26			
12	栄養学としての産業動物について理解する。	27			
13	中毒について理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①・④ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	実験動物学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Experimental Animal Studies	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	45 (3)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営。				
授業の概要・目的	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ。				
到達目標	実験動物の基礎について知る。実験動物の制御(コントロール)と疾患モデル動物について知る。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	実験動物とは何か(1)を理解する。	16			
2	実験動物とは何か(2)を理解する。	17			
3	実験動物とは何か(3)を理解する。	18			
4	小動物とは何かを理解する。	19			
5	小動物の主な種類について理解する。	20			
6	小動物の特徴について理解する。	21			
7	中動物とは何かを理解する。	22			
8	中動物の主な種類について理解する。	23			
9	中動物の特徴について理解する。	24			
10	大動物とは何かを理解する。	25			
11	大動物の主な種類について理解する。	26			
12	大動物の特徴について理解する。	27			
13	SPFなど特別な飼育法について理解する。	28			
14	前期学習内容の総括を行う。	29			
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト①・④ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験70%、出席率30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物外科看護学実習	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Veterinary Surgical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	大阪どうぶつ夜間急病センター 獣医師				
授業の概要・目的	まず外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。さらには、それらの準備や管理に加えて、麻酔準備や麻酔監視、助手としての手術の補助、救命救急など学んだ知識の実践力を修得する。これらの目的を果たすためには総合的な看護学への理解が求められるため、これまでの基礎的な科目の知識を整理し、外科と関連させた実践力として身につけられるよう、適宜復習も織り交ぜながら進めていく。				
到達目標	実践力を身につけるとはいえ、実習のみであらゆる疾患やリスクを抱える動物の外科、麻酔について理解することは困難でる。ただしそれらの症例に臨む上でも、解剖学と生理学の知識を基礎とした術前準備、術前管理という理解が重要になる。動物たちの状態を常に観察し、その上でどのような看護が必要となるのかを説明、分類できるような思考能力を身につけることを目標とする。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーションにより外科看護学の概要を理解する。 実習に参加する犬と猫の総合健康診断を行い、保定および基礎的臨床検査の復習を行う。	16	動物看護計画の策定について理解する。		
2	外科手術の準備において必要な小型犬、大型犬、猫の保定法を修得する。	17	周術期の動物に対する痛みの評価について理解する。		
3	術着とドレープの準備について理解する。 術中のモニターについて理解する。 静脈採血と動脈採血の違いについて理解する。	18	入院時の動物の管理法について修得する。		
4	各手術器具の名称を整理し、その用途を修得する。 術後に着用する腹帯の作成方法を修得する。	19	入院時の衛生管理について理解する。		
5	エキゾチックアニマル(哺乳類および鳥類)の保定について修得する。	20	栄養チューブ設置の準備や流動食の調整を修得する。		
6	術前の手洗い法を修得する。 術着とグローブの着用方法を修得する。 検査や処置に使用するウレタンマットの作成法を修得する。	21	周術期に起こりうる緊急対応について理解する。		
7	輸液剤の準備について復習し、理解を深める。 手術に必要な薬剤の役割を理解し、その調整法などを修得する。 静脈留置処置、気管挿管の準備について復習し、理解を深める。	22	ASA分類に基づいた麻酔リスクについて理解する。		
8	麻酔薬について理解する。 麻酔機器の使用法を修得する。	23	歯石除去の手技とその際の麻酔法について修得する。		
9	具体的な麻酔管理法を理解する。 ガイドラインに基づいた心肺蘇生法を修得する。	24	去勢手術時の助手の具体的手技について修得する。		
10	不妊手術の術式について理解する。 術中の麻酔記録、看護記録の記入法を修得する。	25	去勢手術を実施し、周術期の実践的な動きを修得する。		
11	犬と猫への鎮静処置の手順を修得し、その際の注意点について理解する。	26	避妊手術時の助手の具体的手技について理解する。		
12	術前準備、麻酔法、術中モニタリングなどについて再度整理し理解を深める。	27	避妊手術を実施し、周術期の実践的な動きを修得する。		
13	生体への麻酔処置を行い、周術期の実践的な動きを修得する。	28	抜糸の準備と手技について理解する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。 生体への麻酔処置に必要な実践的な準備、注意点を理解する。	30	後期学習内容の振り返りを行う。 術後の家族のインフォームドコンセントについて理解する。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	配布する資料を用いて毎回の授業内容を自宅で復習する。				
教科書・テキスト	動物看護実習テキスト 動物看護師要請専修学校教科書作成委員会 編 (インターズー)				
参考書	同上				
評価方法・基準	筆記試験および実技試験をともに100点満点で実施し、より点数の高いものを採用する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	飼育・看護演習	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物薬理学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Phamacology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師として、臨床医療に長年従事				
授業の概要・目的					
臨床の現場では欠かすことのできない薬物治療について、薬理作用と作用機序、薬物の体内動態、有害作用や、代表的な薬物の作用、副作用を理解し、その必要性や、適応とされる病態、投薬時の注意点などについて知識を深める。					
到達目標					
臨床の現場で使用される薬物の特性を学び、投薬前後での病態の変化にいち早く気づけるようになり、また、飼い主への服薬指導が的確に行えるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	薬物の基本知識(薬物治療の概念・薬理作用)について理解する。	16	神経系に作用する薬物(鎮痛薬・鎮静薬)について理解する。		
2	薬物の基本知識(薬物動態)について理解する。	17	神経系に作用する薬物(抗けいれん薬・問題行動治療薬)について理解する。		
3	薬物の有害作用(副作用・中毒作用・薬物アレルギー・薬物依存・耐性)について理解する。	18	呼吸器系に作用する薬物(鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬)について理解する。		
4	薬効に影響を与える因子について理解する。	19	循環器・泌尿器系に作用する薬物(血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬)について理解する。		
5	薬物の取り扱い(薬物の剤形の違い・投与方法)について理解する。	20	消化器に作用する薬物(制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬)について理解する。		
6	薬物の分類や法規を学び、毒薬・劇薬・麻薬などの取り扱い方を理解する。	21	代謝・内分泌に作用する薬物(糖尿病治療薬・甲状腺治療薬)について理解する。		
7	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	22	代謝・内分泌に作用する薬物(ステロイドホルモン)について理解する。		
8	処方や治療の略語を理解し、薬用量の計算ができるようになる。	23	血液・免疫系に作用する薬物(抗貧血薬・抗炎症薬)について理解する。		
9	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	24	血液・免疫系に作用する薬物(免疫抑制薬)について理解する。		
10	輸液療法の必要性を理解し、輸液量の計算ができるようになる。	25	化学療法薬(抗菌薬)について理解する。		
11	神経系に作用する薬物(全身麻酔薬)について理解する。	26	化学療法薬(抗真菌薬)について理解する。		
12	神経系に作用する薬物(局所麻酔薬)について理解する。	27	化学療法薬(駆虫薬・殺虫薬・抗腫瘍薬)について理解する。		
13	寄生虫に作用する薬物(原虫・蠕虫・衛生動物)について理解する。	28	化学療法薬(抗腫瘍薬)について理解する。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	後期学習内容の総括を行う。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	後期学習内容の振り返りを行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めた内容をもとに、ノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③(ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は、筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	疾病・感染と薬	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物感染症学B	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Infectio B	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	アニマルアロマセラピー施設代表 日本ペットマッサージ協会 参事 等				
授業の概要・目的					
動物病院内業務に必要な知識と技術を身につける。疾病の成り立ちと回復の促進に寄与することを学ぶ。					
到達目標					
保定・各種検査等の方法を練習し、身に付ける。飼い主と会話できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	院内業務・犬の取り扱いについて理解する。	16	血液検査(血液検査項目とその意義)について理解する。		
2	保定(様々な保定法)を修得する。	17	尿検査(尿検査の手技と検査項目)について修得する。		
3	視診・触診の行い方(講義)を理解する。	18	便検査(便検査の手技と内部寄生虫)について修得する。		
4	犬で視診・触診を行い方法を修得する。	19	血液検査・尿検査・便検査のまとめを行い理解を深める。		
5	輸液(輸液準備、輸液ポンプの扱い方)について修得する。	20	ワクチン・フィラリア(予防)について理解する。		
6	調剤(様々な剤型の調剤・分包)について理解する。	21	ワクチン・フィラリア(パンフレット作成)を行い修得する。		
7	投薬法(犬)での方法を修得する。	22	リンパマッサージ(犬)について修得する。		
8	注射法(針、シリンジ、バイアル、アンプルの取り扱い方)について理解する。	23	東洋医学(概要)について理解する。		
9	小まとめ(現在まで学んだ内容)を行い理解を深める。	24	マッサージ(ツボを使った)について修得する。		
10	眼科(眼の構造、点眼、眼軟膏などの眼科処置)について修得する。	25	ワクチン・フィラリア・東洋医学・マッサージのまとめを行い理解を深める。		
11	耳科(耳の構造、点耳、耳洗浄などの耳科処置)について修得する。	26	これまでの復習を行い理解を深める。		
12	歯科(歯の構造、歯磨きの仕方)について修得する。	27	後期学習内容の総括を行う。		
13	これまでの復習を行い理解を深める。	28	後期学習内容の振り返りを行う。		
14	前期学習内容の総括を行う。	29	メディカルアロマ(肉球クリーム作成)について修得する。		
15	前期学習内容の振り返りを行う。	30	総まとめを行い理解を深める。		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ (ファームプレス) / 動物看護実習テキスト (インターズー) / コンパニオンアニマルの看護技術学 (インターズー)				
参考書	同上				
評価方法・基準	実技試験及び筆記試験をともに100点満点で実施し、総合的に評価を行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	疾病・感染と薬	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物病理学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Pathology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック 開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事				
授業の概要・目的	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、主要などの項目について学ぶ。				
到達目標	各疾病のメカニズムに関して知り、動物病院における看護に役立てる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	神経系疾患(疾患の仕組みと鎮痛薬・鎮静薬・抗けいれん薬等)について理解する。	16			
2	呼吸器系疾患(疾患の仕組みと鎮咳薬・去痰薬・気管支拡張薬等)について理解する。	17			
3	循環器・泌尿器系疾患(疾患の仕組みと血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬等)について理解する。	18			
4	循環器・泌尿器系疾患(疾患の仕組みと血管拡張薬・心不全治療薬・利尿薬等)について理解する。	19			
5	消化器系疾患(疾患の仕組みと制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬等)について理解する。	20			
6	消化器に作用する薬物(疾患の仕組みと制吐薬・消化管に作用する薬物・止瀉薬・瀉下薬等)について理解する。	21			
7	代謝・内分泌系疾患(疾患の仕組みと糖尿病治療薬・甲状腺治療薬・ステロイドホルモン)について理解する。	22			
8	代謝・内分泌系疾患(疾患の仕組みと糖尿病治療薬・甲状腺治療薬・ステロイドホルモン)について理解する。	23			
9	血液・免疫系疾患(疾患の仕組みと抗貧血薬・抗炎症薬・免疫抑制薬)について理解する。	24			
10	血液・免疫系疾患(疾患の仕組みと抗貧血薬・抗炎症薬・免疫抑制薬)について理解する。	25			
11	化学療法薬(消毒薬・殺虫薬・抗菌薬・抗真菌薬・駆虫薬・抗腫瘍薬)について理解する。	26			
12	化学療法薬(消毒薬・殺虫薬・抗菌薬・抗真菌薬・駆虫薬・抗腫瘍薬)について理解する。	27			
13	化学療法薬(消毒薬・殺虫薬・抗菌薬・抗真菌薬・駆虫薬・抗腫瘍薬)について理解する。	28			
14	後期学習内容の総括を行う。	29			
15	後期学習内容の振り返りを行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト③ (ファームプレス)				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物の体の構造・機能	開講学科	動物医療科		
開講科目名	動物繁殖学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal(Dog)Breeding	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	15 (1)
講師名					
実務経験概要	カルディア動物行動クリニック 開業獣医師 行動分野診療、問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等を専門とし、臨床現場にて飼い主のサポートに従事				
授業の概要・目的					
繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生仔管理、遺伝学の基礎知識を習得する。					
到達目標					
繁殖に関わるしくみを理解し、正しい繁殖と新生児の管理の知識と技術を伝えることができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	繁殖学の概論(繁殖とは何か)について理解する。	16			
2	繁殖季節と性成熟について理解する。	17			
3	犬の繁殖生理について理解する。	18			
4	犬の性周期とホルモンの関係について理解する。	19			
5	犬の交配適期と膣細胞スメアとの関係について理解する。	20			
6	猫の繁殖生理について理解する。	21			
7	犬と猫の交尾様式と妊娠診断について理解する。	22			
8	胎児の成長と妊娠中のケアについて理解する。	23			
9	分娩と助産・帝王切開について理解する。	24			
10	新生仔の成長とケアについて理解する。	25			
11	遺伝学の基礎知識について理解する。	26			
12	遺伝性疾患(1)について理解する。	27			
13	遺伝性疾患(2)について理解する。	28			
14	毛色遺伝子について理解する。	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き溜めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト② (ファームプレス)				
参考書	動物看護コアテキスト (インターズー)				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	動物の健康管理	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Health Care	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30（2）
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	トリミングペットサロンやペットショップなどで働くプロとして、犬・猫を中心とした動物の健康管理方法を理解する。 また、健康を維持するために必要となるワクチン予防や内部寄生虫、高齢動物のケア方法について、きちんと理解する。				
到達目標	犬と猫の健康管理の基礎知識を持つち、それに伴う健康の維持増進、疾病の予防のために病気のことを理解する。 また、身に着けた知識を自らが実践した上で、飼い主にも正しく指導・提案が出来るようになる				
授業計画（テーマ・内容）					
1	動物の健康管理の必要性 健康管理とは？5つの自由 健康チェックのポイント	16			
2	看護動物の健康管理 クライアント・エデュケーションについて	17			
3	看護動物の健康管理 バイタルサイン	18			
4	口腔衛生 口腔疾患と歯磨きの必要性	19			
5	感染症とワクチン 狂犬病	20			
6	感染症とワクチン ワクチンで予防できる病気とワクチンプログラム	21			
7	内部寄生虫 フィラリア症	22			
8	内部寄生虫 回虫症・瓜実条虫症・鞭虫症・トキソプラズマ症	23			
9	外部寄生虫 ノミ・ダニ・シラミ	24			
10	人畜共通感染症 動物から感染する病気	25			
11	繁殖について 交配と出産	26			
12	若齢動物と高齢動物のケア 若齢動物のケアについて理解する	27			
13	若齢動物と高齢動物のケア 高齢動物のケアについて理解する	28			
14	まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	筆記試験80％ 出席率20％として100点満点を最高得点として算出する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	動物の体のしくみ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数（単位数）	30（2）
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	動物の体の構造を知り、どのように機能しているかの基礎的知識を身につける。 そのために消化器・泌尿器・循環器・生殖器等細かく構造を解説したうえで、骨格や筋肉の構造を学ぶ。 それらの知識をトリミングに活かすことを目標とする。				
到達目標	犬猫の体の基本的な構造と働きの概要を知り、トリミング時に動物の体のしくみを理解したうえで、美しく、また動物にとって負担が少ないように工夫することができるようになる。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	総論 細胞 器官とは ○○系とは 学ぶ意味など 教科書 section 1 2	16			
2	外皮系 教科書 section 1	17			
3	消化器系 教科書 section 2	18			
4	泌尿器系 教科書 section 3	19			
5	呼吸器系 教科書 section 4	20			
6	生殖器系 教科書 section 5	21			
7	循環器系 教科書 section 7	22			
8	感覚器系 教科書 section 8	23			
9	筋系 教科書 section 1 0	24			
10	骨格系 教科書 section11	25			
11	内分泌系 教科書 section 6	26			
12	神経系 教科書 section 9	27			
13	薬膳とホームメイド食	28			
14	まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業中に適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	イラストで見る動物のからだのしくみ				
参考書	なし				
評価方法・基準	筆記試験90％ 出席率10％として100点満点を最高得点として算出する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	犬学	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンパニオンドッグ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Companion Dog	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）
講師名					
実務経験概要	2008年『おりこうさん。』を設立。犬にも人間にも優しいドッグトレーニングをスローガンに訪問レッスンやスタジオレッスンを行う。 クリックートレーニングをはじめとする常に先進的なトレーニングを取り入れ、各地でワークショップやセミナーを開催。 またインターネットを利用したオンラインレッスンを行う。 テリントンTタッチのプラクティショナー認定を取得し、犬の身体・心・頭のバランスを整えるトレーニングを行う。				
授業の概要・目的					
犬は、愛玩を目的に飼う「ペット」から「コンパニオン アニマル」となり、近年では「コンパニオンドッグ」と呼ばれ、家族の一員として暮らしています。 業界（犬界）で、お客様に、そして犬からも信頼されるトリマー（グルーマー）として活躍していくには技術は勿論ですが、アドバイザーとしての知識も必要です。 前期では、犬の骨格構成や犬体、各犬種の理想像などについて授業を行います。 後期では、飼育現状、犬種とグループ分類、本能と習性など基本的な知識について授業を行います。					
到達目標					
お客様や犬とのコミュニケーションに必要な知識を身に付け、犬を理解し、実技演習に活かすことが出来るように授業を行い、お客様から安心して愛犬を預けて頂けるグルーマーに導くことが目標です。					
授業計画（テーマ・内容）					
1	授業のオリエンテーション。授業内容について説明。	16	「ケネルクラブ」。日本および海外のケネルクラブ、ケネルクラブの役割などについて説明。		
2	「骨格構成」。 実習に活かせるように骨格構成を理解しましょう。	17	「JKCのグループと犬種」。 J K C（ジャパンケネルクラブ）の公認犬種とグループ分類について説明。		
3	「骨格名称」。 骨の名称を覚えましょう。	18	「JKCのグループと犬種」。 J K C（ジャパンケネルクラブ）の公認犬種とグループ分類について説明。		
4	「関節」と「遺伝性疾患」。 犬に負担のない保持保定を心掛けましょう。	19	「A K Cの公認犬種とグループ分類」。 A K C（アメリカンケネルクラブ）の公認犬種とグループ分類について説明。		
5	「犬体名称」。 保持・保定に必要な犬体名称を覚えましょう。	20	「A K Cのドッグショー」。 A K Cのドッグショーについて説明。		
6	「サイズを表す用語と採寸」。 サイズを表す用語を覚えましょう。	21	「JKCのドッグショー」。 J K Cのドッグショーの審査と見方について説明。		
7	「正姿勢」と「スタッキング」。犬を正しく立たせる習慣を付けましょう。	22	「犬種名の由来」。 犬種名の成り立ちやパターンについて説明。		
8	「犬種標準書（スタンダード）」。理想像を知る必要性について理解しましょう。	23	「飼育現状と義務」、「犬種別登録頭数」。 犬の推定飼育頭数、犬種ごとの登録頭数、飼育時の義務について説明。		
9	「ポメラニアンスタンダード」。理想像と特徴を理解し、実習に活かしましょう。	24	「医・食・住と平均寿命」。 医（医療）・食（食事）・住（住環境）と平均寿命について説明。		
10	「シーザーのスタンダード」。理想像と特徴を理解し、実習に活かしましょう。	25	「殺処分と補助犬」。 殺処分の現実と補助犬について説明。		
11	「マルチーズのスタンダード」。理想像と特徴を理解し、実習に活かしましょう。	26	「本能と習性」。 犬の本能と習性について理解しましょう。		
12	「ヨークシャー・テリアのスタンダード」。理想像と特徴を理解し、実習に活かしましょう。	27	「足」、「パッド」、「狼爪」。犬種による足の形や特徴、パッドの役割や特徴、狼爪の役割について説明。		
13	「各犬種の毛色（カラー）」。OHPを使って各犬種の毛色を説明します。	28	「血統書」。 血統書の見方と必要性について説明。		
14	「前期試験」。筆記試験を行います。また中間期に中間テストを行います。	29	「後期試験」。 筆記試験を行います。また中間期に中間テストを行います。		
15	「前期授業の振り返り」。 試験を返却し、解答と再説明。	30	「後期授業の振り返り」。 試験を返却し。解答と再説明。		
授業時間外学修（事前・事後学習等）					
教科書・テキスト	グルーミングテキスト。 J K C 犬種標準書・用語解説。				
参考書	犬種カタログ、犬の写真図鑑、イラストで見る犬の病気。				
評価方法・基準	筆記試験（中間テストと期末テスト）、課題提出、出席日数など				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	エコロジー概論	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	次世代のための環境教育	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Environmental Study for Next Generation	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大学での専攻は環境経済学、現在海洋環境の保護、改善、維持を福井県越前町にて越前町漁協、越前町社会福祉協議会と協力し行っている。				
授業の概要・目的					
我々が地球と共存していく上で環境問題を見無視する事は出来ない。地球創世時～人が文明を持つまでの流れを理解し、いつから環境破壊というものが行われ始めたのか、又、これらの問題はどのような解決策があるのかを学ぶ事により様々な場で、地球に優しいとはどういう事を正しく人に伝えられるようになります。					
到達目標					
地球の生い立ち、生物の発生、生物の進化、ヒトと地球の関係、環境破壊と保全を理解し説明できるとともに、自分の考えを述べる事ができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	概論 講義内容と進め方				
2	宇宙Ⅰ 成り立ちと銀河系				
3	宇宙Ⅱ 地球				
4	生命の誕生 原核生物～爬虫類				
5	爬虫類 恐竜について				
6	哺乳類 サルからヒトへ				
7	動物の歴史とヒトの関わり 野生動物とヒト				
8	ロープワーク ロープワーク				
9	環境問題 中世と現代				
10	環境問題 様々な環境問題				
11	新エネルギー 太陽光や、風力、波力などの新エネルギー				
12	国際取り組みⅠ 世界の環境対策Ⅰ				
13	国際取り組みⅡ 世界の環境対策Ⅱ				
14	前期まとめ				
15	前期内容の総括を行う				
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜に課題を与える。授業中に取ったメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	次世代のための環境教育				
参考書	なし。				
評価方法・基準	ノート提出による評価、但しコピーは不可				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	家庭犬トレーニング	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Home Dog Training	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	90(6)
講師名					
実務経験概要	ジャパンケンネルクラブ公認訓練所 清水ドッグスクール代表 ジャパンケンネルクラブ公認訓練範士 ジャパンケンネルクラブ公認アジリティー指導員				
授業の概要・目的					
警察犬や福祉犬との違い、家庭犬としてのトレーニングを理解する					
到達目標					
家庭犬トレーニングの基礎を身に着ける					
授業計画(テーマ・内容)					
1	家庭犬とは／家庭犬の目的を説明	16	待ての意味、教え方③		
2	家庭犬に必要なトレーニングについて	17	脚測行進の意味、教え方①		
3	一般的な家庭犬トレーニングについて	18	脚測行進の意味、教え方②		
4	基本訓練について	19	脚測行進の意味、教え方③		
5	ほめることとは／叱ることとは	20	招呼の意味、教え方①		
6	ご褒美の使い方	21	招呼の意味、教え方②		
7	犬と遊ぶということ	22	招呼の意味、教え方③		
8	停座の意味、教え方①	23	基本訓練のまとめ		
9	停座の意味、教え方②	24	家庭犬トレーニング応用編 訓練競技会①		
10	停座の意味、教え方③	25	家庭犬トレーニング応用編 訓練競技会②		
11	伏臥の意味、教え方①	26	家庭犬トレーニング応用編 アジリティー①		
12	伏臥の意味、教え方②	27	家庭犬トレーニング応用編 アジリティー②		
13	伏臥の意味、教え方③	28	問題行動①		
14	待ての意味、教え方①	29	問題行動②		
15	待ての意味、教え方②	30	問題行動③		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	競技会の参加				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	実技試験80%、出席率20%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	警察犬トレーニングⅠ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Police Dog TrainingⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	90(6)
講師名					
実務経験概要	警察犬訓練所で5年実務経験を積んだのち家庭犬訓練士、警察犬訓練士の資格を取得。 独立開業し警察犬訓練所を11年運営し現在も警察犬訓練士として活動中				
授業の概要・目的					
犬は体のサイズのバラエティーがとても豊富で活発な大型犬と小型犬では必要なスキルが大きく違う。トレーナーに限らず、トリマーや、動物看護師など犬の仕事に就く際に大型犬に触れる機会が多い。体重が2～3キロ程度の小型犬では容易にコントロールできることが体重が40キロ～50キロの大型犬では難易度が跳ね上がる。そのため将来犬の仕事に就く為には大型犬に慣れていることが求められる。また警察犬の訓練は犬の本能を利用しているため他の仕事に従事している犬や一般家庭犬にも通じるトレーニング理論が存在する。本開講科目では警察犬訓練所に在籍している主に訓練済みの大型犬を使用し、そのコントロールを習得する。講義では警察犬の特殊な能力はどのような本能や習性、心理から得ることが出来るのか理解する。具体的な訓練方法を理解する。					
到達目標					
警察犬訓練所に在籍している訓練済みの大型犬を使用しコントロールを取れるようになる。犬の本能、心理、習性について記述できるようになる。具体的な訓練方法を説明できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	警察犬種について理解する/訓練道具の使用方法を理解する	16	しつけと訓練の関係を理解する/リードの有無でのコントロールの違いを理解する		
2	犬の性格タイプについて理解する/リードを正しく持てるようになる	17	トイレトレーニングを説明できるようになる/クランクコースを脚側行進でできるようになる		
3	本能について理解する/停座させれるようになる	18	ボディコントロールを説明できるようになる/リード無しの停座ができるようになる		
4	心理について理解する/伏臥させれるようになる	19	ハウストレーニングについて説明できるようになる/リード無し停座で待たすことができるようになる		
5	犬体各部の名称を理解する/立止させれるようになる	20	吠え声のコントロールを説明できるようになる/リード無しで脚側行進ができるようになる		
6	骨の名称を理解する/停座で待たすことができるようになる	21	リーダーウォークを説明できるようになる/指示された行動を犬に取らすことができるようになる		
7	歯の働きについて理解する/伏臥で待たせることができるようになる	22	集中力とモチベーションの関係を理解する/声符のかけ方を理解する		
8	犬の成長について理解する/脚側停座が出来るようになる	23	停座の教え方を説明できるようになる/誘惑にかからずに犬をコントロールできるようになる		
9	社会化期と訓練期を理解する/アイコンタクトが取れるようになる	24	伏臥の教え方を説明できるようになる/褒めと叱りの関係を理解する		
10	血統書について理解する/招呼ができるようになる	25	立止の教え方を説明できるようになる/正しく褒めれるようになる		
11	優性遺伝と劣性遺伝について理解する/モチベーションの効果的な使い方を理解する	26	脚側停座、行進の教え方を説明できるようになる/正しく叱れるようになる		
12	ワクチンと社会化の関係を理解する/脚側行進で歩けるようになる	27	物品持来の教え方を説明できるようになる/高い表現力を求められるようになる		
13	犬の繁殖について理解する/訓練中の感情表現について理解する	28	障害飛越の教え方を説明できるようになる/緊張感のある中で行えるようになる		
14	前期内容のまとめ	29	後期内容のまとめ		
15	前期内容の振り返り	30	後期内容の振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内で質問を予告し、次の授業で答えさせる				
教科書・テキスト	無し				
参考書	無し				
評価方法・基準	筆記試験33%実技試験33%出席率33%で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	補助犬トレーニングⅠ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Assistance Dog TrainingⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的					
身体障害者補助犬をとりまく環境、介助犬がどのような役割をになっているのか基本的な知識を習得する。トレーニングにおいては「犬」という生き物を理解していくうえで基本となる人間の理解とは異なること、犬の物事も理解の仕方、関係の持ち方を経験する。					
到達目標					
犬にモノというモチベーターというもの、罰を用いずに犬との関係を持つことを目指すことで犬のトレーニングの積み上げ方の難しさを経験し、「ほめ」のタイミングを習得する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	授業について	16	後期担当犬決め		
2	介助犬デモンストレーション	17	課題きめ 介助動作 フードも使用可能		
3	道具の使い方について	18	訓練計画をたてる		
4	犬をさわってみよう 前週学習した内容の実技	19	訓練計画にもとづき訓練 フードの選び方		
5	担当犬決め 自分が第一印象で決めてみる	20	訓練計画にもとづき訓練 フードの使い方		
6	自分たちで犬をだしてみよう ハウスの出し入れ、カラーサイズ合わせ	21	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について①		
7	課題きめ 前期残り6コマで何が教えられるか考えてみる、計画	22	訓練計画にもとづき訓練 犬の行動から犬の認知について②		
8	犬をふりむかせてみよう 犬の興味の取り方 フードは使わず	23	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 意識して		
9	ほめてみよう フードを使わずに犬に喜びを伝えてみる	24	訓練計画にもとづき訓練 誘導トレーニングについて 無意識に		
10	コマンドを与えてみよう 犬の興味を引きコマンドをさせてみる。ほめる	25	訓練計画にもとづき訓練 介助犬として到達点の理解		
11	計画を振り返り、再考	26	訓練計画にもとづき訓練 計画再考し訓練の取捨選択		
12	課題トレーニング①	27	訓練計画にもとづき訓練 訓練		
13	課題トレーニング②	28	訓練計画にもとづき訓練 後期復習		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	振り返り	30	年間振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	事前に訓練課題を明らかにしてくる 事後は訓練の見直し 用意する訓練シートに必ず記入する				
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	出席率45%通常点10%実技テスト45%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	基礎獣医	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Basic Veterinary Medicine	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	15 (1)
講師名					
実務経験概要	大阪市阿倍野区にて25年以上開業獣医師として動物病院を経営				
授業の概要・目的					
犬トレーナーとして知っておくべき獣医学の範疇について学ぶ					
到達目標					
犬に関わる職業人として生活面・健康面、主なトラブルやすべき予防についての知識を習得する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスと犬(人)の身体について①	16	消化器科 前部消化器		
2	身体について②	17	消化器科 後部消化器		
3	狂犬病について	18	循環器科		
4	(混合)ワクチンについて	19	呼吸器科		
5	フィラリアについて	20	泌尿器科		
6	外部寄生虫について	21	皮膚科		
7	薬学について	22	生殖器科		
8	栄養学とフードについて	23	整形外科(骨と関節)		
9	血液検査について	24	内分泌		
10	画像検査について	25	神経科		
11	頭蓋と眼科	26	乳腺腫瘍などよくみられる疾患について①		
12	耳鼻咽喉科	27	乳腺腫瘍などよくみられる疾患について②		
13	歯学科	28	東洋医学や整体について		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	前期振り返り	30	後期振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	ノートチェック、レポート提出				
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	筆記試験70%、出席率30パーセントで最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	陽性強化	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Dog Training	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	家庭犬のしつけ教室、犬の幼稚園、動物介在活動、行動カウンセリング、動物福祉活動、動物同行避難活動、HAB、一般講演				
授業の概要・目的	人間社会において、人と犬がお互いに楽しく共存できるための人道的なトレーニングの基礎を学ぶ。 社会人としてのマナーを身につける。				
到達目標	陽性強化の必要性を理解し、犬、人とのコミュニケーションをよりよくするために活用できる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	JAHA家庭犬しつけインストラクターとは	16	担当犬グループ分け		
2	担当犬グループ分け	17	アイコンタクト、リードの持ち方、カラーのつけ外し		
3	犬の進化と家畜化 実技:アイコンタクト、リードの持ち方	18	ハンドターゲット		
4	アイコンタクト、リードの持ち方、カラーのつけ外し	19	一緒に歩く(リードの範囲内でのいる)		
5	学習の生物学的なしくみ 脳と行動の関係 P30～P36 実技:ハンドターゲット	20	オスワリ・マテ10秒・OK開放 オイデ(オスワリ、首輪を掴む)		
6	ハンドターゲット	21	ツイテの教え方／一緒に歩く散歩との違い ツイテ・オスワリ・フセ		
7	社会的階級制度 P37～P40	22	ツイテ・オスワリ・マテ・離れる・戻る・OK開放 言葉の合図の教え方		
8	一緒に歩く(リードの範囲内でのいる)	23	言葉の合図を教える(できない時、すぐにハンドサインを使う)誘導のフードを抜く		
9	犬の言葉 P47～P52 ①	24	ツイテ・オスワリ・マテ・離れる・戻る・OK開放 言葉の合図の教え方		
10	犬の言葉 P47～P52 ②	25	言葉の合図を教える(オスワリ、フセ、マテ／オイデ 一言で出来る様に ランダムのご褒美の与え方		
11	オートマチックのシット	26	言葉の合図 一言で。出来ない時は、すぐにハンドシグナルを使っているか？ 手にフードを持っていない事。		
12	マテを教える／オスワリ・マテ・OK開放	27	障がいを抱えた犬		
13	前期復習	28	家族としてのトレーニングP94～P98		
14	前期まとめ	29	後期まとめ		
15	前期振り返り	30	後期振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内で随時課題を指示する				
教科書・テキスト	犬のしつけ方教室 .テリーライアン				
参考書	なし				
評価方法・基準	実技テストのみ(授業態度、出席率 参考程度)				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	キャットグルーミング演習	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	選択
開講科目英名	Practice of Cat Grooming	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30（2）
講師名					
実務経験概要	トリミングサロンデプロトリマーとして勤務				
授業の概要・目的	犬だけではなく、猫も取り扱うことができるトリマーになる為に、猫のグルーミングの必要性を理解した上で、グルーミング手法を習得する。				
到達目標	爪切り・耳そうじ・シャンプー・ドライング等の方法について、一般の家庭猫だけではなく、キャットショーに出陳する猫にも対応できるのグルーミング方法を習得する。また、猫のグルーミングの必要性を理解し、飼い主とのコミュニケーションの中で提案ができるようになる。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	猫のシャンプーの流れを細かく説明する	16	1名で1頭をグルーミング（縫れの取り方）		
2	学校の猫をモデルグルーミングする	17	1名で1頭をグルーミング（縫れの取り方）		
3	2名で1頭をグルーミング（爪切り・耳掃除のチェック）	18	1名で1頭をグルーミング（尾の脂の取り方）		
4	2名で1頭をグルーミング（爪切り・耳掃除のチェック）	19	1名で1頭をグルーミング（尾の脂の取り方）		
5	2名で1頭をグルーミング（グープの使い方）	20	1名で1頭をグルーミング（重曹の使い方）		
6	2名で1頭をグルーミング（グープの使い方）	21	1名で1頭をグルーミング（重曹の使い方）		
7	1名で1頭をグルーミング（泡の状態を手の感覚で感じるようになる）	22	1名で2頭をグルーミング（爪の間の脂分の取り方）		
8	1名で1頭をグルーミング（泡の状態を手の感覚で感じるようになる）	23	1名で2頭をグルーミング（爪の間の脂分の取り方）		
9	1名で1頭をグルーミング（濯ぎの状態を目・手で感じるようになる）	24	1名で2頭をグルーミング（スピードアップの方法）		
10	1名で1頭をグルーミング（濯ぎの状態を目・手で感じるようになる）	25	1名で2頭をグルーミング(スピードアップの方法)		
11	1名で1頭をグルーミング(保定)	26	1名で2頭をグルーミング（スピードアップの方法）		
12	1名で1頭をグルーミング（保定）	27	1名で2頭をグルーミング（スピードアップの方法）		
13	1名で1頭をグルーミング（ノート提出）	28	1名で2頭をグルーミング（スピードアップの方法）		
14	1名で1頭をグルーミング（ノート提出）	29	講師のチェックなしで最後まで仕上げる		
15	1名で1頭をグルーミング（前期の振り返りと質疑応答）	30	講師のチェックなしで最後まで仕上げる（後期の振り返りと質疑応答）		
授業時間外学修（事前・事後学習等）	ノート提出				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	前期 ノート提出80％／出席率10％／授業態度10％ で評価 後期 出席率20％／毎授業中（準備・後かたづけ・猫の扱い・技術・スピード）をチェックリストを基に採点80％ で評価				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	猫学	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	コンパニオンキャット	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Companion C a t	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	30 (2)
講師名					
実務経験概要	CFA(キャットファンシャーズアソシエーション USA)公認オールブリードジャッジ				
授業の概要・目的	C F A 公認猫種を基に、猫のスタンダードについて学ぶ。 それに加えて、猫について行動学やカラーをはじめとし、繁殖をする際の注意事項等を含め、幅広く学習する。				
到達目標	飼い主に、解りやすく正しい知識を伝えられるとともに、 トリマーとして活躍するうえで、猫も扱えるトリーマーになることを目指す。				
授業計画（テーマ・内容）					
1	オリエンテーション・純血種/MIXの定義・多胎性・肉食について	16	ブリーディング① （健康な猫をブリードする為の知識）		
2	L H／S H ・Male/Femaleの性格、飼い方、その他の違い・アメリカンS Hについて	17	ブリーディング② （交配～出産まで）		
3	猫と犬の違い① （習性・体型・運動感覚 等）	18	ブリーディング③ （出産～産後の母猫のケア）		
4	猫と犬の違い② （種類・繁殖機能 等）	19	ブリーディング④ （育児～人口哺乳）		
5	行動学① （体の造りによる行動）	20	ブリーディング⑤ （伴侶動物として、性格の良い猫に育てるための知識）		
6	行動学② （猫独特の行動）	21	カラー遺伝① （ソリッド・アグーチ・ポイントカラー）		
7	C F A 公認猫種D V D①	22	カラー遺伝② （優性色・劣性色）		
8	C F A 公認猫種D V D② 猫種別の分類	23	カラー遺伝③ （雌のみのカラー遺伝）		
9	猫の健康チェック①	24	カラー遺伝④ （両親から受け継ぐカラー遺伝）		
10	猫の健康チェック②	25	老猫のケア① （高齢期の行動、体の変化）		
11	アンリカンカールのスタンダード	26	老猫のケア② （家庭で出来る事）		
12	ノルウェージャンホレストキャットのスタンダード	27	老猫のケア③ （高齢期の病気）		
13	猫の血液型 （F N I 猫新生児溶血性黄疸）	28	猫のシャンプー(犬と違うテクニックを学ぶ)		
14	前期学習分のまとめ	29	後期学習分のまとめ		
15	前期学習分振り返り（不理解部分簿解説）	30	テスト見返り（不理解部分簿解説）		
授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業中に課題を与え、適宜提出させてチェックする。 半期ごとに、ノートまとめを提出させる。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	ペーパーテスト（80％）／提出物（10％）／出席率（10％）として算出し、最高評価点を100点満点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	ナチュラルケア	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Natural Care	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）
講師名					
実務経験概要	ナチュラルケアの啓蒙普及目的とする「CACIOコンパニオンアニマルケア国際機構」協会を母体とする複数の協会にて、 認定講師として飼い主様やペット関係従事者様に向けた講義やイベントを１０年以上実施。				
授業の概要・目的					
代替療法（ナチュラルケア・ホリスティックケア）についての理解を深め、自分に何が出来る事、また飼主さまに提案出来る事を考え、オーナーへのサービスの一環として、説明実践出来る様な知識と技術を修得する。					
到達目標					
代替療法であるペットマッサージや犬の食事・ペットアロマに対して、オーナー様への適切なアドバイスやサービスを出来るようになる。　また自身のスキルの一つとして、出来る範囲でケースに応じたナチュラルケアを活用出来るようになる。					
授業計画（テーマ・内容）					
1	代替療法（ナチュラルケア・ホリスティックケア）とは	16	ペットマッサージ・　総論・ナチュラルケアが注目される理由		
2	犬の食事・犬にとっての理想の食事は何か	17	ペットマッサージ・　西洋医学と東洋医学の違いと融合		
3	犬の食事・東洋医学的な体質判断と食材について	18	ペットマッサージ・　東洋医学の考え方とツボ		
4	犬の食事・ペットフード安全法・ペットフードの表示	19	ペットマッサージ・マッサージに必要な骨格、筋肉に関する知識		
5	犬の食事・ペットフードの表示・ペットフードの選び方	20	ペットマッサージ・　効果と注意点		
6	犬の食事・犬の栄養バランスと手作り食	21	ペットマッサージ・　基本手技		
7	犬の食事・犬の手作り食・よくある疑問や留意点	22	ペットマッサージ・　リンパマッサージについて		
8	犬の食事・手作り食の食材の特徴と選び方	23	ペットマッサージ・　リンパマッサージの実践		
9	犬の食事・カロリー計算・レシピを考える	24	ペットマッサージ・症状別ツボの活用法		
10	ペットアロマ・英式と仏式の違い	25	ペットマッサージ・年代別応用		
11	ペットアロマ・体質判断	26	シニアケアについて		
12	ペットアロマ・精油の選び方、取扱上の注意点	27	温熱療法について		
13	ペットアロマ・基材の種類と使い分け	28	犬の反射区		
14	前期の統括	29	後期の統括		
15	学期の振り返り	30	学期の振り返り		
授業時間外学修（事前・事後学習等）	授業時書き留めるノートをもとに整理しまとめ、適宜与える課題などに備える				
教科書・テキスト	なし				
参考書	授業内で適宜紹介する				
評価方法・基準	筆記試験70％・その他（課題・出席率・授業内評価）30％　・　最高評価点数100				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	アジリティ	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Agility	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	ジャパンケンネルクラブ公認訓練所 清水ドッグスクール代表 ジャパンケンネルクラブ公認訓練範士 ジャパンケンネルクラブ公認アジリティー指導員 ジャパンケンネルクラブ公認 A級訓練試験委員、オビディエンス審査員				
授業の概要・目的					
アジリティー競技会のルールやマナーを覚える。担当犬にアジリティーを教える。トレーナーとしてアジリティーに興味がある人に教えることができるようになる。					
到達目標					
アジリティ競技会に出陳する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	アジリティーとは／アジリティの説明	16	スラロームの練習③		
2	アジリティー競技会の規定の説明	17	簡単なコースの練習①		
3	各障害の説明	18	簡単なコースの練習②		
4	ハードルを跳ぶ練習	19	簡単なコースの練習③		
5	連続したハードルの練習	20	競技会の初級レベルの練習①		
6	方向転換の練習	21	競技会の初級レベルの練習②		
7	タッチ障害の練習 Aフレーム①	22	競技会の初級レベルの練習③		
8	タッチ障害の練習 Aフレーム②	23	競技会の中級レベルの練習①		
9	タッチ障害の練習 ドッグウォーク①	24	競技会の中級レベルの練習②		
10	タッチ障害の練習 ドッグウォーク②	25	競技会の中級レベルの練習③		
11	タッチ障害の練習 シーソー①	26	アジリティーを人に教える練習①		
12	タッチ障害の練習 シーソー②	27	アジリティーを人に教える練習②		
13	タッチ障害の練習 シーソー③	28	アジリティーを人に教える練習③		
14	スラロームの練習①	29	担当犬を入れ替えて色んな犬を扱う練習①		
15	スラロームの練習②	30	担当犬を入れ替えて色んな犬を扱う練習②		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	競技会の参加				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	実技80%、出席率20%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	ドッグビジネスⅡ	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Dog BusinessⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	2008年『おりこうさん。』を設立。犬にも人間にも優しいドッグトレーニングをスローガンに訪問レッスンやスタジオレッスンを行う。クリックートレーニングをはじめとする常に先進的なトレーニングを取り入れ、各地でワークショップやセミナーを開催。またインターネットを利用したオンラインレッスンを行う。テリントンタッチのプラクティショナー認定を取得し、犬の身体・心・頭のバランスを整えるトレーニングを行う。				
授業の概要・目的					
ますます競争が激しくなっているドッグ関連のビジネスパーソンとして必要な多岐にわたる知識とスキルを学ぶ。動物福祉に基づくドッグビジネス活動について知る。業界の即戦力として活躍できる準備となる様々な基本的な知識から最新情報まで広く学ぶ。					
到達目標					
ドッグビジネスにおける様々な知識やスキルを理解し、動物福祉に基づいてそれらを活用することが出来るようになることを求められていることを深く知る。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自分の定形あいさつ、自己紹介をつくり、自己アピールする一つの方法を学ぶ。	16	ドッグトレーニング計画・記録の付け方を知る		
2	ドッグビジネスの現状を知る	17	強化について学び、ドッグトレーニングやビジネスでの活用方法を知る		
3	ドッグビジネス経営のための収支のメカニズムを理解する	18	犬の問題行動とは何かについて深く考える		
4	ビジネスパーソンとしての接遇を知り、理解する。	19	犬の問題行動について飼い主との関係性を理解する		
5	ポジティブワードを活用によりビジネスの活性化に影響を与えることを理解する。	20	犬の問題行動を改善するためにドッグトレーナーができることについて学ぶ①		
6	ドッグビジネス経営のための集客メディアについて知る	21	犬の問題行動を改善するためにドッグトレーナーができることについて学ぶ②		
7	商品力の重要性について理解する	22	犬の問題行動を改善するためにドッグトレーナーができることについて学ぶ③		
8	飼い主にとって魅力的なビジネス(お店・サービス・スタッフ)について理解する	23	犬の問題行動を改善するためにドッグトレーナーができることについて学ぶ④		
9	広告戦略について理解する	24	犬の問題行動を改善するためにロールプレイングを通して実践的に活用する方法を学ぶ①		
10	動物福祉について知り、実践できるように理解を深める	25	犬の問題行動を改善するためにロールプレイングを通して実践的に活用する方法を学ぶ②		
11	SNSを活用した広告戦略について理解する	26	犬の問題行動を改善するためにロールプレイングを通して実践的に活用する方法を学ぶ③		
12	ビジネスパーソンとして周辺視野について知る	27	後期まとめ		
13	ビジネスパーソンとして柔軟性(思考・行動)について知る	28	後期振り返り		
14	前期まとめ	29	テリントンタッチについてまなび、ドッグトレーニングへの活用方法を知る①		
15	前期振り返り	30	テリントンタッチについてまなび、ドッグトレーニングへの活用方法を知る②		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	スマートフォンアプリ「単語帳メーカー」を宿題として活用し、各自の問題行動解決マニュアルを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	出席率40%, テスト50%, 授業への取り組み等10%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	介助犬トレーニング	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Service Dog Training	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	120 (8)
講師名					
実務経験概要	介助犬をそだてる会1年半勤務。日本介助犬トレーニングセンター5年勤務。京都アシスタントドッグ育成協会に勤務、現在に至る。JKC公認訓練士である。2019年人と犬のトータルサポートを目指し「with わん」設立				
授業の概要・目的					
介助犬を中心に身体障害者補助犬についてのトレーニングをまなぶ。一般のトレーニングとことなり、社会において法の下で活動をする犬の社会的責任を理解し、その責任を全うできる犬をトレーニングするスキルと知識を身に着ける。					
到達目標					
介助犬をトレーニングするうえで、使用者の障害や環境に合わせたその人に必要な項目を見出し、その項目のトレーニング計画を自ら立てることができる					
授業計画（テーマ・内容）					
1・2	道具などの準備物授業内容について	31・32	介助犬デモストレーションを見て動作ポイントを知る		
3・4	年間通しての担当犬決め	33・34	介助動作1項目を選び、計画を立てる		
5・6	担当犬の性質・課題の見極め	35・36	計画を立てた通り担当犬でためす		
7・8	課題に対してのトレーニング計画	37・38	トレーニング計画再考		
9・10	講師指導の下、トレーニング計画見直し	39・40	課題のゴールを理解する/車いすで基本トレーニング		
11・12	基本トレーニング（座れ・ふせ・マテ・脚測・招呼）計画の下行ってみる①	41・42	課題を犬の視点で考える/車いすで基本トレーニング		
13・14	基本トレーニング（座れ・ふせ・マテ・脚測・招呼）計画の下行ってみる①	43・44	動作をおしえるための「ほめ」のポイント/車いすで基本トレーニング		
15・16	トレーニング計画再考	45・46	トレーニングのステップアップの仕方について/車いすで基本トレーニング		
17・18	座れ、、、1視符1声符で行う	47・48	犬の自信のつけ方について/車いすで基本トレーニング		
19・20	伏せ、、、上記に同じ	49・50	動作確認/車いすで基本トレーニング		
21・22	まで、、、伏せ、座れ各々10分以上キープ	51・52	通年課題を車いすでおこなう		
23・24	脚側歩行、常歩で直進できる	53・54	一般の飼い主さんへの動作引継ぎ内容考察		
25・26	上記4項目復習	55・56	引継ぎりハーサル		
27・28	前期まとめ	57・58	後期まとめ		
29・30	前期の振り返り	59・60	一般の飼い主さんへの動作引継ぎ		
授業時間外学修（事前・事後学習等）	毎回のトレーニング計画の振り返り、計画のたてなおし、課題を明らかにして授業にのぞむ				
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	出席率40％通常点40％実技20％				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドッグトレーニング	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	問題行動	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Dog Behavior	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大阪第一警察犬訓練学校で警察犬の訓練方法を学び、後独立開業、主に家庭犬訓練を行う、2016年に「犬の幼稚園　ワンツウクラブ」を設立。				
授業の概要・目的	犬を飼う人は核家族化に伴い多くなりそれに伴い犬の問題行動も多くなっているのが現状である、問題行動は犬の飼育放棄にも直結しており、トレーナーとしては必ず学ばなければならないスキルでもある。本講義では犬の本来の特性を理解して、個別の性格、状況を考慮して、犬に極度な負担を強いることなく、飼い主の訴える問題を踏まえ、家庭内の環境や飼い主のスキル様々な状況下を考え適切にアドバイスできるような方法論を学ぶ。				
到達目標	問題行動は100頭いれば100通りの問題があるが、講義では主な事例等を上げ、一般的な解決法などを学ぶ、また飼い主に対応するコミュニケーションの仕方や動物心理などを理解する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	問題行動の講義進め方。問題行動の主な種類について知識を深める。	16			
2	攻撃行動について学ぶ。何故犬が人に攻撃するのか、具体的な事例を上げ理解を深める。	17			
3	分離不安について学ぶ。分離不安の原因、対処法、飼い主へのアドバイス方法を学ぶ。	18			
4	排泄の問題を学ぶ。排泄について本来自然にできるもんだが何故問題になるのか、間違った方法や飼い主の心理などを考え理解を深める。	19			
5	破壊的行動について学ぶ。ありとあらゆるものを破壊する犬は飼育放棄につながる、一つだけの原因ではないことを知り、理解を深める。	20			
6	摂取、肥満管理について学ぶ。太る原因はただ飼い主だけの問題ではなく、人の心の問題が大きく影響していることを深く知る。	21			
7	老齢の問題について学ぶ。動物の医療技術の進歩により高齢の犬が多くなってきた、それにともない高齢の犬の問題が多くなってきたことを知る。	22			
8	手のつけられない行動について学ぶ。飛びつきや暴れる、興奮する、その他、飼い主にとって手に負えない行動について深く知識を深める。	23			
9	吠える問題につて学ぶ。犬の問題で攻撃について一番多い問題である。犬本来の行動であるが何故大きな問題になるかを深く学ぶ。	24			
10	恐れと恐怖症について学ぶ。恐れは多種多様なものが含まれる、解決法もかなり多く、それらを理解を深め学ぶ。	25			
11	常同行動強制行動について学ぶ。特殊な問題行動である、病理的な見地から深く学ぶ必要がある。	26			
12	その他の問題、特殊な問題について学び知識を深める。	27			
13	行動治療に用いられる薬物について学ぶ。薬の効用について詳しくしる。	28			
14	行動のカウンセリング方法、飼い主とのコミュニケーションをどのように深めるかを詳しく学んでいく。	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	問題行動の実例を出しそれについての回答を提出する。レポート形式。				
教科書・テキスト	特になし				
参考書	犬の問題行動　ハンドブック　佐々木伸雄監修				
評価方法・基準	筆記試験を行う。その他として出席点を設ける。15回出席の者は15点与える、　3回以上欠席の者は出席点は0点とする。　13回の者は13点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	看護・繁殖	開講学科	ペットビジネス科		
開講科目名	動物の看護	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Nursing	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60（4）
講師名					
実務経験概要	獣医師（行動分野診療。問題行動、飼育指導、家庭犬トレーニング等）				
授業の概要・目的					
動物看護の精神について学び、また、個々の動物の環境や状況を理解し、個別性をふまえた生活ステージすべてに関与し、一生を支えるために必要な看護の知識と技術を学ぶ。					
到達目標					
ドッグトレーナーとして、看護の知識と技術を習得した上で、飼い主に説明できることを目標とする。					
授業計画（テーマ・内容）					
1	クライアントエデュケーションとは（生涯をサポートする）	16	投薬の仕方		
2	看護に関する必要な知識と範囲とは	17	看護実習		
3	バイタルサインについて	18	入院管理①		
4	狂犬病と狂犬病予防法	19	入院管理②		
5	狂犬病（DVD）	20	嘔吐と下痢①		
6	人畜共通感染症について①	21	嘔吐と下痢②		
7	人畜共通感染症について②	22	老化とケア		
8	家に犬を迎える流れ	23	認知症とケア		
9	外部寄生虫①	24	繁殖と遺伝病①		
10	外部寄生虫②	25	繁殖と遺伝病②		
11	動物病院の仕事の流れ	26	繁殖と遺伝病③		
12	看護の精神と飼い主対応について	27	仔犬と子猫のケア		
13	犬と猫の扱い方①	28	ドッグトレーナーとしての看護の知識まとめ①		
14	犬と猫の扱い方②	29	ドッグトレーナーとしての看護の知識まとめ②		
15	前期学習内容の総括	30	後期学習内容の総括		
授業時間外学修 （事前・事後学習等）	授業にて習う分野の予習復習を行う。授業中に適宜指導する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	動物看護コアテキスト/ファームプレス など				
評価方法・基準	筆記試験および授業態度等から総合的に評価する				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋活動	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Marine Activity	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
水生生物のフィールド調査方法や実験方法について学ぶ。フィールド調査で野外に行くときは、通常授業日と振り替え土曜日に調査を行うことがある。					
到達目標					
2年時に行う卒業研究に必要な研究方法の知識や考察方法の基礎を学び、卒業研究時に必要なスキルを習得することを目指す。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	【授業概略の紹介】これから1年間に渡って学ぶ海洋活動の内容を説明。	16	【魚類種の同定法1】魚類鱭の名称と役割について説明。		
2	【河川調査法1】河川の水質調査方法について説明。	17	【魚類種の同定法2】魚類鱭の鱭式による種の同定法について説明。		
3	【河川調査法2】淀川に生息する天然記念物のイタセンパラを例として、河川の魚類調査方法について説明。	18	【魚類種の同定法3】魚類鱭の鱭式による種の同定法の続き。		
4	【河川調査法3】淀川の城北公園あるワンドにおいて、水質調査と魚類調査を実施する。	19	【魚類の外部形態1】魚類外部形態の測定項目について説明。		
5	【河川調査法4】淀川調査で調べた結果のデータをまとめ、解析を行う。	20	【魚類の外部形態2】魚類外部形態の測定項目の続き。		
6	【水質1】水質(pH・DO・NH ₄ ・NO ₂ ・NO ₃)について学び、水質の評価する方法を理解する。	21	【魚類の外部形態3】外部形態の差異から種を同定する方法について説明。		
7	【水質2】魚飼育のときに用いている濾過槽の中での水質浄化のしくみを理解する。	22	【魚類の外部形態4】外部形態の差異から種を同定する方法について説明。		
8	【水質3】濾過槽の中での水質浄化の続き。	23	【魚類の外部形態5】魚類検索図鑑を用いた魚種の検索方法について説明。		
9	【水質4】自然の河川や海での水質浄化のしくみを理解する。	24	【魚類の内部構造6】魚類の骨格について説明。		
10	【水質5】海水の塩分濃度と比重の関係を理解する。	25	【魚類の内部構造7】魚類の内蔵について説明。		
11	【水質6】海水の塩分濃度が海洋生物に及ぼす影響について理解する。	26	【魚類の年齢査定】鱗および耳石から年齢を調べる方法について説明。		
12	【磯生物調査1】磯生物の生物学的特性について説明。	27	【魚類のスケッチ1】点描画によるスケッチの方法を説明。		
13	【磯生物調査2】磯生物の調査法について説明。	28	【魚類のスケッチ2】点描画の作成		
14	【磯生物調査3】長松自然海浜にて磯生物調査を実施。	29	【魚類のスケッチ3】点描画の続き		
15	【磯生物調査4】調査したデータをまとめ、解析を行う。	30	1年間の総括授業を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	調査実習を行うときは、事前に調査場所の状況(地形・気象条件・潮汐など)を自分で調べる。調査後は、調査結果のデータをまとめるだけでなく、文献などを調べ、今まで報告された結果と自分の結果を比較し、自分の結果に対して考察を行うこと。				
教科書・テキスト	テキストなし。随時資料を配布する。				
参考書	なし				
評価方法・基準	調査した結果をまとめたレポートの提出および筆記試験を行う。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋哺乳類 I	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Marine Mammal Science I	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	専門:比較認知心理学、行動生態学、海洋哺乳類学、アニマル・トレーニング & ケア。ハワイ大学ケワロ湾海洋哺乳類研究所、海洋生物研究所海洋哺乳類プログラムで研究員兼トレーナーを務める。特に前者ではハンドウイルカの言語理解能力、空間認知の研究に携わる。帰国後は沖縄海洋研究所およびあわしまマリンパーク(旧淡島マリンパーク)で飼育顧問、南知多ビーチランドで飼育・研究アドバイザーを務める。国際海洋動物トレーナー協会の国際会議などで動物の飼育・トレーニング・福祉に積極的に動物の認知能力を取り入れる啓蒙活動を推し進めている。				
授業の概要・目的					
本講義の対象種である海洋哺乳類は、日本近海にも多数生息し、水族館やホエールウォッチング、ドルフィンスイムなどでも身近な存在であり、様々な地域で重要な観光資源となっている。しかしながら、近年、野生動物の観光利用は厳しい立場に立たされつつある。また、人間活動などが原因で、過去に生息数を大きく減少したために保護を必要とする種や、絶滅してしまった種が存在する。こうした現状において、将来、水族館やホエールウォッチングの現場などを含め、野生動物と関わる職種への就職を目指す学生は、対象動物に対する知識を身につけ、一般客へそれを伝えられるようになる必要がある。本開講科目では、海洋哺乳類の分類、進化、体の構造、生理といった基礎情報に加え、生態、社会、行動、認知などについて習得する。また、保全や飼育に対する世論についても知識を深める。					
到達目標					
水族館飼育員およびウォッチングガイドなどに必要な海洋哺乳類の基礎生態を説明できるようになる。具体的には、分類、進化および水中適応について概説できるようになる。また代表的な種について、分布、食性、繁殖、成長および社会などについて解説できるようになる。生息状況が悪化した海洋哺乳類を中心に、その原因や保全について論じることができるようになる。人と鯨類の関わり方の歴史や飼育などの観光利用に関する現状を説明できるとともに、それらについて自分の考えを述べることができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	分類、系統、学名の概要について理解する	16	鯨類の餌と採餌生態について説明できるようになる		
2	鯨類の進化について概説できるようになる	17	鰭脚類・海牛類などの餌と摂餌生態について説明できるようになる		
3	ヒゲジラの分類について概説できるようになる	18	海洋哺乳類の生殖(生殖器、生殖腺、排卵、妊娠)について理解する		
4	ハクジラの分類について概説できるようになる	19	ハクジラの生活史と社会(ネズミイルカ科、アカボウクジラ科など)について説明できるようになる		
5	鰭脚類の進化・分類について概説できるようになる	20	ハクジラの生活史と社会(ハンドウイルカなど)について説明できるようになる		
6	海牛類の進化・分類について概説できるようになる	21	ハクジラの生活史と社会(マッコウクジラ、ゴンドウ、シャチなど)について説明できるようになる		
7	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(外部形態、各部位の役割、計測)について理解する	22	鰭脚類などの生活史と社会について説明できるようになる		
8	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(皮膚、体温調整、体色)について理解する	23	海洋哺乳類の生活史と社会の特徴を概説できるようになる		
9	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(脳、嗅覚、触覚)について理解する	24	社会的知性の概説と海洋哺乳類との関係について理解する		
10	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(眼、視覚)について理解する	25	海洋哺乳類(主にハンドウイルカ)の社会行動について概説ができるようになる		
11	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(耳、聴覚、鳴音)について理解する	26	海洋哺乳類(主にハンドウイルカ)の認知について概説ができるようになる		
12	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(コミュニケーション、エコーロケーション)について理解する	27	海洋哺乳類における化学汚染、生息数の減少と保全について自分の考えが述べられるようになる		
13	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(骨格、筋肉、遊泳)について理解する	28	捕鯨の歴史と現状について自分の考えを述べることができるようになる		
14	海洋哺乳類の体のつくりとはたらき(循環、呼吸器、消化器など)について理解する	29	水族館やホエールウォッチングと海洋哺乳類の関わりと将来のあり方について自分の考えが述べられるようになる		
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業内容を整理し覚えておく。疑問点があれば書き出し、質問する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	イルカ概論 日本近海産小型鯨類の生態と保全 粕谷俊雄 著 東海大学出版 / 鯨類学 村山 司 著 東海大学出版 / その他講義中に紹介する。				
評価方法・基準	筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	水生生物飼育管理 I	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Aquatic Animas and Plants Rearing I	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	大阪のペット卸問屋ダイエー商会に6年間勤務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の販売及び海外からの観賞魚・水草の輸入やブリーディングを手掛け現在に至る。観賞魚のコンテストにも多数参加し、優秀な成績を収めている。平成28年より奈良県大和郡山市の金魚マイスター講座の講師も務める。				
授業の概要・目的					
淡水水生生物を飼育管理するうえで必要な、淡水魚種に関する知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及び浄化システムに関する基礎知識・魚病に関する知識・水草育成に関する知識・魚種別で異なる飼育管理知識等を自作のテキストを用いて学習し、演習で各器具・各機材の取り扱い方法を習得し、更に飼育・レイアウトの技術向上を図る。淡水水生生物の飼育管理を行うための基礎知識及び技術の習得。様々な手法に応用できる基礎知識及び技術の習得。様々なアクシデント(病気や水質変化、飼育器具のトラブル等)に対応できる知識と技術を習得する。					
到達目標					
淡水水生生物飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。基礎知識を生かし、様々な飼育法に応用できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1.2	年間授業進行スケジュール:自己紹介。1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。 自作テキスト資料配布。実習室の説明。	31.32	淡水魚の病気と治療:感染性の病気と非感染性の病気について。生体選択発注。		
3.4	淡水観賞魚の概要:淡水観賞魚の生息地、流通、淡水観賞魚商業養殖について。各個人水槽配布、設置。	33.34	淡水魚の病気と治療:病気の種類(ウイルス・細菌・寄生虫)について。生体導入。		
5.6	淡水観賞魚の分類:観賞用淡水魚の分類、学名について。各個人水槽水作り。	35.36	淡水魚の病気と治療:病種別治療法①。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
7.8	淡水水生生物飼育に必要な器材:水槽に関する知識(ガラス水槽)。生体選択発注。	37.38	淡水魚の病気と治療:病種別治療法②。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
9.1	淡水水生生物飼育に必要な器材水槽に関する知識(アクリル水槽)。生体導入。	39.4	淡水魚の病気と治療:薬使用時の注意点・塩の効能について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
11.12	淡水水生生物飼育に必要な器材:濾過フィルター・濾過材に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	41.42	水草の育成法:二酸化炭素(CO ₂)について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
13.14	淡水水生生物飼育に必要な器材:濾過バクテリア・底砂に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	43.44	水草の育成法:照明について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
15.16	淡水水生生物飼育に必要な器材:照明器具・保温器具に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	45.46	水草の育成法:底床・濾過フィルター・肥料について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
17.18	淡水水生生物飼育に必要な器材:その他設備、備品に関する知識。各個人水槽管理実施、適宣説明。	47.48	水草の育成法:夏と冬の管理について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
19.2	水槽の設置・立ち上げ・生体導入:水槽設置時の注意点、水作り、温度合わせと水合わせ。各個人水槽管理実施、適宣説明。	49.5	藻類各種の発生原因と種類別対処法:珪藻類・糸状藻類。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
21.22	濾過フィルターの仕組みについて:水槽飼育と自然界との違いについて。各個人水槽管理実施、適宣説明。	51.52	藻類各種の発生原因と種類別対処法:ヒゲ状藻類・藍藻・アオコ。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
23.24	水質検査の必要性:pH(ピーエイチ)・NO ₂ (亜硝酸)・NH ₃ /NH ₄ ⁺ (アンモニアとアンモニウムイオン)について。各個人水槽管理実施、適宣説明。	53.54	有害な生物の駆除:巻貝やプラナリアなどの発生予防と駆除法。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
25.26	水槽メンテナンスの基本知識:コケ取り、換水、ろ材の管理について。各個人水槽管理実施、適宣説明。	55.56	水草のレイアウト:構図・水草の選択について。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
27.28	水質異常時の対処法:NO ₂ 、NH ₃ 検出時の対処法、pHショック予防法。各個人水槽管理実施、適宣説明。	57.58	水草のレイアウト:植栽・トリミングについて。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
29.30	前期学習内容統括:水槽維持管理についてのまとめ。各個人水槽管理実施、適宣説明。	59.60	後期学習内容統括:水槽維持管理についてのまとめ。各個人水槽管理実施、適宣説明。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	生物の飼育は日々観察することが重要です。自分の水槽は毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。				
教科書・テキスト	芦田自作テキスト				
参考書	THE AQUARIUM 3200 ATLAS (熱帯魚3200種大図鑑)				
評価方法・基準	筆記試験:試験点数の他、演習評価、出席率も評価対象とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	潜水士対策講座	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Seminar of Proffesioal Diving	授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
国家資格である潜水士は、水中で仕事をするような水族館職員、イルカのトレーナー、ダイビングインストラクター、潜水士、自然の状態を調べる調査会社などでは必須の資格であります。近年では水族館に提出するエントリーシートや履歴書に本資格が記載されていないと受験をすることが出来ません。本資格では、イメージしにくい水圧の影響や高気圧障害などを、具体的な事例や事故などを紹介しながら説明していきます。					
到達目標					
潜水士の資格取得を目指して学習します。出来る限り、1年次終了までに、本資格の取得を目指しましょう。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	潜水の範囲と圧力(水圧、絶対圧力、ゲージ圧力)を理解する。	16			
2	ボイルの法則、シャルルの法則、ダルトンの法則を理解し、計算することができる。	17			
3	アルキメデスの法則、パスカルの法則、水中での物の見え方を理解する	18			
4	水中で利用するポンベに充填されている気体(酸素、窒素、二酸化炭素、一酸化炭素、ヘリウムなど)の性質を理解する。	19			
5	潜水器(硬式潜水、軟式潜水)の特徴、潜水方法(トライミクス潜水、ナイトロックス潜水、バウンス潜水、飽和潜水)などの特徴を理解する	20			
6	潜水方法(スクーバ潜水、全面マスク式潜水、ヘルメット式潜水、混合ガス潜水)などの特徴、を理解する	21			
7	事業者が安全に潜水士に作業させるためにどのようなことをするのかを理解する	22			
8	送気系統、潜水器の特徴、定期点検の頻度を理解し覚える。	23			
9	スクーバや送気式潜水をするとき、どれだけ潜れるかの、予備空気槽の容量などの計算方法を理解し、問題が解けるようになる。	24			
10	循環器、呼吸器、神経系などの器官が水圧の影響を受けたとき、どのような問題があるのかを理解する。	25			
11	水圧が関係する様々な高気圧障害(減圧症、窒素酔い、副鼻腔障害、酸素中毒、一酸化炭素中毒など)を理解する	26			
12	水温が高気圧障害にどのように影響を与えるかを理解する。	27			
13	潜水に関係する法律を理解する。	28			
14	本資格の実践問題を解く、分からない場合、適宜解説する	29			
15	前期学習の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	過去問をたくさん解いて問題に慣れる。授業内で配布するまとめプリントを覚える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	潜水士テキスト(中央労働災害防止協会)、潜水士 過去問・解答解説集(TAKARA license)				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%で、最高評価点は100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物関連法規	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Laws of Animals	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	行政書士事務所開設年月日:1998年2月16日 得意分野】: 人と動物に関する法律および関連する各種許認可手続きなど				
授業の概要・目的					
野生動物や家庭動物を中心として、飼い主を含む人と動物が関わる法律について解説する。					
到達目標					
・狂犬病予防法や動物愛護法などの概要について理解できるようになる。 ・外来生物法やワシントン条約など、野生動物に関わる法律について理解できるようになる。 ・社会における上記の法律などがどのように関わっているのか複眼的に実感できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介、授業概要説明、法律の仕組み	16	ワシントン条約(1) 日本語と英語の正式名称、発効までの背景など		
2	狂犬病予防法(1) 狂犬病の概要□	17	ワシントン条約(2) レッドリストとの違い□		
3	狂犬病予防法(2) 狂犬病清浄国について	18	ワシントン条約(3) 留保など □		
4	狂犬病予防法(3) 狂犬病予防法の概要その1 施行年、目的など□	19	ワシントン条約(4) 附属書1□		
5	狂犬病予防法(5) 狂犬病予防法の概要その2 対象動物、輸入禁止動物など	20	ワシントン条約(5) 附属書2、附属書3		
6	狂犬病予防法(7) 狂犬病予防法の概要その4 飼い主と行政の義務□	21	種の保存法(1) 制定の背景、法律の概要		
7	動物が亡くなった場合のルール(1)人と動物の埋葬ルールの違い□	22	種の保存法(2) 国際希少野生動植物種など		
8	動物が亡くなった場合のルール(2)化製場法について□	23	種の保存法(3) 国内希少野生動植物種、罰則など		
9	外来種と外来生物(1) 外来種と外来生物の違いなど□	24	動物愛護法(1)動物愛護法制定・改正までの経緯 その1□		
10	外来種と外来生物(2) 意図的導入と非意図的導入の実例 その1□	25	動物愛護法(3)目的・基本原則など		
11	外来種と外来生物(3) 意図的導入と非意図的導入の実例 その2□	26	動物愛護法(4)動物虐待に対する罰則 その1□		
12	外来生物法の概要(1)施行年、目的など□	27	動物愛護法(5)動物取扱業の概要 その1 □		
13	外来生物法の概要(3)特定外来生物の規制内容 その1□	28	動物愛護法(6)動物取扱業の概要 その2□		
14	外来生物法の概要(3)特定外来生物の規制内容 その2	29	動物愛護法(7)動物取扱業の概要 その3		
15	前期総括・解説 外来生物法の概要(5)未判定外来生物、罰則など	30	後期総括・解説、一年の振り返り		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモなどからのートを作成する				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書					
評価方法・基準	評価の割合は、レポート試験80%、出席率を20%で最高評価点を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクアエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	小型船舶免許対策講座	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Seminar of Boat Handling	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	2006年に1級小型船舶教習教員を取得後、滋賀県琵琶湖において現在まで国家試験の認定教員として携わっている。				
授業の概要・目的	1級小型船舶免許取得は、海に関連した業界で就職率を上げるうえでも必須である。単なる資格取得にとどまらず、実際の水上においても即戦力を身に付ける。				
到達目標	国家資格である1級小型船舶操縦士免許試験を合格できるだけの知識を習得する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	水上交通の特性 陸上交通との違い・注意事項・事故の発生状況	16			
2	小型船舶船長の心得 役割・責任・事故時の対応	17			
3	小型船舶船長の遵守事項 免許、検査、登録制度・環境への配慮	18			
4	一般海域での交通ルール 海上衝突予防法	19			
5	港内での交通ルール 港則法	20			
6	特定海域での交通ルール 海上交通安全法	21			
7	船体、設備、装備品・機関の取扱 発航前点検・基本操作	22			
8	操縦・航海の基礎 操縦の基本・海図	23			
9	航海計画・救命設備、通信設備 出航前の準備・小型船舶に搭載する救命設備	24			
10	気象・海象・荒天航法・海難事例 気象の諸要素・海難事例	25			
11	機関の保守整備・機関故障時の対応 エンジンの基本・機関故障時の対応	26			
12	海図図式1 海図の読み方	27			
13	海図図式2 海図の読み方	28			
14	小型船舶操縦士教本が理解でき、海図が読めるようになる	29			
15	学習内容の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	小型船舶操縦士免許学科教本Ⅰ・Ⅱ、小型船舶操縦士試験問題Ⅰ・Ⅱ、練習用海図				
参考書	なし。				
評価方法・基準	評価は筆記試験100%とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	アニマルベーシック	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Basic Animal Study	授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	農学博士、現在本校の専任講師および近畿大学農学部水産学科非常勤講師。環境省(財)環境科学総合研究所にて高濃度のCO ₂ および農薬が生物に及ぼす影響について研究。海外での環境保全・野生動物保護活動を行う(アルゼンチン国立ラプラタ大学にてラプラタ川の生物調査、カンボジアのメコン川およびボルネオのキナバタンガン川に生息するカワイルカの調査と保護活動)。				
授業の概要・目的					
動物を学ぶ上で、基礎となる細胞や遺伝子、体の機能を学び、次年度の学習の基礎知識を身に着ける。					
到達目標					
生物進化の概要や公衆衛生、環境問題などの現状を知り説明できる様になる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	進化と分類	16			
2	光合成と食物網	17			
3	生物学の現状1	18			
4	生物学の現状2	19			
5	血液の重要性	20			
6	バイタルサイン・免疫系	21			
7	内・外分泌系	22			
8	五大栄養素と飼料・餌料	23			
9	遺伝と繁殖	24			
10	バイオテクノロジー	25			
11	種の多様性・外来種問題 レポート課題発表	26			
12	地球環境問題1	27			
13	地球環境問題2	28			
14	標本作成 レポート提出	29			
15	レポート返却・総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜指示を与える				
教科書・テキスト	基礎生物				
参考書	なし				
評価方法・基準	レポート課題を提出することで評価する。基準は科学論文に準ずるものとし、提出期限は絶対とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の健康管理	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Health Care	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	学生時代は水産増殖学を専攻した。また大学在学中に須磨水族館でアルバイトし、魚類魚類を中心とする水族の飼育を担当した。 日本動物植物専門学院勤務中に小動物の飼育指導を担当していた。				
授業の概要・目的					
様々な動物を飼育するための管理方法や、病気や予防法を学ぶ。					
到達目標					
飼育環境について考え、餌料、飼料の内容を工夫し動物の健康管理について自分の考えを論ずることができるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育管理の必要性	16			
2	飼料・餌料	17			
3	五大栄養素	18			
4	餌料生物	19			
5	飼料原料1 動物性原料1	20			
6	飼料原料2 動物性原料2	21			
7	飼料原料3 植物性原料1	22			
8	飼料原料4 植物性原料2	23			
9	飼料原料5 植物性原料3	24			
10	飼料原料6 添加物	25			
11	水族館の餌料	26			
12	動物園の飼料	27			
13	まとめ	28			
14	習熟度確認作業1	29			
15	習熟度確認・総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜指示を与える				
教科書・テキスト	動物の健康管理				
参考書	無し				
評価方法・基準	自筆ノート、授業中に配布した資料のみ持ち込み可の筆記試験で評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヘルスケア	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の体のしくみ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Anatomy of Phisiology of Animals	授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	大学在学中に須磨水族館でアルバイト時にサマースクールにおいて魚類の解剖実習を担当した。 日本動物植物専門学院勤務中に解剖実習、標本作成実習を担当していた。				
授業の概要・目的					
犬を中心とした哺乳類の基本的な形質、形態を学ぶことにより脊椎動物の基本的形態・形質まで理解する。					
到達目標					
脊椎動物の形質を説明できる様になる。各門の違いを説明できる様になる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物分類、脊椎動物各門、種小名の違いを理解する	16			
2	外皮系	17			
3	消化器系1	18			
4	消化器系2	19			
5	レポート課題発表・作成方法指導	20			
6	泌尿器系	21			
7	呼吸器系	22			
8	生殖器系	23			
9	内分泌系	24			
10	循環器系	25			
11	感覚器系・神経系	26			
12	筋系・骨格系	27			
13	細胞1	28			
14	細胞2 レポート提出	29			
15	レポート返却・総括	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業中に適宜指示を与える				
教科書・テキスト	イラストで見る動物の体のしくみ				
参考書	無し				
評価方法・基準	レポート課題を提出することで評価する。基準は科学論文に準ずるものとし、提出期限は絶対とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドルフィン・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	魚類研究	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Fish Biology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	大学院では、京都大学生態学研究センターにて魚類学を学び、琵琶湖コイ科魚類の進化について研究した。魚の採集から解剖、各種分析を行った。また、葛西臨海水族園の前身となる上野動物園両生爬虫類館で飼育展示スタッフ職務経験あり(2010年～2013年)、魚類を含む水圏生物の展示や飼育のノウハウがある。2018年以降は、フリーランスとしても飼育展示も行っている。				
授業の概要・目的					
魚類は、脊椎動物の中でもっとも種数が多く3万種を超える。地球上のあらゆる水圏に存在し、生態系における役割も非常に大きい。また水産資源としても重要なことは言うまでもない。本開講項目では、魚類の分類、進化、生態および商業利用、関連法規まで学び魚類について多方面から理解する。また、魚種によっては、魚類以外の生物との種間相互作用も学ぶことで、海をはじめとする水域生態系の理解へもつなげたい。					
到達目標					
魚類の分類について、大分類とその系統関係について理解する。代表的な種については、生態はもちろん、あればヒトとの関わりについても理解し、説明できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物界における魚類の系統的位置について理解する。	16	硬骨魚類について～真骨類の概要～		
2	魚類のからだについて学習する。主に外部形態。	17	硬骨魚類について～真骨類、カライラン類など～		
3	魚類のからだについて学習する。主に内部形態。	18	硬骨魚類について～真骨類、ウナギ類など～		
4	無顎類について ※以降、各分類群ごとに詳しく学習する	19	硬骨魚類について～真骨類、アロワナ類など～		
5	軟骨魚類について～概要～	20	硬骨魚類について～真骨類、ニシン類など～		
6	軟骨魚類について～サメ類～	21	硬骨魚類について～真骨類、コイ類など～		
7	軟骨魚類について～サメ類～	22	硬骨魚類について～真骨類、デンキウナギ類など～		
8	軟骨魚類について～エイ類、ギンザメ類～	23	硬骨魚類について～真骨類、サケ類など～		
9	硬骨魚類について～肉鰭類・シーラカンス～	24	硬骨魚類について～真骨類、マグロ類など～		
10	硬骨魚類について～肉鰭類・シーラカンス～	25	浅海、特に陸域との関係について。		
11	硬骨魚類について～肉鰭類・ハイギョ～	26	深海の魚類と生態系について。		
12	硬骨魚類について～肉鰭類・ハイギョ～	27	魚類の飼育展示について。		
13	硬骨魚類について～チョウザメ～	28	魚類の飼育展示について。		
14	硬骨魚類について～ガー、アミア～	29	魚類の研究方法などについて。		
15	前期のまとめ	30	後期のまとめ		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	状況に応じて、課題を求める場合あり。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
評価方法・基準	評価の割合は、筆記80%、出席20%で、最高評価点数を100点とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドルフィンエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	生物分類研究	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Biological Classification Research	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的	環境関連の業界以外に水族館などの飼育施設では、どれだけ生物のことを知っているかを求められる場合が多いです。在来種を中心に、国内に生息する生物の特徴や生態について学ぶことを目的とします。				
到達目標	まず関心がある生物以外の他の生物の知識の情報量を増やすことが大切で、身近に生息する生物に関心を持ち知識を増やすことを目標としています。また生物分類技能検定2級の出題範囲はとても広くて、出題された場合はコアな問題が多いため、2級取得に必要な基礎知識を中心に確実に理解すること				
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物の進化と既知の種数、分類階級(英語表記:単数形、複数形)				
2	学名(命名の仕方、模式標本、新種記載、同名種がいる場合の対応など)				
3	ほ乳類について(ネズミ目、トガリネズミ目、翼種目)				
4	ほ乳類について(鰭脚類、鯨類、乳頭式)				
5	鳥類(身近な鳥類、各々に生息する鳥類の特徴)①				
6	昆虫類(バッタ、セミ、トンボ、チョウなど)				
7	昆虫類(その他)、クモ類				
8	ハ虫類(在来種)				
9	両生類(在来種)				
10	水生生物(軟体動物、海産無脊椎動物)				
11	魚類(淡水魚)				
12	魚類(海水魚)				
13	陸上顕花植物				
14	海草と海藻				
15	後期の総括を行う				
授業時間外学修(事前・事後学習等)	身近に生息する様々な生物の特徴(形態、生理、生態)に関心を持ちましょう				
教科書・テキスト	なし				
参考書	図鑑類(日本動物大百科:平凡社、両生類・ハ虫類図鑑:学研、日本のほ乳類:フィールドベスト図鑑など)				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ドルフィン・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物内科看護学	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Veterinary Internal Medicine Nursing	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大阪どうぶつ夜間急病センター 非常勤				
授業の概要・目的	本講義ではまず、海獣類も含めた哺乳綱動物の体のしくみ、解剖学、生理学について取り扱う。生物学的な基礎知識を踏まえた上で、海獣類の栄養学、病理学、繁殖学の基礎というように展開していく。一方で、動物関連施設にて従事するうえで必要となる、ズーノーシスを含めた公衆衛生学的知識ならびに獣医療の基礎である薬理学や臨床検査についても触れる。さらには、人と動物の懸け橋とはどのような存在かについても学ぶ機会を設ける。本講義の最終的な目的としては、学生が将来ドルフィントレーナーや飼育員として動物の傍で業務に就くにあたり、動物の健康管理および獣医師が医療行為を行う際のサポート役として必要とされる最低限の獣医学的知識を身につけることにある。特に内科的な検査・処置は日常的に行われ、獣医師や動物看護師以外のスタッフが関与することを求められることも少なくない。しかしそのためには「そもそも動物はいかにして生命活動を営んでいるか。」ということについても学ぶ必要がある。さらには、飼育動物の生体に関することを学ぶことで、それらの動物に対してどのように関わっていくことがこれからのトレーナーや飼育員には求められるのかについて思索を深めることも目指す。				
到達目標	動物の基本的な解剖と生理、特に神経、循環、内分泌、消化器、泌尿器について用語の修得と概要を説明できるようにする。公衆衛生学においては、注意すべきズーノーシスを優先的に覚え、その対策としての消毒薬の使い分けについて修得する。薬理学では、動物に対する作用と副反応についてそれぞれ記述できるようにする。疾病学や臨床検査については、講義科目であるため限界はあるが、その両者をからめつつ現場で応用できるようにする。また動物病院での日常的な業務を動物飼育現場に適用できることも少なくなく、それらを紹介する。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	生物学と獣医学のあり方について理解する。	16			
2	体のしくみ①;神経系、循環器系、呼吸器系について理解する。	17			
3	体のしくみ②;消化器系、泌尿器系、生殖器系について理解する。	18			
4	栄養学総論;五大栄養素について理解する。	19			
5	栄養学各論;鯨類、鯖市類などの栄養学について理解する。	20			
6	公衆衛生学①;病原体と消毒方法について整理する。	21			
7	公衆衛生学②;ズーノーシスについて理解する。	22			
8	繁殖学;哺乳類の繁殖の基礎について理解する。	23			
9	鯨類および鯖脚類の代表的な疾患について理解する。	24			
10	臨床検査学;血液検査、画像診断について理解する。	25			
11	薬理学;薬理作用、使用方法の概略について理解する。	26			
12	動物看護師の業務について理解する。	27			
13	水族館に関する最新トピックスについて理解を深める。	28			
14	哺乳類に共通する内科疾患の病態生理について理解する。	29			
15	後期学習内容について総括する。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業時間内に適宜課題を与え、それによって事前学習を課す。また授業資料を使って復習をおこなうことを課す。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	野生動物の医学				
評価方法・基準	筆記試験のみで評価する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マリン・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋保全	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Marine Conservetion	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的	地球上にある物質は、陸上～海洋生態系を循環しているため、野生動植物の営みと人間の活動の影響を切り離して考えることは出来ません。我々人間は環境汚染、地球温暖化、野生動植物の生息地破壊など様々な問題を抱えています。本講義では海洋の科学的特性を学んだ上で、環境問題との関連性、生物多様性と地域特性を守る重要性について理解することを目的としています。				
到達目標	水族館で水生生物を飼育する際、飼育環境の非生物的環境への理解が必須となります。自然界ではどのような環境に生息しているかを理解することにより、生態展示に応用できるようになる。環境学習の場で、日本の海洋生物の種の多様性の高さや環境破壊の現状を解説できるようになること。また調査会社の現場に必要な海洋系にまつわるビオトープの知識習得を目標としています				
授業計画(テーマ・内容)					
1	海洋生態系(地形の構造と非生物的環境:塩分)について理解する	16			
2	世界の塩分分布を理解する、塩分の計算(質量%濃度、モル濃度)について計算できるようになる	17			
3	海洋生態系(非生物的環境:日射、水温)について理解する	18			
4	海洋の循環(表層循環:エルニーニョ、ラニーニャ、深層循環)について理解する	19			
5	大気(二酸化炭素)の循環と深層循環の関連性について理解する	20			
6	酸性雨と海洋の酸性化について理解する	21			
7	大陸島と海洋島について理解する、また日本の海洋生物の多様性が高い理由を地形学的特徴や潮流、水温の特徴から理解する	22			
8	自然海岸、半自然海岸、人工海岸の国内比率、海岸特性について理解する	23			
9	エコトーン、日本の河川の特徴について理解する	24			
10	多自然型川づくり(粗朶、ロックロール、ログネット、聖牛など)について理解する	25			
11	ダム問題とサンドバイパスについて理解する	26			
12	海岸の埋め立て、エッジ効果と環境アセスメント(環境影響評価法)について理解する	27			
13	ミチゲーションの概念と人工漁礁の意義について理解する	28			
14	磯焼け問題とマイクロプラスチック問題について理解する	29			
15	後期学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与えます。授業中に書き留めたメモなどをノートにまとめる				
教科書・テキスト	なし				
参考書	環境守る最新知識／信山社サイテック、海の保全生態学／東京大学出版、松田裕之				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験80%、出席率20%とし、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	NGO/NPO論	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Theory of NGO/NPO	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	平成21年から環境省「きんき環境館」にて、近畿圏内の行政・NPO・企業等の環境取組についての中間支援業務に従事。ソーシャルビジネスの立ち上げ支援なども担当。その後、平成23年からは、八尾市役所にて八尾市内の中間支援業務に従事。現在は、World Seedにて、協働プロジェクトの立ち上げやボランティアのコーディネート、ファシリテーター、大阪市や大阪府等の行政業務も行っている。また、中間支援組織であるエコネット近畿の副理事長として、助成金セミナーや合宿型の交流イベントの開催などにも関わっている。				
授業の概要・目的					
NPO／NGOの法人体系や会計などの概要を知る。また、NPO／NGOを取り巻く社会情勢を理解し、団体に向けた支援体制や行政などの対応など具体的な事例をもとに学ぶ。授業の後半では、色んなジャンルで現場で活躍している方のお話を聞く機会を設けて、より理解を深める。 最終的に、「もし自分がNPO／NGOを立ち上げるなら」という仮定に基づき、団体設立の方法や運営の手法について学ぶ。					
到達目標					
・NPO／NGOの概要が理解できている。 ・多様なNPO／NGOについてその理解を広められている。 ・団体設立の際の重要なポイントが理解できている。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	■授業のオリエンテーション 授業の概要と導入、進め方、目標等について	16			
2	■NPO／NGOとはなにか NPO・NGOの法人体系や取り巻く社会情勢の変化について	17			
3	■NPO／NGOを取り巻く「お金」事情 NPO法人の会計の仕組みや助成金などについて	18			
4	■NPO／NGOを支える中間支援組織とは 中間支援組織の概要や、具体的な組織について	19			
5	■NPO／NGOの具体例を探るVol.1(1) NPO／NGO団体のミッションやその活動内容について、調べて、深める	20			
6	■NPO／NGOの具体例を探るVol.1(2) NPO／NGO団体に活躍する現場の方のお話を伺う	21			
7	■NPO／NGOの具体例を探るVol.2(1) NPO／NGO団体のミッションやその活動内容について、調べて、深める	22			
8	■NPO／NGOの具体例を探るVol.2(2) NPO／NGO団体に活躍する現場の方のお話を伺う	23			
9	■NPO／NGOの具体例を探るVol.3(1) NPO／NGO団体のミッションやその活動内容について、調べて、深める	24			
10	■NPO／NGOの具体例を探るVol.3(2) NPO／NGO団体に活躍する現場の方のお話を伺う	25			
11	■NPO／NGOの具体例を探るVol.4 行政の立場からNPO／NGOの支援などに携わる方のお話を伺う	26			
12	■NPO／NGOの設立の仕方(1) もし、自分がNPO／NGOを設立するとすればどのようなミッションを掲げて、どのように活動を展開するか、ワークショップを通してイメージを膨らませる。	27			
13	■NPO／NGOの設立の仕方(2) もし、自分がNPO／NGOを設立するとすればどのようなミッションを掲げて、どのように活動を展開するか、計画を立てる	28			
14	■NPO／NGOの設立の仕方(3) 前週までに考えたものをまとめて、全体の前でプレゼンテーションを行う。	29			
15	■NPO／NGOの設立の仕方(4) 前週からの継続で、プレゼンテーションを実施。 一年間の総括を行う。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)	授業期間内に少なくとも1回のボランティア活動への参加を課す。 参加した活動については、所定のフォーマットにて報告を行うものとする。				
教科書・テキスト	なし				
参考書	なし				
評価方法・基準	評価の割合はレポート50%、出席率20%、ボランティア等の活動参加30%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	アウトドアライフ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	outdoor life	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	幼少より海、川、山全ての野外活動を行ううちにライフワークとなる。1990年より全国の消防本部に野外、特に水辺でのアウトドアレスキューを指導するようになり現在様々な危機管理を教える立場にあります。				
授業の概要・目的					
前期は、ロープワークを中心にアウトドアの基礎を習得します。後期は、山岳・海洋ナビゲーションや災害救助の知識、ロープワークやビレイの実践でより知識を深めます。					
到達目標					
野外活動においてミスのないように行動が出来るようになる。また現場での安全管理、危機管理能力を演習やシミュレーションを通して身に付けてもらいます。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	基本装備 ロープ・カラビナ・スリング・ハーネスの説明	16	ロープワーク1 アンカーの段取りと分散、支点確保		
2	その他装備 スイベル・アッセンダー・プレートの説明	17	山岳ナビゲーション 山岳地図をもとに、行動計画を立てる		
3	ハーネス 様々なハーネスの利用方法	18	ロープワーク2 ビレイデバイスをを使った確保のやり方		
4	ロープワーク1 結びの基礎	19	海洋ナビゲーション 海洋地図におけるマッピングや行程計算法		
5	ロープワーク2 ロープに輪を作る	20	ロープワーク3 ロワーダウンと登高		
6	ロープワーク3 ロープでものを縛る	21	検索の方法1 環状検索の手順とやり方		
7	ロープワーク4 ロープとロープを結ぶ	22	ロープワーク4 都市型ロープレスキューの理解		
8	エイト環 下降のやり方、途中停止の方法	23	検索の方法2 ジャックステイの手順とやり方		
9	引き上げシステムⅠ 単独での引き上げ	24	ロープワーク5 様々なデバイスと組み合わせたロープの使い方		
10	引き上げシステムⅡ オートブロックと複数での引き上げ	25	気象・海象 気象災害をいち早く知る為の予測のやり方		
11	プーリー・ロープ移動 山岳でのロープ移動	26	ロープワーク6 自己脱出の方法		
12	ストレッチャーの使い方 災害時における緊急救助	27	セルフビレイ 山岳での事故を防ぐためのビレイの取り方		
13	アウトドアでの危険 アウトドアで起きる可能性のある事故を考える	28	複数人で行うアウトドアレスキュー		
14	アウトドアの基礎を理解でき、基本的なロープワークができるようになる	29	実践的なロープワークができるようになる。		
15	学習内容の総括	30	学習内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	なし。				
評価方法・基準	前期、後期とも実技試験とノート提出。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	野生動物調査Ⅰ	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Wild Animal ResearchⅠ	開講期間	後期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	環境調査会社に6年間勤務した後、フリーランスの野生動物調査員として環境アセスメントやワイルドライフマネジメントに関わる鳥類や哺乳類の調査業務に携わる。平成26年に(一社)里山いきもの研究所を設立し、里山の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている。				
授業の概要・目的					
野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務があります。この演習では、これらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出て、フィールドでの経験を積んでいきます。雨天などで野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行ったりします。					
到達目標					
・各自が、鳥類、哺乳類、両生爬虫類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになること。 ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で発見し、識別できるようになること。また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになること。 ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになること。 ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解すること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	第5～7回のシカ・イノシシ痕跡調査実習の説明と、クマやハチなどの危険生物や猟期中の野外調査の注意点など、野外活動における安全管理について学習します。	16			
2	人と野生動物との関係をワイルドライフマネジメント(野生動物保護管理)の視点から捉え、軋轢を少しでも減らし、共存の道を探るために何が必要かについて考察します。	17			
3	農村部などでは、どのような獣害対策が取られているのか、またその成果や課題は何かについて知り、獣害対策の向かうべき方向について考察します。	18			
4	講師が有害鳥獣捕獲を行っている京丹波町の農村地域を歩き、農村の獣害の実情を学んだり、野生動物が出没する現場やくくりわな等の捕獲の様子を見学したりします。	19			
5	道なき尾根に設定された調査ルートをコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。野外調査の安全管理についても詳しく学びます。	20			
6	道なき尾根に設定された調査ルートをコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。野外調査の安全管理についても詳しく学びます。	21			
7	道なき尾根に設定された調査ルートをコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査やイノシシ痕跡調査を行います。野外調査の安全管理についても詳しく学びます。	22			
8	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	23			
9	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	24			
10	秋期・冬期の鳥類調査実習、シカ・イノシシ調査実習、野外調査における安全管理等について振り返り、復習します。	25			
11	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	26			
12	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	27			
13	野生動物のことを人に伝える目的について考え、その具体的方法や留意点について学びます。	28			
14	実際に自分が野生動物のことを人に伝える場面を想定し、教材や資料を準備して発表し合います。	29			
15	野外で冬鳥を識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など鳥類調査の実習を行います。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	決定版 日本の野鳥650 平凡社				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	野生動物保護管理演習	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Practice of Wilid Life Conservation and Management	開講期間	前期	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	環境調査会社に6年間勤務した後、フリーランスの野生動物調査員として環境アセスメントやワイルドライフマネジメントに関わる鳥類や哺乳類の調査業務に携わる。平成26年に(一社)里山いきもの研究所を設立し、里山の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている。				
授業の概要・目的					
野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務があります。この演習では、これらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出て、フィールドでの経験を積んでいきます。雨天などで野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行ったりします。					
到達目標					
・各自が、鳥類、哺乳類、両生爬虫類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになること。 ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で発見し、識別できるようになること。また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになること。 ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになること。 ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解すること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスとして授業計画や実習の注意点について説明します。さらに、野生動物に携わる業界や仕事について話します。また、ニホンザル性齢識別実習や鳥類調査実習についての事前学習も行います。	16			
2	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	17			
3	ニホンザルの保護管理に関わる群れの個体数カウント調査で必要とされる性齢識別の練習を行います。	18			
4	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	19			
5	ニホンザル性齢識別実習の振り返りと、ニホンジカ実習についての事前学習を行います。またニホンジカ実習に必要な知識を学びます。	20			
6	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	21			
7	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	22			
8	野鳥観察の基本、野鳥の識別方法、実務的な鳥類調査法などについて、野外での実践を通して学びます。	23			
9	実務的な昆虫採集法、ベイトトラップの設置などについて、野外での実践を通して学びます。	24			
10	ベイトトラップを回収し、採集した昆虫の標本整理(タウ、三角紙、液浸標本)を行います。	25			
11	実際に多くのニホンジカ見ることで、性年齢を識別する練習をします。また、環境の違いによってシカの分布に差があるのかを簡単に調査します。	26			
12	近年野生動物調査ではセンサーカメラの使用が一般的になっています。それらの画像を解析することも仕事内容として重要です。実習で得た知識を画像解析で活用する練習をします。	27			
13	前期の実習内容を振り返りながら、前期テストのための復習を行います。	28			
14	野外で実際に両生類爬虫類を探しながら、環境アセスメント業務で両生類爬虫類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	29			
15	野外で実際に両生類爬虫類を探しながら、環境アセスメント業務で両生類爬虫類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	決定版 日本の野鳥650 平凡社				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物飼育演習	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Zoo Animal Management	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180 (12)
講師名					
実務経験概要	サファリパークにて飼育員に従事、その後移動動物園を独立開業。				
授業の概要・目的					
将来動物園やペットショップ等へ就職を目指す学生は、正しい知識・技術を身につける必要がある。本開講科目では基本的な動物種の分類・食性・習性について修得する。実際に動物管理を行う事により、実践的に動物取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。					
到達目標					
飼育動物の取り扱いにおける基礎知識・技能を習得し適正飼育することが出来るようになる。様々な動物の飼育方法を自分で考えることが出来るようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	飼育動物の給餌内容、給餌量の考え方を理解する。	16	鳥類の捕獲・保定方法の技術を身につける。		
2	飼育管理に関する衛生管理について理解する。	17	鳥類の健康管理方法を理解する。		
3	飼育動物の必要な運動量について理解する。	18	カピバラの習性・食性について理解する。		
4	飼育動物の温度・湿度・光周期について理解する。	19	カピバラの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる		
5	カイウサギの捕獲・保定方法を理解する。	20	カピバラの捕獲・保定方法の技術を身につける。		
6	カイウサギの健康管理方法を理解する。	21	カピバラの健康管理方法を理解する。		
7	モルモットの捕獲・保定方法の技術を身につける。	22	フェレットの習性・食性について理解する。		
8	モルモットの健康管理方法を理解する	23	フェレットの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる。		
9	アルパカの習性・食性について理解する。	24	フェレットの捕獲・保定方法の技術を身につける。		
10	アルパカの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる。	25	フェレットの健康管理方法を理解する		
11	アルパカの捕獲・保定方法の技術を身につける。	26	チンチラの習性・食性について理解する。		
12	アルパカの健康管理方法を理解する。	27	チンチラの飼育方法・繁殖方法を自ら考えることができるようになる。		
13	鳥類の習性・食性について理解する。。	28	チンチラの捕獲・保定方法の技術を身につける。		
14	鳥類の飼育方法・繁殖方法を自らで考えることが出来るようになる。	29	チンチラの健康管理方法を理解する。		
15	前期学習内容の総括を行う。	30	後期学習内容の総括を行う。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は筆記試験50%、出席率25%、実技試験25%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物飼育活動	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Keeping Activities	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要	講師は専門学校卒業後にペットショップでの勤務とペット用品メーカーでの勤務を経験している。またその後夜間大学に入学し教員免許を取得すると同時に、専門学校職員としての職に就いている。最終的にフリーランスの専門学校講師に転身した。実務への理解と教育への理解の両面を持ち合わせている。またその手掛ける分野は犬と猫を除くペット動物たち、いわゆるエキゾチックアニマル全般である。偏りのない多角的な授業を行う。				
授業の概要・目的					
動物を飼育するだけならほぼ誰にでもできるが、「健康的に長生きさせる」のと「とりあえず生かしておく」のとは別物である。動物の飼育には知識と観察眼の両方が必要であり、観察眼は実際の動物を前にしながら習得することで最も正しく養われる。本演習では、学生はペットショップ実習室の動物の飼育管理方法を身につける。「飼育管理」には、ケージの清掃、餌の調整、給餌、健康状態のチェック、保定やハンドリングが含まれる。対象となる動物は小型の哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、無脊椎動物である。学生はどのようなペット動物にも応用できる知識や技術を習得する。					
到達目標					
ペットショップ実習室の飼育動物いずれにおいても、適切な飼育管理ができるようになり、その知識や技術をほかの動物にも応用できるレベルにまで高める。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	実習の心得、注意点を理解する。	16	実習室で飼育されている生物の種名を理解する		
2	実習室の用具の使い方を理解する。	17	実習室で飼育されている生物の分類を理解する		
3	実習室の動物の配置や種類を理解する。	18	実習室で飼育されている生物の生態を理解する		
4	動物の餌の調整(調餌)方法を理解する。	19	ほ乳類の飼育に必要な知識を得る		
5	小型げっ歯類の飼育管理を行う(ハムスターなど)。	20	鳥類の飼育に必要な知識を得る		
6	小型有袋類の飼育管理を行う(フクロモモンガなど)。	21	爬虫類の飼育に必要な知識を得る		
7	小型食虫類の飼育管理を行う(ハリネズミなど)。	22	両生類の飼育に必要な知識を得る		
8	小型重歯類の飼育管理を行う(ウサギ)	23	魚類の飼育に必要な知識を得る		
9	爬虫類の飼育管理を行う(トカゲ亜目)。	24	無脊椎動物の飼育に必要な知識を得る		
10	爬虫類の飼育管理を行う(ヘビ亜目)。	25	飼育に必要な器具について理解する(照明器具)		
11	爬虫類の飼育管理を行う(カメ目)	26	飼育に必要な器具について理解する(保温器具)		
12	両生類の飼育管理を行う(カエル、サンショウウオ)。	27	飼育に必要な器具について理解する(ケージ類)		
13	魚類の飼育管理を行う(給餌、水替え、メンテナンス)。	28	エキゾチックアニマルにかかりやすい病気について理解する		
14	無脊椎動物の飼育管理を行う(昆虫、クモ類)。	29	餌に含まれる栄養素について理解する		
15	総括、まとめ	30	総括、まとめ		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物が飼育されている施設に足を運ぶ、動物についての書籍や図鑑を読む。				
教科書・テキスト	該当なし				
参考書	該当なし				
評価方法・基準	出席率(%＝点数)50%:筆記課題50%＝100点				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	繁殖生理学	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Breeding and physiology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で健康に動物を飼育し展示するために必要な動物生理学及び繁殖生理学に関する知識を学び理解する					
到達目標					
身に着けた豊かな知識により、動物飼育業務を担う即戦力となる飼育担当者像を構築できるようにする					
授業計画(テーマ・内容)					
1	哺乳類の神経生理学並びに感覚器官を学びその働きを正しく理解する	16			
2	哺乳類の血液循環について学びその働きを正しく理解する	17			
3	哺乳類の口腔内から大腸にいたる消化について学びその働きを正しく理解する	18			
4	反芻動物と後腸動物の消化について学び、その違いを正しく理解する	19			
5	哺乳類の呼吸の生理について学びその働きを正しく理解する	20			
6	哺乳類の性成熟と性行動について学びその働きを正しく理解する	21			
7	鳥類の羽毛の機能とその分類について学びその働きを正しく理解する	22			
8	鳥類の呼吸器を構成する器官とその働きについて学びその働きを正しく理解する	23			
9	鳥類の泌尿器について学びその働きを正しく理解する	24			
10	鳥類の生殖について学びその働きを正しく理解する	25			
11	両生爬虫類の生殖について学びその働きを正しく理解する	26			
12	適切な飼育環境の実現や異常行動の発現とその理由について学びその働きを正しく理解する	27			
13	縄張りと順位制について学びその働きを正しく理解する	28			
14	様々な繁殖様式について学びその働きを正しく理解する	29			
15	前期授業の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限り野生動物に触れる機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	新飼育ハンドブック動物園篇3				
参考書	「動物園学」文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヒストリー	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	アニマルヒストリー	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	History of Animals and Human	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	生家が獣医師のため幼少より動物の飼育、管理に携わる。20歳の時より非常勤講師として日本動物植物専門学校において動物の進化を教え始め、特に海洋生物の発生と陸上進出に関しては詳しい。				
授業の概要・目的					
我々が地球と共存していく上で、他の動植物を無視することは出来ない。地球創世時～人が文明を持つまでの流れを理解し、動物の進化を知ることは現存する生物たちの生態、行動を理解する上で、とても重要である。生命の無い場所からの生物誕生～現在までの理解を深める。					
到達目標					
地球の生き立ち、生物の発生、生物の進化、ヒトと地球の関係、環境破壊と保全を理解することができる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	概論 講義の内容と進め方	16			
2	宇宙Ⅰ 成り立ちと銀河系	17			
3	宇宙Ⅱ 地球	18			
4	生命の誕生 原核生物～爬虫類	19			
5	魚類 魚類の発生と淡水への適応	20			
6	昆虫類 昆虫類の上陸作戦	21			
7	両生類 両生類の重力対策	22			
8	ロープワーク ロープワーク	23			
9	爬虫類 恐竜	24			
10	哺乳類 恐竜と獣弓類	25			
11	哺乳類と鳥類 互いの覇権争い	26			
12	ヒト 類人猿からヒトまでの進化	27			
13	ヒト ヒトの未来と環境	28			
14	地球の生き立ちから生物の進化、現在の地球環境について説明でき、自分の考えを述べるようになる	29			
15	学習内容の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与える。授業中に書き留めたメモなどを元にノートを作成する。				
教科書・テキスト	アニマルヒストリー				
参考書	なし。				
評価方法・基準	ノート提出				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヒストリー	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物園研究	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Zoological Garden Study	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で行わなければならない多岐にわたる業務内容を解説し、そのうえで基礎となる動物園概論と動物分類学を詳細に学習し、技術として身に着ける。					
到達目標					
動物園とその業務内容への理解を深め、基礎となる動物分類学の知識を身に着け、動物園業務における即戦力となる素地を作ることにより、自分自身の理想とする飼育担当者像を構築できるようにする					
授業計画(テーマ・内容)					
1	世界の動物園の古代から現代に至るまでの歴史を理解する	16			
2	日本の動物園の現代にいたるまでの歴史を理解する	17			
3	世界の動物園と日本の動物園の社会における位置づけの違いを理解する	18			
4	天王寺動物園を例に日本の動物園の展示の歴史を理解する	19			
5	天王寺動物園で実施された展示計画を通して、具体的な展示形式について理解する	20			
6	天王寺動物園で実施されている展示を学び、展示におけるストーリー立ての重要性を理解する	21			
7	天王寺動物園で実施されている展示を通じて擬岩や擬木技術の重要性を理解する	22			
8	天王寺動物園で実施されている展示を通じて動物生態学や植物生態学の知識の重要性を理解する	23			
9	天王寺動物園で実施されている展示を通じて環境教育や環境エンリッチメントの重要性を理解する	24			
10	天王寺動物園で行われている環境エンリッチメントを通して環境エンリッチメントを正しく理解する	25			
11	動物園に関する国内法令や国際条約について学び、遵守すべき規制について理解する	26			
12	現代における動物分類学を学び、展示に応用できるよう理解する	27			
13	国際命名規約について学び、正しく展示に応用できるよう理解する	28			
14	脊椎動物の分類について学び、展示に応用できるよう理解する	29			
15	前期学習内容の総括	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限り野生動物に触れる機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	新飼育ハンドブック動物園篇3				
参考書	「動物園学」文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマル・ヒストリー	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物概論	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Introduction to Zoology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	サファリパーク飼育員				
授業の概要・目的	将来動物園やペットショップ等へ就職を目指す学生は、正しい知識・技術を身につける必要がある。本開講科目では基本的な動物種の分類・食性・習性について修得する。実際に動物管理を行う事により、実践的に動物取り扱いにおける知識・技術を習得することにより、様々な動物種に対応できる人材育成を目的とする。				
到達目標	飼育動物の取り扱いにおける基礎知識・技能を習得し適正飼育することが出来るようになる。様々な動物の飼育方法を自分で考えることが出来るようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物の分類・習性・食性について理解する。	16			
2	カイウサギの習性・食性について理解する。	17			
3	カイウサギの捕獲・保定方法の技術を身につける。	18			
4	モルモットの習性・食性について理解する。	19			
5	モルモットの捕獲・保定方法の技術を身につける。	20			
6	鳥類の習性・食性について理解する。	21			
7	鳥類の捕獲・保定方法の技術を身につける。	22			
8	アルパカの習性・食性について理解する。	23			
9	アルパカの捕獲・保定方法の技術を身につける。	24			
10	カピバラの習性・食性について理解する。	25			
11	カピバラの捕獲・保定方法の技術を身につける。	26			
12	フェレットの習性・食性について理解する。	27			
13	フェレットの捕獲・保定方法の技術を身につける。	28			
14	チンチラの習性・食性について理解する。捕獲・保定方法の技術を身につける。	29			
15	前期学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に課題を与える。授業中に書き留めたメモなどをもとにノートを作成する。				
教科書・テキスト	なし				
参考書					
評価方法・基準	評価割合は筆記試験50%、出席率25%、実技試験25%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	ライフセービング	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Life Saving	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	1992年国際救命救急協会インストラクターとなり救急の講習を行うようになる。2010年AHA(アメリカンハートアソシエーション)インストラクターとなり現在、消防及び各企業、球団トレーナー等に現場での1時救命処置講習を提供している。				
授業の概要・目的					
人体の生理学・薬学・病理学を学び、救急現場において自己の安全を確保した上で、傷病の手当て、CPR+AEDの練習を繰り返す。					
到達目標					
全ては現場主義を理解し、救急の際は各現場において臆することなく実力を発揮できるようになる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	成人に対するCPR 成人CPRの基本	16	導入 半期間の流れと救急の必要性		
2	小児に対するCPR 小児CPRの基本	17	人体の名称 骨と関節の名称		
3	成人及び小児に対するバグマスク法の人工呼吸 バックマスク法と人工呼吸	18	人体の名称 筋肉と内臓		
4	成人及び小児に対する二人の救助者によるCPR 二人法の手順	19	人体の名称 循環器系・呼吸器系・神経系		
5	自動体外式除細動器 AEDについて	20	人体の名称 消化器系		
6	乳児に対するCPR 乳児CPRの基本	21	現場での心構え 傷病者の扱いの基本		
7	一人の救助者による乳児のCPR 一人法CPRの手順	22	調査と観察 ヴァイタルサインの読み方		
8	乳児に対するバグマスク法と人工呼吸 バックマスク法	23	事故時の対応 連絡・指導の方法		
9	窒息の解除 窒息解除法	24	傷の手当 創傷と止血		
10	その他の注意点 傷病者と救助者の安全・回復体位	25	傷の手当 包帯術		
11	全体像 救命の連鎖	26	体の損傷 頭部・胸部・腹部・四肢の損傷		
12	チーム救助演習1 役割の理解	27	体の損傷 骨折の処置		
13	チーム救助演習2 チームでの的確な手法	28	CPR AEDとCPR		
14	CPRができるようになり、AEDやバックマスクの使用方法についても理解することができる。	29	よりレベルの高いCPRと応急手当ができるようになる。		
15	学習内容の総括	30	学習内容の総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に毎回、課題を与える。翌週各自の課題を確認する。				
教科書・テキスト	なし。				
参考書	なし。				
評価方法・基準	筆記試験、実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	海洋活動セミナー	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Marine Semminer	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	180(12)
講師名					
実務経験概要	大阪のペット卸問屋ダイエー商会に6年間勤務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の販売及び海外からの観賞魚・水草の輸入やブリーディングを手掛け現在に至る。観賞魚のコンテストにも多数参加し、優秀な成績を収めている。平成28年より奈良県大和郡山市の金魚マイスター講座の講師も務める。				
授業の概要・目的					
①これまでの講義・演習で学んだ知識を生かし、卒業研究課題を決め実験、文献調査、解析を通して問題点の発見、解決能力を高め、研究の計画、実施、成果のまとめといった一連の作業を習得する。②水槽レイアウト作成をするうえで必要な知識を自作のテキストを用いて学習する。実際に水草レイアウト制作を行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。①課題に対する思考、パワーポイント作成、実験、学習成果の発表などを通して研究能力を身に付ける。②レイアウト制作及び維持管理技術を身に付ける。					
到達目標					
①卒業研究発表において分かりやすい図表等を作成し効果的な説明ができるようにする。また、課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法で実験、調査などを遂行しデータ解析、考察することにより結果を客観的に説明できるようにする。②卒業研究発表において水槽レイアウト制作過程を画像、図表を用いて分かりやすく効果的な説明ができるようにする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1.2.3	年間授業進行スケジュール説明、卒業研究テーマ企画:1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。水槽レイアウト制作自作テキスト資料配布。卒業研究テーマのアドバイス。	46.47.48	水草レイアウト水槽崩壊時の修復法:水草レイアウト水槽崩壊時の修復法技術指導・卒業研究進行状況確認。		
4.5.6	水草レイアウト作成法、卒業研究テーマ:レイアウト作成法(デッサン、タイトル、キャプション)、卒業研究テーマ実施のアドバイス	49.50.51	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。		
7.8.9	レイアウト制作、卒業研究の実施:レイアウト作成図制作提出、卒業研究テーマ概要提出、開始。	52.53.54	中間発表:中間発表会で発表を行う。		
10.11.12	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	55.56.57	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
13.14.15	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	58.59.60	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
16.17.18	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	61.62.63	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
19.20.21	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	64.65.66	レイアウト維持管理、卒業研究の実施:各個別指導		
22.23.24	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。	67.68.69	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。		
25.26.27	中間発表:中間発表会で発表を行う。	70.71.72	中間発表:中間発表会で発表及び代表選考		
28.29.30	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	73.74.75	代表者発表		
31.32.33	レイアウト制作、卒業研究の実施:各個別指導	76.77.78	冊子掲載用資料提出		
34.35.36	作品評価及び個別指導	79.80.81	作品評価及び個別指導、パワーポイント提出		
37.38.39	作品評価及び個別指導	82.83.84	作品評価及び個別指導		
40.41.42	発表練習:パワーポイント進行状況確認、発表練習。	85.86.87	各個別指導、引継ぎ準備		
43.44.45	前期学習内容統括:レイアウト制作ついでのとめ。卒業研究進行状況確認/各個人水槽管理実施、適宣説明。	88.89.90	後期学習内容統括:レイアウト維持管理についてのまとめ。卒業研究まとめ/各個人水槽引継ぎ。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業時間だけのレイアウト水槽維持管理は困難なので、日々自分の水槽をよく観察し管理を行う。特に藻類対策はしっかり行う。				
教科書・テキスト	芦田自作テキスト				
参考書	世界水草レイアウトコンテスト写真集				
評価方法・基準	研究結果評価・水槽レイアウト作品評価:出席率も評価対象とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	観賞魚研究	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Ornamental Fish Study	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の				
授業の概要・目的	本講義の主な対象生物である観賞魚は水槽や池などでペットとして飼育される魚類の総称であり、水族館・ペットショップ・養殖場等様々な場所で行われている。我が国では江戸時代の頃から観賞魚(主に金魚)が飼育されており、観賞魚を飼育し楽しむという文化が古くから伝わっている。近年では世界各国から色々な熱帯魚が輸入されており、種類に応じての飼育管理が必要になってきている。日本から海外へ錦鯉・金魚の輸出が年々増えており、国産の需要も高まっている。また金魚においては、水族館でも展示される事が増えてきている。将来、アクアショップ・水族館・養魚場などの現場で就職しようとする学生が正しい知識を持って観賞魚に携わらなくてはならない。本開講科目では、淡水魚・熱帯魚を中心に各魚種の特徴について理解するとともに、主に観賞魚の価値、飼育技術、繁殖方法について取得する。また個体差のある観賞魚においては、魚の良し悪しについてを理解する。さらに、観賞魚の流通方法についても知識を深める。				
到達目標	各観賞魚の特徴、飼育、繁殖方法について説明できるようになる。一般的に多く流通している観賞魚については、種類を正確に判断し分布、特徴等については解説できるようになる。金魚・錦鯉については、雌雄判別が説明出来るようになるとともに、何故雌雄で価値が違ってくるのかを説明ができるようになる。観賞魚業界のおかれている立場を知り、自分の考えを述べる事が出来るようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	観賞魚の現状と市場動向について理解する	16	カラシン目の種類と特徴を説明出来るようになる		
2	日本に生息する淡水魚の生殖周期、水温と日長について理解する	17	カラシン目の繁殖方法について理解する		
3	日本の淡水魚の繁殖方法、稚魚育成について理解する	18	コイ目の分類と特徴を理解する		
4	金魚の主な産地と符号について概説できるようになる	19	コイ目の飼育・繁殖方法を理解する		
5	金魚の雌雄判別、繁殖方法について説明出来るようになる	20	卵生メダカの特徴と年魚・非年魚について理解する		
6	金魚の主な品種、育成方法、調色方法について理解する	21	グッピーの特徴・品種・飼育繁殖方法について理解する		
7	金魚の遺伝について理解する	22	シクリッドの仲間(アフリカンシクリッド)の特徴について理解する		
8	鯉の特徴、錦鯉の品種・雌雄判別を理解する	23	シクリッドの仲間(エンゼルフィッシュ)の特徴と飼育を理解する		
9	メダカの特徴、品種、雌雄判別を理解する	24	大型魚(アロワナ)の分類と飼育の特徴について理解する		
10	タナゴの特徴と二枚貝との関係を理解する	25	大型魚(淡水エイ・ポリプテルス等)の特徴と飼育について理解する		
11	タナゴの繁殖と人工受精方法について理解する	26	アナバス(ベタ)の品種と飼育繁殖方法について理解する		
12	溪流魚(ニジマス・イwana・カジカ等)の特徴と飼育管理について理解する	27	コリドラスの特徴と飼育・繁殖行動について理解する		
13	日本産淡水魚(ナマズ・ドジョウ等)の特徴と飼育管理について理解する	28	プレコの分類と飼育・繁殖方法について理解する		
14	観賞魚と一緒に飼育される甲殻類の管理について理解する	29	観賞魚の輸送方法について概説できるようになる		
15	総括 前期学習内容についての総括	30	総括 後期学習内容についての総括		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に書き留めたメモ等をもとにノートを作成する				
教科書・テキスト	なし				
参考書	新観賞魚春春秋/熱帯魚・水草2700種図鑑				
評価方法・基準	評価の方法は筆記試験100%で、最高評価点数を100とする				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	魚病学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Fish phathology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	1987～1994年、沖縄海洋博覧会記念公園水族館にて魚類・イルカ類の飼育管理業務に従事。1995年～日本海洋科学専門学校にて、2003年～大阪コミュニケーションアート専門学校にて魚類学などの非常勤講師を務める(現在も契約中)。2006年～きしわだ自然資料館にてアドバイザー、専門員として委嘱契約(現在も継続契約)。2009年～高槻市立自然博物館にて主任研究員として就業、現在に至る。主に大阪湾海浜域と大阪府の中小河川における魚類の形態・生態的な側面の基礎的研究と、自然史系博物館における標本資料の集積と調査研究を行っている。魚病学関連の研究(実務経験)についてはヨシノボリ類(ハゼ科魚類)に寄生する粘液胞子虫類とその寄生状況を中心に調査を行っている。				
授業の概要・目的					
飼育管理下における魚類には、様々な疾病が発生する。その原因となる生物には、ウイルス、細菌、真菌、原虫、および寄生虫などによるものが広く認識されている。これら病因となる生物についての一般特性、生活史、そして効果的な予防・治療について理解を深める。また、病変には前記の生物群による以外にも、過剰な飽和窒素に起因する窒素ガス病や、長期にわたる単一餌料の給餌によるビタミン欠乏症なども旧来から水族館・水産業界では広く認識されている。このような症状・対策の概略について知ることも目的とする。					
到達目標					
魚類を飼育管理するに当たっては、その飼育環境を極力、自然な状況・状態に近似させることが必要であり、病気の発生は最大限に回避すべき課題となる。しかしながら、様々な疾病の発生を防除することは不可能な場合も少なくない。本講義では、魚病として認識されている代表的な疾病について、その症状、治療法、そして予防法などについてその概略を知ることを目的とし、なぜ病気が発生するのかについて再認識することを目標とする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	講義概要。講義内容全体を俯瞰し、概略を把握することを目的にする。	16	化学療法と薬剤耐性菌についてその認識を深める。		
2	魚病学とは何か、その目的は何かについて、その経緯と課題について知る。	17	真菌病1。代表的な水族真菌類について知る。		
3	魚類の生体防御1。魚類における生体的防御システムの概要について知る。	18	真菌病2。サケ科の内臓性真菌症、イクチオホヌス症などについて知る。		
4	魚類の生体防御2。魚類における粘液や白血球など非特異的システムについて再認識する。	19	真菌病3。飼育下魚類における「ミズカビ病」とは何かを再認識する。		
5	魚類の生体防御3。魚類における免疫系など特異的システムについて知る。	20	原虫病1。「原虫」と呼ばれる生物の分類群と概要を知る。		
6	ウイルス病1。ウイルスの一般的特性・構造・増殖過程について認識する。	21	原虫病2。イクイオボド症、アユのグルゲア症、武田微胞子虫症について知る。		
7	ウイルス病2。IHN(伝染性造血器壊死症)、IPN(伝染性腭臓壊死症)など旧来から認識されている病気について知る。	22	原虫病3。トリコジナ症、頻発する淡水生・海水性白点病について認識を深める。		
8	ウイルス病3。コイの乳頭腫症、ヘルペスウイルス病(KHV)について認識を深める。	23	粘液胞子虫病1。粘液胞子虫の概説、キンギョの腎腫大症などについて知る。		
9	ウイルス病4。ウイルス性神経壊死症、同腹水症、リンホシスチス症、カリフラワー病(腫瘍の可能性がある)について知る。	24	粘液胞子虫病2。トラフグの粘液胞子虫性やせ病、コイの鰓ミクソボルス症などについて知る。		
10	細菌病1。微生物とは?細菌とは何か?について再認識する。細菌の構造についても知る。	25	寄生虫病1。分類群、ブリのベネデニア症、淡水魚のイカリムシなどについて認識を深める。		
11	細菌病2。サケ科魚類のせっそう病、淡水魚全般のエロモナス症などについて知る。	26	寄生虫病2。トラフグのヘテロボツリウム症、ブリの筋肉線虫症などについて知る。		
12	細菌病3。カラムナリス病、アユの冷水病などについて知る。	27	魚類もストレスを感じていることを知る。		
13	細菌病4。フナ類の穴あき病について知る。	28	環境要因が起因する疾病についても再認識する。		
14	細菌病5。ヒラメ仔魚の腸管白濁症などについて知る。	29	魚類の栄養性疾病にはどのようなものがあるのか再認識する。		
15	前期を振り返る。	30	後期を振り返る。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	適宜課題を与える。				
教科書・テキスト	とくになし				
参考書	小川・室賀編。2012。改訂・魚病学概論 第二版。恒星社厚生閣。				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アクア・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	水生生物飼育管理Ⅱ	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Aquatic Animas and Plants RearningⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	大阪のペット卸問屋ダイエー商会に6年間勤務し、小動物・爬虫類・両生類・鳥類・観賞魚等の飼育管理や販売に携わった経験がある。また、2015年より個人でアクアショップを経営し、観賞魚の販売及び海外からの観賞魚・水草の輸入やブリーディングを手掛け現在に至る。観賞魚のコンテストにも多数参加し、優秀な成績を収めている。平成28年より奈良県大和郡山市の金魚マイスター講座の講師も務める。				
授業の概要・目的					
海水水生生物を飼育管理するうえで必要な知識・設備及び備品に関する知識・水質管理及びオーバーフローシステムに関する知識・造礁サンゴ飼育システムに関する知識を自作のテキストを用いて学習する。実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。海水水生生物の飼育管理を行なうための基礎知識及び技術の習得。様々な手法に応用できる基礎知識及び飼育・レイアウトシューティング技術の習得。様々なアクシデント(病気や水質変化、飼育器具のトラブル等)に対応できる知識と技術を習得する。					
到達目標					
海水魚飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。グループ作業においてコミュニケーション能力を身に付ける。各水槽システムの作業内容を把握し、作業効率を考慮した行動能力を身に付ける。海水水生生物各種其々の飼育法の違いを理解習得する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1.2	年間授業進行スケジュール:1年間を通して行う授業内容及び方法の説明。自作テキスト資料配布/各海水水槽取り扱い説明、人工海水の作り方。	31.32	サンゴ分類概要:ソフトコーラル・ハードコーラル(SPS・LPS)について/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
3.4	海水魚飼育と淡水魚飼育の違い:水温と水質・アンモニアの毒性・体の違い・溶存酸素について/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	33.34	サンゴ分類概要:好日性・陰日性サンゴについて/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
5.6	海水水生生物飼育に必要な器材:海水塩分比重計・人工海水について/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	35.36	サンゴ飼育に必要な環境と水質:水温・水流について/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
7.8	海水水生生物飼育に必要な器材:紫外線殺菌灯・プロテインスキマーについて/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	37.38	サンゴ飼育に必要な環境と水質:貧栄養化について/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
9.1	海水水生生物飼育に必要な器材:クーラー及びポンプについて。選定計算方法/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	39.4	サンゴ飼育に必要な環境と水質:基本水質について(pHとアルカリ度)/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
11.12	オーバーフローシステム概要:オーバーフローシステムの仕組みについて/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	41.42	サンゴ飼育に必要な環境と水質:基本水質について(カルシウム濃度)/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
13.14	オーバーフローシステム概要:オーバーフローシステム配管の見方及び操作方法について/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	43.44	基本水質維持方法:バッファ剤と塩化カルシウム/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
15.16	安全面への配慮:海水水生生物飼育設備における安全面(漏電火災防止)への配慮/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	45.46	基本水質維持方法:カルシウムリアクター/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
17.18	人工海水:人工海水についてと天然海水との違いについて。海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	47.48	サンゴ飼育に必要な添加剤について:カルシウム・マグネシウム・ストロンチウム・ヨウ素・微量元素/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
19.2	海水魚の分類:観賞用海水魚の生息地域、分類、輸入経路/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	49.5	サンゴ飼育に必要な照明について:メタルハライドランプ・システムLED/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
21.22	ワシントン条約:ワシントン条約概要。ワシントン条約に関わる魚類・爬虫類・海獣類等の種類/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	51.52	サンゴ飼育の水槽システム:ベルリンシステム概要/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
23.24	海水水槽の立ち上げ:淡水魚水槽立ち上げとの相違点について/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	53.54	サンゴの色素について:褐虫藻・色素タンパク質・蛍光タンパク質/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
25.26	生体導入方法:生体導入時の注意点について/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	55.56	海水魚の病気と治療:病気の種類と治療法に関して/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
27.28	海水水槽の日常管理:日常の管理方法と注意点/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	57.58	海水魚の病気と治療:硫酸銅治療に関しての方法及び注意点/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
29.30.	前期学習内容統括:海水水槽維持管理についてのまとめ/海水水槽グループローテーション管理実施、適宣説明。	59.60.	後期学習内容統括:サンゴ水槽維持管理についてのまとめ/サンゴSPS・LPS水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施 適宣説明		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	生物の飼育は日々観察することが重要です。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処してください。水生生物の飼育法は様々ですので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるようにしてください。できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察してください。				
教科書・テキスト	芦田自作テキスト				
参考書	海水魚・海の無脊椎動物1300種図鑑				
評価方法・基準	筆記試験:試験点数の他、演習評価、出席率も評価対象とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	マリン・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	両生・爬虫類研究	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Ampphibians and Reptails	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	講師は専門学校卒業後にペットショップでの勤務とペット用品メーカーでの勤務を経験している。また勤務しながら夜間大学にて教員免許を取得しており、その後専門学校職員としての職に就いている。最終的にフリーランスの専門学校講師に転身した。実務への理解と教育への理解の両面を持ち合わせている。手掛ける分野はエキゾチックアニマル全般で、特に両生爬虫類およびアクアリウムに造詣が深い。多角的な視点で授業を行う。				
授業の概要・目的					
両生爬虫類は近年ペット動物としての注目を集めている。しかしその実態はブームによる一時的な注目に過ぎず、正しい飼育方法や何年生きるかなどの本当に必要な情報が共有されていないのが現状である。その結果遺棄される両生爬虫類がいたり、違法に飼育されるものがいたり、病気になって死んでしまうものが後を絶たない。学生はこれらの問題に直面できるよう、飼育管理や生態における正しい知識を習得する。					
到達目標					
爬虫類と両生類の分類や生理生態を理解し、飼育管理や野外での調査活動に活用できるようになること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	脊椎動物の階層について理解する	16	飼育に必要な飼料にはどのようなものがあるかを理解する		
2	爬虫類の分類(目、科レベル)を理解する	17	飼料のカテゴリ(活餌、冷凍餌、人工飼料)と使い分け方を理解する		
3	両生類の分類(目、科レベル)を理解する	18	飼料の栄養素の違い(三大栄養素とビタミン)を理解する		
4	外温動物と内温動物の生理的な違いを理解する	19	両生類と爬虫類の骨形成に必要なビタミンDと紫外線の関係について説明できるようになる		
5	ワニ目の爬虫類の生態、生理を理解する	20	昼行性の爬虫類の飼育に必要な器具について理解する		
6	有鱗目の爬虫類の生態、生理を理解する	21	夜行性の爬虫類の飼育に必要な器具について理解する		
7	カメ目の爬虫類の生態、生理を理解する	22	両生類の飼育に必要な器具について理解する		
8	無尾目の両生類の生態、生理を理解する	23	照明器具の正しい使い方を説明できるようになる		
9	有尾目の両生類の生態、生理を理解する	24	保温器具の正しい使い方を説明できるようになる		
10	無足目の両生類の生態、生理を理解する	25	ケージの正しい選び方(サイズ、通気性)について理解する		
11	爬虫類、両生類の特徴的なもの(サイズ、行動、寿命)について説明できるようになる	26	人と動物に安全な保定方法を習得する		
12	爬虫類、両生類の一般社会において誤解されている点(毒の有無、食べ物、人との関わり方)について説明できるようになる	27	日照不足により起きやすい代謝整骨疾患について理解する		
13	爬虫類、両生類の自然界で置かれている現状(乱獲、帰化)について説明できるようになる	28	ダニの防ぎ方、駆除の仕方を理解する		
14	爬虫類、両生類の市場でのニーズ(人気種、価格、販売ルート)について説明できるようになる	29	日常的な管理で意識することを説明できるようになる		
15	前期学習内容の総括を行う	30	後期学習内容の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	課題は授業中に適宜指示を与えるが、学生には可能な範囲で野外や飼育施設などで実際に生体を観察することを望む。				
教科書・テキスト	授業内で適宜指示をする。				
参考書	授業内で適宜指示をする。				
評価方法・基準	筆記試験80%、出席率20%で採点する。合計最高得点は100点である。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	環境科学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Environmental Science	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	環境省 みどりの国勢調査 調査責任者				
授業の概要・目的					
現在我々の生活は地球温暖化や環境汚染などの問題を抱えています。自然が再生不可能なペースで破壊され続けているのが現状である。より持続可能な社会を実現するためには、私達人間がどのように環境を破壊してきたかの現状を理解し、劣化した環境の改善に必要な知識を学ぶことを目的とします。					
到達目標					
どのような環境破壊がなされているのか、そこに生息する生物の特徴と生存のためにどのような環境条件を整えるべきかを理解する					
授業計画(テーマ・内容)					
1	生態系(概念、構成要素、食物連鎖、食物網など)を理解する	16	開発と影響(騒音と振動、対策)		
2	栄養段階と同化率(概念、生態系に占める栄養段階ごとの個体数とその計算法)を理解する	17	開発と影響(エッジ効果の概念と要因、エッジ効果を計算で求める)		
3	生物の数の増え方(マルサスモデル、こう害)	18	エッジ効果と環境影響評価法、環境基本法		
4	生物の数の増え方(ロジスティックモデル、環境収容力)	19	個体数減少の悪影響(近交弱勢、雑種形成)		
5	種内競争(概念)を植物や動物ではどのような現象がみられているかを理解する	20	保全区域の形状(サイズ、数)、配置(生態学的回廊)、効果について		
6	種間競争の意義(概念、ニッチ、絶滅、共存)について理解する	21	道路の施工例(アンダーパス、オーバブリッジ、狭さく)		
7	生態系エンジニア、栄養カスケード、最小存続個体数について理解する	22	熱帯雨林の役割と消失による取り組み		
8	ビオトープの多様性(定義、条件、カルテ)と、生態系サービスについて理解する	23	砂漠化はなぜ起こるのか(砂漠の定義、砂漠化の原因と対策)		
9	開発と影響(大気組成、オゾン層、大気汚染、二酸化炭素)	24	漁業資源の乱獲による枯渇、磯焼けと海中林の造成		
10	地球温暖化(メカニズム)と地球環境の変化(深層水の大循環、生物の小型化)、国際的な取り組み	25	都市環境と生物(ヒートアイランド、都市の植生とそこに住む生物)		
11	開発と影響(NO _x 、SO _x 、酸性雨、光化学オキシダント)、大気汚染の防止と自治体が行っている取り組み	26	都市環境と生物(人間への影響:ストレス、病気)		
12	開発と影響(土壌の特徴、土壌汚染源・除去、土壌侵食)	27	エネルギー消費と環境問題と対策(低公害車)		
13	開発と影響(水の循環サイクル、水質汚染源)	28	廃棄物とリサイクル		
14	開発と影響(水質汚染に関係する法律と現状)	29	人口問題(世界的増加、日本減少、食料と水不足)		
15	前期学習の総括を行う	30	後期学習の総括を行う		
授業時間外学修(事前・事後学習等)	授業中に適宜課題を与えます。また授業中に書き留めたメモをもとにノートにまとめる				
教科書・テキスト	なし				
参考書	環境を守る最新知識／信山サイテック、環境生物科学／裳華房、地球環境を考える／放送大学教育振興会				
評価方法・基準	筆記試験、出席率、授業態度				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	ネイチャー・エクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	野生動物調査Ⅱ	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	通年	必選区分	必修
開講科目英名	Wild Animal ResearchⅡ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	120(8)
講師名					
実務経験概要	江藤公俊：環境調査会社に6年間勤務した後、フリーランスの野生動物調査員として、環境アセスメントに関わる鳥類調査や、ワイルドライフマネジメントに関わる哺乳類調査などの業務に携わる。平成26年に(一社)里山いきもの研究所を設立し、里山の野生動物をテーマとした環境教育活動も行っている。 石村彩子：石川県で市町村協議会の鳥獣害対策専門員として主にニホンザルの行動調査や被害対策方法の住民への普及などを行った後、兵庫県森林動物研究センターや(一社)里山いきもの研究所、(株)野生動物保護管理事務所の業務に携わり、ニホンザルの保護管理業務を行う。 森正恵：理科教員として小学校に32年間勤務する。平成27年以降、猟師として狩猟や有害捕獲に携わり、ジビエの普及にも取り組む一方で、(一社)里山いきもの研究所所長として野生動物をテーマとした環境教育活動を行う。神戸市有害鳥獣捕獲実践研修会のコーディネーターや講師も務めている。				
授業の概要・目的					
野生動物の保護管理や環境アセスメントを実施する上で欠かせない仕事の一つに調査業務があります。この演習では、これらの基本的な知識や考え方を学ぶと共に、野生動物と直に向き合う調査業務に必要なスキルを身につけるために、可能な限り野外に出て、フィールドでの経験を積んでいきます。雨天などで野外に出られない場合は、講義で基礎知識を学習したり、調査実習で得たデータをまとめる練習を行ったりします。					
到達目標					
・各自が、鳥類、哺乳類、両生爬虫類、昆虫類などの中から、自分の得意な分野を見つけ、自主性をもって興味や知識を深められるようになること。 ・野外において、野生動物の個体や痕跡を自力で発見し、識別できるようになること。また、野生動物の行動の意味や、環境や季節との関係についても考えられるようになること。 ・野外調査の際に想定される危険(熱中症、危険生物、ケガや遭難、猟期など)について理解し、野外で安全に行動できるようになること。 ・環境アセスメントや野生動物保護管理(ワイルドライフマネジメント)の基本的な概念や考え方を理解すること。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ガイダンスとして授業計画や実習の注意点について説明します。さらに、野生動物に携わる業界や仕事について話します。また、ニホンザル性齢識別実習や鳥類調査実習についての事前学習も行います。	16	シカ・イノシシ痕跡調査実習の説明と、クマやハチなどの危険生物や猟期中の野外調査の注意点など、野外活動における安全管理について学習します。		
2	野鳥観察の基本について、野外での実践を通して学びます。	17	人と野生動物との関係をワイルドライフマネジメント(野生動物保護管理)の視点から捉え、軋轢を少しでも減らし、共存の道を探るために何が必要かについて考察します。		
3	ニホンザルの保護管理に関わる群れの個体数カウント調査で必要とされる性齢等の識別ついて野外での実践を通して学びます。	18	農村部などでは、どのような獣害対策が取られているのか、またその成果や課題は何かについて知り、獣害対策の向かうべき方向について考察します。		
4	野鳥の目視による識別方法について野外での実践を通して学びます。	19	講師が有害鳥獣捕獲を行っている京丹波町の農村地域を歩き、農村の獣害の実情を学んだり、野生動物が出没する現場やくくりわな等の捕獲の様子を見学したりします。		
5	ニホンザル性齢識別実習の振り返りを行ないます。また、ニホンジカ実習についての事前学習も行い、ニホンジカの調査に必要な知識を学びます。	20	道なき尾根に設定された調査ルートを地形図とコンパスを使って歩きながら、野外調査の安全管理について詳しく学びます。		
6	野鳥の鳴き声による識別について野外での実践を通して学びます。	21	道なき尾根に設定された調査ルートを地形図とコンパスを使って歩きながら、シカ糞塊密度調査について野外での実践を通して学びます。		
7	ラインセンサス・定点センサス・任意踏査など、実務的な鳥類調査法について野外での実践を通して学びます。	22	道なき尾根に設定された調査ルートを地形図とコンパスを使って歩きながら、イノシシ痕跡調査について野外での実践を通して学びます。		
8	猛禽類調査の基本、猛禽類の識別方法などについて野外での実践を通して学びます。	23	冬鳥(主に小鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査について野外での実践を通して学びます。		
9	実務的な昆虫採集法、ベイトトラップの設置などについて野外での実践を通して学びます。	24	冬鳥(主に水鳥類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査について野外での実践を通して学びます。		
10	ベイトトラップを回収し、採集した昆虫の標本整理(タウ、三角紙、液浸標本)を行います。	25	秋期・冬期の鳥類調査実習、シカ・イノシシ調査実習、野外調査における安全管理等について振り返り、復習します。		
11	実際に多くのニホンジカ見ることで、性年齢を識別する練習をします。また、環境の違いによってシカの分布に差があるのかを簡単に調査します。	26	冬鳥(主に猛禽類)を識別するトレーニングを行いながら、冬期の鳥類調査について野外での実践を通して学びます。		
12	近年野生動物調査ではセンサーカメラの使用が一般的になっています。それらの画像を解析することも仕事内容として重要です。実習で得た知識を画像解析で活用する練習をします。	27	野外で冬鳥(全般)を自力で発見し、識別するトレーニングを行いながら、任意踏査など鳥類調査の実習を行います。		
13	春期・夏期の鳥類調査実習、ニホンザル・ニホンジカ調査実習、昆虫類調査実習等について振り返り、復習します。	28	野生動物のことを人に伝える目的について考え、その具体的方法や留意点について学びます。		
14	野外で実際に両生類を探しながら、環境アセスメント業務で両生類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	29	実際に自分が野生動物のことを人に伝える場面を想定し、教材や資料を準備して発表し合います。		
15	野外で実際に爬虫類を探しながら、環境アセスメント業務で爬虫類の調査に携わっている講師から、それらの見つけ方や識別方法について学びます。	30	野外で冬鳥(全般)を自力で発見し、識別するトレーニングを行いながら、ラインセンサス・定点センサスなど鳥類調査の実習を行います。		
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	決定版 日本の野鳥650 平凡社				
評価方法・基準	『講義や実習の出席率』と『筆記試験の点数』の平均から成績評価点を算出します。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	コンパニオンアニマル	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Companion Animal	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	大阪第一警察犬訓練学校で警察犬の訓練方法を学び、後独立開業、主に家庭犬訓練を行う、2016年に「犬の幼稚園　ワンツウクラブ」を設立。				
授業の概要・目的					
コンパニオンドッグの講義については犬については約2万年前から人との密接な関係を続けてきた。その犬の性質を深く知る必要がある、講義では犬の問題行動の種類、犬の扱い方、繁殖の方法と犬の育て方、犬の関係で起きるトラブルの解決方法、犬の行動心理を詳しく知識を深め、犬の関係のトラブルの問題、法律解決方法を学ぶ、犬種についても20種類ほどを厳選して学んでいく、講義の動物を観察力を養うために鉛筆画による動物デッサンの講義も行う。HABにおいていは動物を関わる上で特に犬においての問題行動論を学ぶ。					
到達目標					
犬と言う動物をしかかりと知り理解する、犬種20以上の暗記、。犬の基本的な扱い方をしっかりとマスターする。デッサンについては最低一枚は犬のデッサンを完成させる。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	講義の概要と講義の到達目標などの理解を深める。	16			
2	犬が行う仕事の種類、犬と人との歴史について深く知る。	17			
3	血統書の詳しい味方その役割、その問題点についても深く学ぶ。デッサンの方法と観察する意味の理解を深める。	18			
4	問題駆動の種類を深く知る　種類が多いため二回に分けて詳しく理解を深める。	19			
5	犬の長命と人と犬との比較などを詳しく理解を深める。	20			
6	犬のトラブルについて法律的な知識を深める、多方面に渡るために二回に分けて講義を行う。	21			
7	犬種第2G(番犬、警護、作業犬)について深く知る。犬のトラブルについて法律的な知識を深める。	22			
8	犬の繁殖について　①繁殖の方法論について詳しく知識を深める。	23			
9	犬種第3G(穴の中に住む小動物を狩る猟犬)について深く知る。犬の繁殖について②母犬の管理について詳しく知識を深める。	24			
10	犬の繁殖について　③子犬の育て方と訓育の方法論について詳しく知識を深める。	25			
11	犬種第4G(地面に穴に住む動物を狩る猟犬)について深く知る。犬と近い狼について詳しく知識を深める。	26			
12	犬の体調管理と健康管理についてその方法論を詳しく知り理解を深める。	27			
13	犬種第5G(日本犬を含む原始的な犬)について深く知る。	28			
14	犬種第1G～第5Gまでの統括を行う。	29			
15	学習内容の統括を行う。	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	特に無し				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書	犬種スタンダード図鑑				
評価方法・基準	筆記試験を行う。出席点を設ける、100%の者のみ10点を加算する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	ヒューマンアニマルボンド	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Human-Animal Bond	授業形態	講義・演習	時間数（単位数）	60 (4)
講師名					
実務経験概要	大阪第一警察犬訓練学校で警察犬の訓練方法を学び、後独立開業、主に家庭犬訓練を行う、2016年に「犬の幼稚園 ワンツウクラブ」を設立。				
授業の概要・目的	コンパニオンドッグの講義については犬については約2万年前から人との密接な関係を続けてきた。その犬の性質を深く知る必要がある、講義では犬の問題行動の種類、犬の扱い方、繁殖の方法と犬の育て方、犬の関係で起きるトラブルの解決方法、犬の行動心理を詳しく知識を深め、犬の関係のトラブルの問題、法律解決方法を学ぶ、犬種についても20種類ほどを厳選して学んでいく、講義の動物を観察力を養うために鉛筆画による動物デッサンの講義も行う。HABにおいては動物を関わる上で特に犬においての問題行動論を学ぶ。				
到達目標					
犬の問題行動の解決方法とそれに伴う飼い主とのコミュニケーション能力の向上を目指す。					
授業計画（テーマ・内容）					
1	問題行動の講義進め方。問題行動の主な種類について知識を深める。	16			
2	攻撃行動について学ぶ。何故犬が人に攻撃するのか、具体的な事例を上げ理解を深める。	17			
3	分離不安について学ぶ。分離不安の原因、対処法、飼い主へのアドバイス方法を学ぶ。	18			
4	排泄の問題を学ぶ。排泄について本来自然にできるもんだが何故問題になるのか、間違った方法や飼い主の心理などを考え理解を深める。	19			
5	破壊的行動について学ぶ。ありとあらゆるものを破壊する犬は飼育放棄につながる、一つだけの原因ではないことを知り、理解を深める。	20			
6	摂取、肥満管理について学ぶ。太る原因はただ飼い主だけの問題ではなく、人の心の問題が大きく影響していることを深く知る。	21			
7	老齢の問題について学ぶ。動物の医療技術の進歩により高齢の犬が多くなってきた、それにともない高齢の犬の問題が多くなってきたことを知る。	22			
8	手のつけられない行動について学ぶ。飛びつきや暴れる、興奮する、その他、飼い主にとって手に負えない行動について深く知識を深める。	23			
9	吠える問題につて学ぶ。犬の問題で攻撃について一番多い問題である。犬本来の行動であるが何故大きな問題になるかを深く学ぶ。	24			
10	恐れと恐怖症について学ぶ。恐れは多種多様なものが含まれる、解決法もかなり多く、それらを理解を深め学ぶ。	25			
11	常同行動強制行動について学ぶ。特殊な問題行動である、病理的な見地から深く学ぶ必要がある。	26			
12	その他の問題、特殊な問題について学び知識を深める。	27			
13	行動治療に用いられる薬物について学ぶ。薬の効用について詳しくしる。	28			
14	行動のカウンセリング方法、飼い主とのコミュニケーションをどのように深めるかを詳しく学んでいく。	29			
15	学習内容の総括を行う。	30			
授業時間外学修（事前・事後学習等）	特に無し				
教科書・テキスト	特に無し				
参考書	犬種スタンダード図鑑				
評価方法・基準	筆記試験を行う。出席点を設ける、100%の者のみ10点を加算する。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物の栄養	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Nutrition	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で行わなければならない多岐にわたる業務内容の中でも、動物園のキーパーとして必ず身につけておかなければならない基礎となる知識である繁殖、飼料、疾病に関して解説する。これらの知識を身につけることにより、動物園業務の即戦力となることを目指す。					
到達目標					
学生一人一人が各自の理想とする飼育担当者像を構築し、動物園、または動物園以外でも様々な飼育施設において業務を遂行し、動物の福祉を念頭に置いた理想的な業務遂行ができるようになる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	各種動物をヒトにも動物にも安全確実に捕獲保定し、輸送できる方法を理解する。	16			
2	飼育動物を繁殖させるうえで理解しておくべき課題を認識し概説できるようになる。	17			
3	サル類の繁殖を成功に導くための基礎知識を身につけ説明できるようになる。	18			
4	肉食動物の繁殖において特に注意しなければならない点を十分に理解し解説できるようになる。	19			
5	草食動物の繁殖における問題点をしっかりと理解し、概説できるようになる。	20			
6	有袋類の繁殖上の特徴をしっかりと身につけ実践できるようになる。	21			
7	鳥類の繁殖上、注意しなければならない点を十分に把握し、説明できるようになる。	22			
8	爬虫両生類の繁殖上、他の脊椎動物と異なる点を十分に理解し解説できるようになる。	23			
9	野生下と全く違う飼料しか入手できない飼育下にあっても、動物たちの生理に大きな影響を及ぼさない飼料を選択、給餌できるようになる。	24			
10	各種動物それぞれが持つ生理学上の特徴に合致した飼料を給餌できるだけの知識を身につける	25			
11	これまで与えられてきた飼料について、その選択の理由を十分に理解した上で、より良い飼料を組み合わせを確立できるようになる。	26			
12	疾病にり患しても、それを隠そうとする野生動物たちの健康状態を見抜き、説明できるようになる。	27			
13	治療に先駆けて重要となる、病気の予防方法について十分に理解し概説できるようになる。	28			
14	各種動物それぞれが持つ寄生虫症につき理解し、飼育上、特に重要な早期発見、蔓延防止策等について解説できるようになる。	29			
15	学習内容の総括を行う	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限りの機会野生動物のことを学び触れ合う機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック動物園編1				
参考書	「動物園学」 文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルエクササイズ	開講学科	動物&海洋科		
開講科目名	動物園飼育学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Zoo Animal Management	授業形態	講義	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	1974年4月～2012年3月天王寺動物園勤務 主業務は獣医師と管理職業務				
授業の概要・目的					
動物園という博物館相当施設で行わなければならない多岐にわたる業務内容の中でも、動物園のキーパーとして必ず身につけておかなければならない基礎となる知識である繁殖、飼料、疾病に関して解説する。これらの知識を身につけることにより、動物園業務の即戦力となることを目指す。					
到達目標					
学生一人一人が各自の理想とする飼育担当者像を構築し、動物園、または動物園以外でも様々な飼育施設において業務を遂行し、動物の福祉を念頭に置いた理想的な業務遂行ができるようになる					
授業計画(テーマ・内容)					
1	過去の展示の歴史を学び、近代動物園において必要とされる展示方法を概説できるようになる。				
2	近代動物園の持つ社会的使命を全うするための展示計画の立案方法を身につけ解説できるようになる。				
3	各テーマに基づいた展示方法を実施するうえで必要となる知識を理解し、説明できるようになる。				
4	展示を構成する動物たちが彼らの本来の生活に近い状況を飼育下環境で再現できる工夫を身につけ実践できるようになる。				
5	様々な展示技法を学び、それぞれのメリット、デメリットを上手に組み合わせる方法を概説できるようになる。				
6	環境エンリッチメントがこれまでどのようにして動物園の展示を充実させ、動物の福祉の向上に貢献してきたかを概説できるようになる。				
7	環境エンリッチメントを分類し、それぞれのメリット、デメリットを十分に理解し概説できるようになる。				
8	飼育環境改善の技法としての環境エンリッチメントを十分に理解し説明できるようになる。				
9	飼育下環境という限られた環境の制約を軽減する手法としての環境エンリッチメントを概説できるようになる。				
10	展示室と比べると気づかれにくい寝室の環境エンリッチメントについてもしっかりと学習し概説できるようになる。				
11	環境エンリッチメントを実施するうえで衛生管理上の問題点を理解し概説できるようになる。				
12	混合飼育、群れ飼育といった方法も環境エンリッチメントとなりえるが、それに伴うデメリットもしっかりと理解し、解説できるようになる。				
13	飼料を基にした環境エンリッチメントは効果的なものではあるが、実施する上で十分に理解しておかねばならないことを身につけ解説できるようになる。				
14	環境エンリッチメントを実施することにより可能となる定期的な健康診断ではあるがそれに伴うリスクを回避するための方法を理解し解説できるようになる。				
15	後期学習内容の総括を行う				
授業時間外学修(事前・事後学習等)	動物園を訪れたり、動物番組を見たり、できる限りの機会野生動物のことを学び触れ合う機会を持って、積極的に動物園や動物に関する知識を増やす努力をする				
教科書・テキスト	改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編4 展示・教育・研究・広報 改訂版 新・飼育ハンドブック 動物園編5 環境エンリッチメント				
参考書	「動物園学」 文永堂出版				
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	アニマルヘルスケア	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	ナチュラルケア	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Natural Care	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	大阪市のほる動物病院、堺市のクッキー動物病院にて鍼灸漢方専門外来を担当、鍼灸漢方の専門病院「どうぶつのハーモニーケアOHANA」を開院し東洋医学やナチュラルケアによる診療を日々行っている。				
授業の概要・目的					
代替療法についての理解を深め、自分自身に出来る事、また飼主さまに提案出来る事を考え、オーナーへのサービスの一環として、説明実践出来る様な知識と技術を学ぶ。 ・代替療法の種類について学習・理解し、オーナーに説明出来る様にする。 又、飼主向けにホリスティックケアの様々な教室を開催出来る様にする。					
到達目標					
・代替療法の種類について学習・理解し、オーナーに説明出来る様にする。 又、飼主向けにホリスティックケアの様々な教室を開催出来る様にする。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ホリスティックケア総論 ホリスティックケアの意味・種類と内容	16			
2	ドッグマッサージ マッサージの基礎	17			
3	ドッグマッサージ 経絡・気血水について	18			
4	ドッグマッサージ 東洋医学的に見る肉球マッサージ	19			
5	ドッグマッサージ 口腔ケアマッサージ	20			
6	ドッグマッサージ ツボに関連する基礎解剖学	21			
7	ドッグマッサージ 症状別マッサージ	22			
8	ドッグマッサージ 症状別マッサージ	23			
9	ドッグマッサージ 症状別マッサージ	24			
10	ドッグマッサージ 様々なホリスティックケア	25			
11	ドッグマッサージ リンパマッサージ	26			
12	ドッグマッサージ リンパマッサージ	27			
13	様々なホリスティックケア リンパマッサージ	28			
14	まとめ まとめ	29			
15	振り返り 振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	・筆記試験・その他(レポート課題・出席率・授業内評価)				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミング I	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	グルーミング演習	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Basic Grooming I	授業形態	演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	1997年よりトリミングサロン開業。現在に至る。				
授業の概要・目的					
犬の性質をもっと知り研究することで、センスと技術を磨き、次へのステップアップにつながる様にする。 犬の習性、特質などを知り、作業に応じた犬のコントロールを身に着け、犬も自分も負担なく、 何が出来るのかを自ら発見、工夫できるようにする。					
到達目標					
グルーミング犬種(ダックス)90～120分に仕上げるための知識・技術を習得する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ハサミ・ブラッシング・肛門しぼり 頭数15頭スタート。スピードアップ グルーミング演習	16			
2	犬の扱い・保定を研究する グルーミング演習	17			
3	犬種個別の毛質の扱いを知る マルチーズ(ロング・スタンダード)モデル・G	18			
4	耳の中の毛抜ききの時の保定を研究する グルーミング演習・頭数増 17頭	19			
5	ダブルコートのブラッシング・ドライングを研究する ポメ(スタンダード) モデル・G	20			
6	犬の扱い、保定強化でスピードアップ グルーミング演習	21			
7	自己所要時間を知る グルーミング演習	22			
8	想像力を強化し、時間配分を考える グルーミング演習	23			
9	予想・予測・推測ができるように練習する グルーミング演習	24			
10	予想・予測・推測ができるように練習する グルーミング演習	25			
11	もう一度初心にかえり見直し研究する グルーミング演習	26			
12	もう一度初心にかえり見直し研究する ダックス2時間仕上げ	27			
13	もう一度初心にかえり見直し研究する ダックス2時間仕上げ	28			
14	もう一度初心にかえり見直し研究する ダックス2時間仕上げ	29			
15	もう一度初心にかえり見直し研究する ダックス2時間仕上げ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	実技試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	トリミングI	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	グルーミング理論	開講年度	2021	配当年次	1
開講科目英名	Theory of Grooming	開講期間	通年	必選区分	必修
		授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	1997年よりトリミングサロン開業。現在に至る				
授業の概要・目的	犬の性質をもっと知り研究することで、センスと技術を磨き、次へのステップアップにつながる様にする 犬の習性、特質などを知り、作業に応じた犬のコントロールを身に着け、犬も自分も負担なく、 何が出来るのかを自ら発見、工夫できるように				
到達目標	グルーミング犬種(ダックス)90～120分に仕上げるための知識・技術を習得する				
授業計画(テーマ・内容)					
1	・イラスト/・犬種個別のカット法を知る 趾先カットの種類	16	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
2	・イラスト/・犬種個別のカット法を知る 趾先カットの種類	17	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
3	・イラスト/・犬種個別のカット法を知る 趾先バリカンの説明	18	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
4	・イラスト/・犬種個別のカット法を知る 趾先バリカンの説明	19	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
5	・犬の扱い/・保定法/・耳の中の毛の抜き方 マルチーズ(ロング・スタンダード)理論 マルチーズ(ロング・スタンダード)モデル・G	20	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
6	・犬の扱い/・保定法/・耳の中の毛の抜き方 マルチーズ(ロング・スタンダード)理論 マルチーズ(ロング・スタンダード)モデル・G	21	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
7	・バリカンの使い方 趾先バリカンモデル・G	22	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
8	・バリカンの使い方 趾先バリカンモデル・G	23	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
9	・犬の扱い/・保定法/・ダブルコートのブラッシング法 ポメ(スタンダード)理論 ポメ(スタンダード)モデル・G	24	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
10	・犬の扱い/・保定法/・ダブルコートのブラッシング法 ポメ(スタンダード)理論 ポメ(スタンダード)モデル・G	25	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
11	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング	26	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
12	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング	27	・ピンブラシの使い方/・コームの使い方 グルーミングドールブラッシング		
13	・イラスト/・まとめ、ふりかえり 理論範囲発表	28	・イラスト/・まとめ、ふりかえり 理論範囲発表		
14	・イラスト/・まとめ、ふりかえり 理論まとめ	29	・イラスト/・まとめ、ふりかえり 理論まとめ		
15	・イラスト/・まとめ、ふりかえり 理論振り返り	30	・イラスト/・まとめ、ふりかえり 理論振り返り		
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生・関係法規	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	公衆衛生	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Public Health	授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的					
個々の動物の命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生について学び、さまざまな疾病予防、健康維持および増進に役立てる総合的な科目である。人畜共通感染症・食品衛生・環境衛生について学ぶ。 公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全に活かせる知識を身につける。					
到達目標					
公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全に活かせる知識を身につける。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	公衆衛生学総論 公衆衛生の概念、将来の仕事への意義	16			
2	微生物概論 微生物とは・菌を身近に感じる	17			
3	感染症とは 感染と予防・病原体・伝播経路・宿主とは何か	18			
4	微生物概論 細菌とウイルス	19			
5	微生物概論 細菌とウイルス	20			
6	微生物概論 細菌とウイルス・殺菌と消毒	21			
7	ウイルス性ズーノーシス総論 ウイルス 種類と構造	22			
8	ウイルス性ズーノーシス各論 狂犬病と狂犬病予防法	23			
9	ウイルス性ズーノーシス各論 狂犬病と狂犬病予防法	24			
10	ウイルス性ズーノーシス各論 インフルエンザ(新型・高病原性・フェレット)	25			
11	ウイルス性ズーノーシス各論 その他のウイルス性ズーノーシス(腎症候性出血熱・日本脳炎・E型肝炎・SARS／ウエストナイル熱など)	26			
12	その他ズーノーシス BSE・口蹄疫と食肉衛生・E型肝炎	27			
13	細菌性ズーノーシス各論 レプトスピラ症とワクチン	28			
14	前期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	動物看護コアテキスト(ファームプレス)				
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	公衆衛生・関係法規	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物感染症学	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Infection	授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	動物病院 動物看護師				
授業の概要・目的	感染・発症の定義、感染症の成り立ちについて学び、衛生管理、予防、治療法など感染症対策の基礎を習得する。また感染防御に重要な免疫学の基礎についても学ぶ。主にイヌやネコの感染する微生物と寄生虫について、構造、分類、感染経路、予防法を学び、動物と飼い主の健康をサポートできる人材を目指す。				
到達目標	病原性微生物や寄生虫の伝播様式や発症のメカニズムを理解し、感染症の予防と看護、飼い主へのアドバイスに活かせるようになる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	はじめに シラバスについて/動物を飼うということ	16			
2	外部寄生虫1 ノミ、シラミ、ハジラミについて	17			
3	外部寄生虫2 マダニについて	18			
4	外部寄生虫3 ヒゼンダニ類について	19			
5	外部寄生虫4 ツツガムシ類について	20			
6	内部寄生虫1 内部寄生虫の分類と特徴	21			
7	内部寄生虫2 虫類(回虫、鉤虫、鞭虫)について	22			
8	内部寄生虫3 線虫類(糞線虫、犬糸状虫)について	23			
9	内部寄生虫4 吸虫類(つぼ型吸虫ほか)について	24			
10	内部寄生虫5 条虫類(瓜実条虫、マンソン裂頭条虫)について	25			
11	内部寄生虫6 条虫類(その他)について	26			
12	内部寄生虫7 原虫類(コクシジウム)について	27			
13	内部寄生虫8 原虫類(ジアルジア、トリコモナス、バベシア 他)について	28			
14	後期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	寄生虫ビジュアルガイド(出版社 インターズー)				
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	人と動物と自然の関係学	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物福祉・倫理	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Welfare and Ethics	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	・動物病院における福祉の考え方について、学び、考える、また事例を知る ・グリーフケア、終末期医療、安楽死について学ぶ ・トリアージや疼痛サインについて学ぶ ・動物看護師としての対応や考え方ができるようになる ・自分で考え、それを表現できるようになる				
到達目標	・動物看護師としての対応や考え方ができるようになる ・自分で考え、それを表現できるようになる				
授業計画(テーマ・内容)					
1	動物看護師の役割/動物病院における福祉① 動物看護師とは、(愛玩動物看護師)について知る Five freedomsの観点から動物病院の福祉について考える	16			
2	動物病院における福祉②/実際の取り組み例 動物病院における福祉としてどのような事ができるか、注意すべきか 事例をふまえながら知る	17			
3	ストレスとストレスサイン ストレスとは何か 動物のストレスサインにはどのようなものがあるか知る	18			
4	疼痛サイン、ケーススタディー 疼痛サインについて知る 様々な状況における、動物への接し方、保定について考察する	19			
5	高齢期と終末期のケア 高齢期と終末期のケア、QOLについて オーナーへの接し方について考える	20			
6	ケーススタディー 患者の気持ちを症例を適して知り、考え、 看護師としての対応を考える	21			
7	安楽死 安楽死についての知識を得、考察する	22			
8	ペットロスとグリーフケア① ペットロスとグリーフケアについての基本的な知識を得る	23			
9	ペットロスとグリーフケア② 動物が亡くなった際の看護師としての対応について考える	24			
10	緊急時の対応 トリアージの方法 緊急時における院内での対応について知る	25			
11	前期まとめの準備 前期まとめの対策と総まとめ グループ分け	26			
12	前期まとめ 総括的なまとめ	27			
13	振り返り① 質疑応答	28			
14	振り返り② グループワーク	29			
15	しつけと災害時について 必要なしつけと災害時の対応について知る	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	動物看護コアテキスト/ファームプレス				
評価方法・基準	・授業中のグループワーク、出席率、態度、課題及びに口頭試問の総合点				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物医療コミュニケーション	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Medical Communication	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師				
授業の概要・目的					
動物看護師として、飼い主及び従事する職場のスタッフからの信頼を得て、更に社会に貢献できる人材となるために必要なスキルを学ぶ。挨拶・身だしなみの重要性を理解し、言葉遣い、立ち居振る舞いなど、主に、飼い主の対応に必要な基本を身につける。また、受付業務や、飼い主への対応など、高頻度業務を実技で学ぶ。動物看護師は、動物病院の顔ともなる。また、飼い主と獣医師を繋ぐ、非常に重要なポジションとして従事することも多く、その為に必要なスキルを学び、習得する。					
到達目標					
動物医療を提供するチームの一員であることを自覚し、その為に必要な、サービスマインドやビジネスマインドを身につける。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	自己紹介(自分を知る) 自己分析・他己分析(自分の経験の棚卸)	16			
2	自己紹介 自己分析・他己分析(将来像について)	17			
3	第一印象・社会人のスキル 身だしなみ・健康管理	18			
4	傾聴力・伝達力 聴き方(傾聴力)・話し方(伝え方)	19			
5	心に寄り添う 共感力の高め方	20			
6	コミュニケーションスキル ノンバーバルコミュニケーション	21			
7	ビジネスマナー 敬語の種類	22			
8	ビジネスマナー 敬語の使い方(ロールプレイング)	23			
9	履歴書の書き方① 基本的な履歴書の書き方	24			
10	履歴書の書き方② 履歴書の書き方(自己アピール・志望動機)	25			
11	履歴書の書き方③ 志望企業に合わせた履歴書の書き方	26			
12	ビジネスマナー 気を付けたい言葉遣い	27			
13	ビジネスマナー 気を付けたい言葉遣いの使い方(ロールプレイング)	28			
14	前期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	コミュニケーションスキルアップ検定				
参考書					
評価方法・基準	課題提出や出席日数など総合的に評価を行う				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護 I	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	基礎薬理学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Phamacology	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師				
授業の概要・目的					
基礎知識として、薬理学の概念、薬理作用と作用機序、薬物の体内動態、有害作用などについて学ぶ。各論として、生体に対する薬物を系統的に理解する。獣医師の処方する薬に対する基本知識を獲得することにより、薬の効能を最大限に発揮し、副作用を最小化するために、飼い主への正しい服薬指導(副作用の説明も含む)や、投薬前後の動物の状態変化にいち早く気づくことができるようになる。					
到達目標					
薬理作用と作用機序、薬物の体内動態、有害作用や、代表的な薬物の作用、副作用を理解する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	薬理総論(剤形)・神経系に作用する薬物 剤形・中枢神経作用薬	16			
2	薬理各論(神経系に作用する薬物) 中枢神経作用薬	17			
3	薬理各論(寄生虫に作用する薬物) 寄生虫に作用する薬物(原虫・蠕虫・衛生動物)	18			
4	薬理総論(薬の基本知識) 薬物動態(ADME)・薬理作用・基本の言葉・毒薬・劇薬	19			
5	薬理総論(薬の基本知識) 有害作用(副作用・中毒作用・薬物アレルギー・薬物依存・耐性)	20			
6	薬理総論(薬の基本知識) 薬効に影響を与える因子	21			
7	薬理総論(薬の基本知識) 薬効に影響を与える因子	22			
8	薬理総論(薬の基本知識) 略語・単位(計算)	23			
9	薬理総論(薬の基本知識) 薬用量の計算	24			
10	薬理総論(薬の基本知識) 薬用量の計算	25			
11	薬理総論(薬の基本知識) 輸液療法	26			
12	薬理総論(薬の基本知識) 輸液療法	27			
13	前期まとめ	28			
14	振り返り	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	動物の疾病と予防および回復3(ファームプレス)				
参考書					
評価方法・基準	・筆記試験 ・出席日数 ・課題				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物看護演習Ⅰ	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Nursing Exercise	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	エキゾチックアニマル診察の動物病院にて獣医師として勤務				
授業の概要・目的					
動物病院内業務について学ぶ。 犬・猫の体のしくみを理解し、看護に活かせるための知識、手技を習得する					
到達目標					
授業計画(テーマ・内容)					
1	ワクチン、フィラリア予防 ワクチン・フィラリア予防の知識	16			
2	ワクチン、フィラリア予防 ワクチン・フィラリア予防の知識	17			
3	食事管理 栄養と食事	18			
4	食事管理 栄養と食事	19			
5	食事管理 栄養と食事	20			
6	血液検査 血液検査の意義と手技	21			
7	血液検査 血液検査の意義と手技	22			
8	血液検査 血液検査の意義と手技	23			
9	血液検査 血液検査の意義と手技	24			
10	尿検査 尿検査の意義と手技	25			
11	尿検査 尿検査の意義と手技	26			
12	尿検査 尿検査の意義と手技	27			
13	復習	28			
14	まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	実技試験、筆記試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護 I	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物繁殖学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal(Dog)Breeding	授業形態	講義	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的					
繁殖は動物が存続する上で欠かせないものであり、雌雄がそれぞれ成長して生殖能力を有し、受精により新たな生命が誕生する神秘的な営みである。主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動および発情・交尾・妊娠・分娩の家庭を学ぶ。さらに、正常な分娩の全長、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。また産じょく期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へアドバイス出来るまで学習を進める。また、ブリーディングにおいて知っておかなければならない交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める。					
到達目標					
主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動および発情・交尾・妊娠・分娩の家庭を学ぶ。さらに、正常な分娩の全長、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。また産じょく期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へアドバイス出来るまで学習を進める。また、ブリーディングにおいて知っておかなければならない交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	繁殖とは	16			
2	犬の繁殖生理 犬の発情周期	17			
3	犬の繁殖生理 犬のホルモンについて	18			
4	猫の繁殖生理 猫の発情周期	19			
5	猫の繁殖生理 猫のホルモンについて	20			
6	交配と妊娠診断 犬と猫の交配について	21			
7	交配と妊娠診断 犬と猫の妊娠診断について	22			
8	妊娠中の健康管理 必要な栄養素と行動管理	23			
9	分娩 分娩と介助	24			
10	子犬、子猫のケア 子犬・子猫の成長とケア	25			
11	遺伝・遺伝性疾患 遺伝とは何か	26			
12	遺伝・遺伝性疾患 遺伝する病気について	27			
13	毛色について 毛色のしくみ	28			
14	前期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護 I	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床検査学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Clinical Examination	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30 (2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	動物病院における様々な検査について、各自で理解し、スムーズに行える様に実践的な授業を行う。 1年次に学んだ演習内容を基礎にし、検査内容の理解、必要性について自分で考えられるようになること。				
到達目標	1年次に学んだ演習内容を基礎にし、検査内容の理解、必要性について自分で考えられるようになること。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	顕微鏡 顕微鏡の使い方	16			
2	レントゲン検査・保定 レントゲン検査のための保定を行う	17			
3	レントゲン検査・保定 レントゲン検査のための保定を行う	18			
4	レントゲン検査・保定 レントゲン検査のための保定を行う	19			
5	レントゲンの評価法 レントゲン解剖・疾病のレントゲンを診る	20			
6	レントゲンの評価法 レントゲン解剖・疾病のレントゲンを診る	21			
7	レントゲンの評価法 レントゲン解剖・疾病のレントゲンを診る	22			
8	心電図 心電図の理論	23			
9	心電図 心電図の理論	24			
10	身体検査・聴診 聴診器を用いて聞こえる雑音を学ぶ	25			
11	身体検査・聴診 聴診器を用いて聞こえる雑音を学ぶ	26			
12	まとめ 復習	27			
13	まとめ 復習	28			
14	振り返り 振り返り	29			
15	振り返り 振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	動物看護コアテキスト				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験、実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	東洋医学	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Oriental Medicine	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的					
東洋医学独特の考え方や理論を理解し、補完・代替医療としての東洋医学と将来の仕事をつ結び付けて考える。 東洋医学の理論に基づき、動物や自分自身の体質・体調を見極め、動物のケアやセルフケアに活用する。また、動物病院の仕事に活かせるよう、知識や技術の習得に努め、就職活動のアピールポイントとして活用する。					
到達目標					
東洋医学の理論に基づき、動物や自分自身の体質・体調を見極め、動物のケアやセルフケアに活用する。また、動物病院の仕事に活かせるよう、知識や技術の習得に努め、就職活動のアピールポイントとして活用する。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	東洋医学基礎 東洋医学の概要	16			
2	東洋医学基礎 自分の体質診断チェック	17			
3	東洋医学基礎 鍼灸デモンストレーション	18			
4	東洋医学基礎 陰陽の考え方、八綱弁証	19			
5	東洋医学基礎 八綱弁証	20			
6	東洋医学基礎 気血水の考え方	21			
7	東洋医学基礎 気血水とは	22			
8	東洋医学基礎 五行の考え方①・五行による性格診断	23			
9	東洋医学基礎 五行の考え方②	24			
10	東洋医学基礎 東洋医学的体質診断まとめ(定性)	25			
11	東洋医学基礎 経絡経穴、四診(舌診・脈診)	26			
12	東洋医学基礎 漢方・薬膳について	27			
13	東洋医学基礎 薬膳作り実習	28			
14	後期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	犬猫に効くツボ・マッサージ/世界文化社				
評価方法・基準	筆記試験、授業態度、出席率				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物外科看護学実習Ⅰ	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of surgery Animal nursingⅠ	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	勤務獣医師				
授業の概要・目的	手術は動物病院における業務の中で最も重要な位置づけにあります。獣医師による手術が安全にかつスムーズに行われるためには、動物看護師のサポートは必要不可欠です。施設によって動物看護師が手術に関わる形態は様々ですが、授業の前半で学ぶことは、獣医師の意向にかかわらず最低限必要とされる内容です。後半では実際に手術のメンバーとしてオベ室に入った場合に求められる基本的な知識、動きを紹介します。看護師として求められる手術に関連する動物の扱い方、準備、処置について学ぶ。				
到達目標	手術に直接関わるメンバーとして求められる人材になれる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション オリエンテーション 実習猫の検査 犬の保定	16			
2	保定 犬の保定 大型犬	17			
3	手術準備① 術前検査 術着とドレープのたたみ方 血液検査(塗抹含む)	18	レントゲン、エコー、ECGの保定		
4	手術準備② 薬剤と点滴の扱い	19			
5	手術準備③ 留置確保の準備と保定	20			
6	手術準備④ 気管挿管の準備と保定	21			
7	手術器具について オベ器具の使い方 腹帯の作り方	22			
8	術式と看護記録 避妊の術式解説 去勢の術式解説 看護記録の付け方	23			
9	エキゾチックアニマルなど 猫の外科 エキゾチックアニマルの外科 穿刺処置、カテーテル、内服薬について	24			
10	手洗いの方法 術着の着用 グローブの着用	25			
11	麻酔管理について 麻酔薬について 麻酔機器の使い方 麻酔管理のしかたについて	26			
12	復習① 麻酔全般について	27			
13	復習② 麻酔管理 保定全般	28			
14	前期まとめ	29			
15	振り返り デモ麻酔	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	動物看護実習テキスト、補足としてのプリント資料配布予定				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験、実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物看護演習Ⅱ	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal NursingⅡ	授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	開業獣医師として動物病院を経営				
授業の概要・目的					
動物看護師としての業務は多岐にわたり、病院での診察が行われるために様々な事を担当します。この科目では、1年次に行った事の復習も兼ねながら、学んだ知識や技術を、よりスムーズに行えるように習得する事を目指します。動物病院以外のスタッフの場合でも、獣医療に関する知識や技術は、動物を扱う上で必ず役立つと思います。動物看護師としての必要な基本的な知識、技術、検査手技の学習。					
到達目標					
動物病院に勤務する上で、最低限身に付けておいてほしい獣医療知識の習得と、病院の日常業務や検査手技をスムーズに行えるようにする事が目標。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	オリエンテーション オリエンテーション、将来の希望(各自自己紹介)、避妊、去勢のビデオ説明、解剖の復習講義	16			
2	身体検査と保定 全身検査とバイタルサインの授業、保定方法、体重測定、T. P. R. 触診、視診、聴診	17			
3	心臓の病気 聴診 心臓疾患、聴診器の使い方、心臓と呼吸器の聴診法、心音テープによる学習、身体検査の復習 超音波による心臓の確認	18			
4	耳の疾患 耳の疾患、耳垢検査 検査に必要な染色の種類と方法について 顕微鏡の扱い方について	19			
5	眼の疾患 眼の解剖、機能の解説、眼科疾患(白内障まで)、眼科検査方法、眼科検査実習、点眼法、眼底検査(散瞳剤使用)	20			
6	口腔疾患 歯と歯周疾患、口腔疾患の解説、歯科ビデオ、ハンドスケーリング実習	21			
7	皮膚疾患 皮膚構造、皮膚病変、皮膚疾患の解説、皮膚検査法の解説、皮膚検査実習(毛検査、テープ法、ウッドライト、真菌培養)	22			
8	糞便検査と寄生虫疾患 寄生虫と寄生虫疾患の解説、ズーノーシスの解説、糞便検査実習	23			
9	腎臓疾患と尿検査 腎臓の解剖、機能、腎疾患の解説、尿検査法の解説、採尿法、尿カテーテル法、尿検査実習 超音波による確認	24			
10	肝臓、脾臓疾患 肝臓の解剖、機能、肝臓疾患、超音波による肝臓、脾臓の確認、血液検査による肝機能検査	25			
11	血液検査 血液検査の解説、採血時の保定方法、血液検査(CBC、血液生化学検査)の解説と実習	26			
12	CBC、血液塗抹検査 血液リンパ系の解説、採血、血液塗抹標本作成実習、塗抹標本の見方の説明	27			
13	前期まとめ対策 血液疾患(貧血性疾患)、前期試験の対策と実技練習	28			
14	前期まとめ 実技(血液塗抹作成、白血球分類)、筆記	29			
15	振り返り 解説と振り返り、前期小テストの全問題試験、カルテ用語、略語学習	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト	プリント資料配布				
参考書					
評価方法・基準	筆記試験/実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物看護Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物臨床看護学実習	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Practice of Animal Clinical Nursing	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的					
動物看護師の業務について基礎的な知識を身に付けるとともに実際の業務を体験する。実際の業務に触れることを第一の目標とし、業務への取り組み方、心構え、根気を身に付ける。					
到達目標					
実際の業務に触れることを第一の目標とし、業務への取り組み方、心構え、根気を身に付ける。					
授業計画(テーマ・内容)					
1	看護実習心構え 動物看護師を目指して学習するにあたり、動物看護師をとりまく現状と目指すべき動物看護師像について	16			
2	カルテについて カルテの書き方、共通した用語について	17			
3	保定1 身体各部の名称、共通の用語について、体の器官のあらまし。実習犬に触れることで生体の扱いの基本を学ぶ。	18			
4	保定2 実習の保定について、それぞれの検査に応じた保定のパターンや保定器具の実際の使用、採血時の保定をイメージしてもらう。	19			
5	身体検査 身体一般検査とその表現の仕方	20			
6	医薬品について 医薬品の取り扱いについて基本的な知識を身に付ける。薬用量の計算についても	21			
7	投薬法の違い(経口実習) 投薬のための調剤方法や、投薬の仕方。実際の投薬。コンプライアンスについて。	22			
8	注射投与・点滴 ルートの違いはということなのか。点滴投与のについても学ぶ。点滴の計算を覚える。	23			
9	注射薬と取り扱いと実習 注射薬と取り扱いと実習	24			
10	臨床検査 顕微鏡の使い方、遠心分離器や比重計など一般的な検査器具の基本的な扱い方を身に付ける	25			
11	尿検査 尿検査(ペーパー・沈渣・比重)を実際に行う	26			
12	便検査 便検査(直接・浮遊)	27			
13	前期復習 リクエストにより前期もう少しやりたかったことを補う	28			
14	前期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修(事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	筆記試験/実技試験				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物行動学Ⅰ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	人間動物関係学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Human and animals Relation	授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	獣医師				
授業の概要・目的	人間と動物との関係(与える影響、家畜化、働きに応じた分類など)、権利・福祉・愛護の相違点、実際起こっている問題を知り、考察する。人と動物の関係について知り、様々な動物の状況や関わっている問題に対して複数の観点から考察できる様になる。				
到達目標	様々な観点から考察し、動物看護師として自らの意見を持ち、表現する事ができる。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	人と動物の関係 オリエンテーション 歴史における人と動物の関係。家畜化。人と関わりのある動物にはどのようなものがあるか	16			
2	人と動物の関係 動物が人に与える影響および、人が動物に与える影響について	17			
3	動物の権利と福祉 総論 (権利と福祉、それぞれの考え方)	18			
4	動物の権利と福祉 産業動物、使役動物の福祉について	19			
5	動物の権利と福祉 野生動物、展示動物、その他の動物の福祉について	20			
6	動物愛護 動物愛護の考え方 法律 愛護センター	21			
7	動物愛護 動物愛護における実際と問題 殺処分	22			
8	問題考察 野良猫、地域猫について考える	23			
9	問題考察 多頭飼い、動物虐待について考える	24			
10	問題考察 避妊・去勢、感染症 について考える	25			
11	伴侶動物の幸福 伴侶動物の幸せとはどのようなものかについて考える	26			
12	伴侶動物の幸福 伴侶動物が幸せに暮らすにはどうすれば良いかについて考える	27			
13	動物病院における福祉 動物病院の仕事、福祉	28			
14	前期まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	動物看護コアテキスト 人と動物の関係(出版社 ファームプレス)				
評価方法・基準	筆記試験 レポート				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物行動学 I	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	動物行動学	開講年度	2021	配当年次	3
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Dog Behavior	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	家庭犬・警察犬訓練士 犬のようちえん代表				
授業の概要・目的	犬の問題行動を学ぶことは犬の仕事をする上でかならず必要となる。そのためには飼い主さん、犬の心理を学び専門的に学ぶ必要がある。講義では具体的な事例とその対策、また法律的な視点からも進め理解を深める。 机上での講義で問題行動の対策は難しい場合もあるので、学生同士の討論会や学生自身で考える時間を作り、問題行動の本質に迫り、理解を深める。				
到達目標	机上での講義で問題行動の対策は難しい場合もあるので、学生同士の討論会や学生自身で考える時間を作り、問題行動の本質に迫り、理解を深める。				
授業計画(テーマ・内容)					
1	問題行動について具体的に考える。 問題行動については一学年の時に触れたがここでは深く犬と飼い主さんの心理を深く学ぶ。	16			
2	問題行動について具体的に考える。 問題行動については一学年の時に触れたがここでは深く犬と飼い主さんの心理を深く学ぶ。	17			
3	犬の本質について具体的に学ぶ。 犬と人との違いとその本質について理解し、支配性の問題行動について学ぶ。	18			
4	犬の本質について具体的に学ぶ。 犬と人との違いとその本質について理解し、支配性の問題行動について学ぶ。	19			
5	犬の動きについて学ぶ。 犬の動きについては誤解していることが多いが、それらを知ることは問題行動を知る多くの鍵となり理解する手掛かりとなる。	20			
6	噛むということについて学ぶ。 犬が噛むと言う事は本来の特性でもあるが飼い主さんにとって大きな問題となる。それらの種類と対策について理解する。	21			
7	噛むということについて学ぶ。 犬が噛むと言う事は本来の特性でもあるが飼い主さんにとって大きな問題となる。それらの種類と対策について理解する。	22			
8	犬の社会化について考える。 問題行動を学ぶ上で社会化については見過ごすことができない、具体的に学び理解する。	23			
9	犬の社会化について考える。 問題行動を学ぶ上で社会化については見過ごすことができない、具体的に学び理解する。	24			
10	威嚇する犬について学ぶ。 犬が飼い主さんに威嚇する行動は攻撃行動の前兆とも言えるが、それらの理由と心理を学び理解する。	25			
11	威嚇する犬について学ぶ。 犬が飼い主さんに威嚇する行動は攻撃行動の前兆とも言えるが、それらの理由と心理を学び理解する。	26			
12	トレーニングの歴史 今回は視点を少し変えて日本におけるトレーニングの歴史を考える。本来はトレーニングは飼い主さんで行う必要があるが、日本の場合はそれが訓練士任せ。	27			
13	トレーニングの歴史 今回は視点を少し変えて日本におけるトレーニングの歴史を考える。本来はトレーニングは飼い主さんで行う必要があるが、日本の場合はそれが訓練士任せ。	28			
14	犬に関するトラブル 問題行動を学ぶ上で法律的知識を身につけることは重要である。具体的な例を上げて学ぶ。	29			
15	犬に関するトラブル 問題行動を学ぶ上で法律的知識を身につけることは重要である。具体的な例を上げて学ぶ。	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	書 籍 名:犬の問題行動について、ザ・カルチャークラッシュ 出版社名:内田 圭子、ジーン・ドナルドソン				
評価方法・基準	評価の割合は筆記試験50%、出席率40%、授業への取り組み等10%で、最高評価点数を100とする。				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物飼養管理 I	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	飼養管理学	開講年度	2021	配当年次	1
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Animal Breeding Management	授業形態	講義・演習	時間数(単位数)	60 (4)
講師名					
実務経験概要	動物病院 院長・獣医師				
授業の概要・目的	・エキゾチックアニマルの形態・生理・飼育管理・疾病を知り、看護に役立てる ・入院管理に役立つ保定・給餌方法を知る 各種動物の特性を知ることによって疾病時の看護に役立てる				
到達目標	・入院した動物の特性に合わせた管理が的確にできるようにする ・飼い主に動物に関するアドバイスをを行い、正しい飼育管理ができるようにする				
授業計画(テーマ・内容)					
1	ウサギ ウサギの保定	16			
2	ウサギ 強制給餌	17			
3	ウサギ 入院管理	18			
4	ウサギ/フェレット ウサギの疾病 フェレットの診療	19			
5	フェレット フェレットの特徴・飼育	20			
6	フェレット フェレットの疾病・入院管理	21			
7	鳥 鳥の分類・携帯・生理	22			
8	鳥 鳥の診療・疾病・保定	23			
9	鳥 鳥の疾病・入院管理	24			
10	ハリネズミ ハリネズミの生態・飼育・疾病	25			
11	ミニブタ ミニブタの生態・飼育	26			
12	デグー デグーの生態・飼育・疾病/後期総復習	27			
13	後期まとめ	28			
14	振り返り／マウス・ラット 後期振り返り/マウス・ラットの形態・生理	29			
15	資格試験対策 資格試験に向けた重要事項確認	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物飼養管理Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	産業動物学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	前期	必選区分	必修
開講科目英名	Introduction to Industrial Animals	授業形態	講義	時間数(単位数)	30(2)
講師名					
実務経験概要	動物病院院長・獣医師				
授業の概要・目的					
産業動物の歴史や品種、飼育管理法および畜産業など社会との関わりについて学ぶ。 獣医学に係る対象動物のうち、主に産業動物についての知識を得ること。					
到達目標					
認定動物看護師試験合格					
授業計画(テーマ・内容)					
1	産業動物とは 定義、社会的位置づけ、取り巻く法律など	16			
2	産業動物臨床 産業動物臨床獣医師の仕事について。	17			
3	産業動物臨床 産業動物臨床獣医師の今後について。	18			
4	関連法規や規則 HACCPから屠畜場法まで	19			
5	家畜牛の種類・解剖・生理 牛の身体の特徴を知る	20			
6	主な牛の病気と治療 病気予防(ワクチン含む)から多くみられる疾患	21			
7	主な牛の病気と治療 病気予防(ワクチン含む)から多くみられる疾患とその対処法	22			
8	・馬の種類・解剖・生理　・主な馬の病気と治療 馬の身体の特徴を知る 病気予防(ワクチン含む)から多くみられる疾患、対処法まで	23			
9	家畜豚の種類・解剖・生理 豚の身体の特徴を知る	24			
10	主な豚の病気と治療 病気予防(ワクチン含む)から多くみられる疾患、対処法まで	25			
11	家禽の種類・解剖・生理 鶏の身体の特徴を知る	26			
12	主な家禽の病気と治療 病気予防(ワクチン含む)から多くみられる疾患、対処法まで	27			
13	蜜蜂・養殖魚・羊・山羊 代表的な疾患について	28			
14	まとめ	29			
15	振り返り	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書					
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				

授業科目名	動物飼養管理Ⅱ	開講学科	動物高度医療科		
開講科目名	野生動物学	開講年度	2021	配当年次	2
		開講期間	後期	必選区分	必修
開講科目英名	Introduction to Wild Animals	授業形態	講義	時間数(単位数)	60(4)
講師名					
実務経験概要	動物病院院長・獣医師				
授業の概要・目的	・野生動物と共存するために ・身近な野生動物とその暮らし ・傷害野生鳥獣の救護と取扱い ・関連法規 ・身近にいる野生動物に関する知識を身に付け、救護個体の適正な取り扱い、看護を習得 ・野生鳥獣と共存の啓発を行えるように				
到達目標	・身近にいる野生動物に関する知識を身に付け、救護個体の適正な取り扱い、看護を習得 ・野生鳥獣と共存の啓発を行えるように				
授業計画(テーマ・内容)					
1	総論 野生動物救護の現状と課題 鳥獣害、保全、動物園の役割	16			
2	総論 鳥獣害、保全、動物園の役割	17			
3	野鳥の救護Ⅰ 野鳥の救護、総論	18			
4	野鳥の救護Ⅱ 野鳥の各論(スズメ、ツバメ、ヒヨドリ、ムタドリ)	19			
5	野鳥の救護Ⅲ メジロ、ジシュウカラ、カワラヒワ、ドバト、キジバト、セキレイ	20			
6	野生哺乳動物の救護Ⅰ 野生哺乳動物の救護総論、各論(タヌキ、ハクビシン)	21			
7	野生哺乳動物の救護Ⅱ 野生哺乳動物の救護総論、各論(タヌキ、ハクビシン)	22			
8	野生動物関連法規 国際環境法、環境基本法、個別の自然、保護法、外来生物法	23			
9	野生動物関連法規 国際環境法、環境基本法、個別の自然、保護法、外来生物法	24			
10	野鳥の救護Ⅲ カモ類、サギ類、ワシタカ類、フクロウ類、ミズナギドリ類、カモメ、アジサシ類	25			
11	野鳥の救護Ⅳ ツブミ、オナガ、カラス類、ウグイス類、ヒタキ類	26			
12	後期まとめ	27			
13	振り返り	28			
14	野鳥の救護Ⅳ ツブミ、オナガ、カラス類、ウグイス類、ヒタキ類	29			
15	野生哺乳動物の救護Ⅱ ムササビ、モモンガ、ニホンジカ、ニホンヤマネ、ノウサギ	30			
授業時間外学修 (事前・事後学習等)					
教科書・テキスト					
参考書	野生動物救護ハンドブック(出版社 文永堂出版)				
評価方法・基準	筆記試験100%				
成績評価	評価点数80点以上をA、79点～70点をB、69点～60点をCとし、59点以下をD評価とする。ただしA、BおよびCを合格とし、Dを不合格とする。				